

| | |
|--------------------|---|
| 授業科目名 | スポーツ・ヘルスプロモーション論概論 |
| 科目番号 | 0ATS011 |
| 単位数 | 2.0 単位 |
| 標準履修年次 | 1・2 年次 |
| 時間割 | 春 AB 水 7,8 |
| 担当教員 | 菊 幸一, 高橋 義雄, 尾縣 貢, 山口 香, 久野 譜也, 柴田 愛, 水上 勝義, 辻 大士 |
| 授業概要 | 現代社会におけるスポーツプロモーションとヘルスプロモーションの理念を理解し、その相互の合理的な関係化による相乗的効果を上げることの重要性について学習する。スポーツとヘルスの相関的・相乗的な関係の基本理念とその哲学について、人間存在の生理的・心理的・社会的な特質との関係から概説する。また、現代社会における長寿化人生、ハイテク・情報化生活等の生活変容に注目しながら、人間存在の現代的課題を取り上げ、そこにおけるスポーツ文化享受による健康開発の可能性を環境世界、社会・文化生活、諸個人のライフスタイルやライフステージとの関係から概説し、エコロジーと共生を希求する 21 世紀世界におけるスポーツ・ヘルスプロモーションの相乗的な効果を上げるための政策課題について講義する。 |
| 備考 | 感染症対策のため、初回授業は 4/15(水) です 01EK001 と同一。 |
| 授業形態 | 講義 |
| 学位プログラム・コンピテンスとの関係 | 知の活用力、チームワーク力、専門知識、倫理観 |
| 授業の到達目標 (学修成果) | 現代社会におけるスポーツプロモーションとヘルスプロモーションの理念を理解し、その相互の合理的な関係化による相乗的効果を上げることの重要性について学習する。 |
| 授業計画 | 第 1 回スポーツ・ヘルスプロモーション論オリエンテーション 担当:菊 幸一 第 2 回スポーツ・ヘルスプロモーション論オリエンテーション 担当:久野 譜也 第 3 回スポーツプロモーションの現代的課題と文献研究 (プロモーション ライフスタイル 人間的生の充実 グループワーキング) 担当:菊 幸一 第 4 回” 担当:菊 幸一 第 5 回日本のスポーツに求められるスポーツ・マネジメント (学校運動部 地域スポーツクラブ 一貫指導 競技スポーツ) 担当:尾縣 貢 第 6 回” 担当:尾縣 貢 第 7 回スポーツ・ヘルスプロモーションと産業 I・II (雇用 職域化 高齢化 ベンチャー企業 NPO) 担当:久野 譜也 第 8 回” 担当:久野 譜也 第 9 回近代のスポーツイベント史と社会の関係 (メディア・イベント 商業化 社会問題 民営化 地域活性化) 担当:高橋 義雄 第 10 回” 担当:高橋 義雄 第 11 回スポーツとメンタルヘルス (スポーツ精神医学、うつ病、認知症、予防、アスリートのメンタルヘルス) 担当:水上 勝義 |

| | |
|-----------------------------------|--|
| | <p>第 12 回” 担当:水上 勝義</p> <p>第 13 回オリンピックにおいてメダル獲得世界トップ 5 を目指す JOC の戦略を検証する。 (情報戦略 コーチング ナショナルトレーニングセンター スポーツの理念)) 担当:山口 香</p> <p>第 14 回” 担当:山口 香</p> <p>第 15 回研究倫理 I:研究倫理とは? (イントロダクション、個人情報、不正行為、インフォームド・コンセント) 担当:柴田 愛</p> <p>第 16 回研究倫理 II:手続きの実際 (倫理審査、倫理審査申請書、利益相反) 担当:柴田 愛</p> <p>第 17 回身体活動・運動によるヘルスプロモーション (行動疫学、エコロジカルモデル、年代別) 担当:柴田 愛</p> <p>第 18 回座位行動の是正によるヘルスプロモーション (行動疫学、エコロジカルモデル、年代別) 担当:柴田 愛</p> <p>第 19 回スポーツ・ヘルスプロモーションに係わる文献とその動向に関する討議 担当:菊 幸一</p> <p>第 20 回” 担当:菊 幸一</p> |
| 履修条件 | 特になし |
| 成績評価方法 | レポートあるいは発表の成績を評価する 評価基準 (A+, A, B, C 又は D) |
| 学修時間の割り当て及び授業外における学修方法 | 授業外における学修 (予習・復習等) については、適宜担当教員より指示 |
| 教材・参考文献・配付資料等 | 担当教員より指定 1. 菊幸一他, スポーツプロモーション論, 明和出版 |
| オフィスアワー等 (連絡先含む) | (久野) 火曜日 17 時 30 分~18 時 15 分 東京キャンパス 536 電話 03-3942-6382 筑波キャンパス D309 電話 029-853-7335 |
| その他 (受講生にのぞむことや受講上の注意点等) | 積極的な受講態度を望みます。 |
| 他の授業科目との関連 | |
| ティーチングフェロー (TF)・ティーチングアシスタント (TA) | 無 |
| キーワード | スポーツプロモーション, スポーツマネジメント, ヘルスプロモーション, ストレスマネジメント, 研究倫理 |

| | |
|-----------------------------------|---|
| 授業科目名 | スポーツ健康研究方法論 I |
| 科目番号 | 0ATS021 |
| 単位数 | 1.0 単位 |
| 標準履修年次 | 2 年次 |
| 時間割 | 春 ABC 秋 A 随時 |
| 担当教員 | 菊 幸一, 高橋 義雄, 尾縣 貢, 山口 香, 久野 譜也, 柴田 愛, 水上 勝義 |
| 授業概要 | 研究計画を立案し、研究テーマを設定し、研究テーマ届を提出することを目標とする。スポーツや健康のプロモーションやマネジメントに関する研究について担当教員の指導のもとに先行文献を参照しながら研究計画を立案し、研究テーマを設定し、研究テーマ届を提出する。 |
| 備考 | 01EK003 と同一。 |
| 授業形態 | 演習 |
| 学位プログラム・コンピテンスとの関係 | 知の活用力、研究力 |
| 授業の到達目標 (学修成果) | 研究計画を立案し、研究テーマを設定し、研究テーマ届を提出すること。 |
| 授業計画 | 1~10 回 各教員 <ul style="list-style-type: none"> ・ 修士論文・特定課題報告書の研究テーマ設定のための文献や資料の収集と検討 ・ 研究計画の立案と討議及び指導 ・ 研究テーマの設定と研究テーマ届の提出 |
| 履修条件 | 2 年次生 |
| 成績評価方法 | 学位論文テーマ届の提出 評価基準 P(可)、F(不可) |
| 学修時間の割り当て及び授業外における学修方法 | 授業外における学修 (予習・復習等) については、適宜担当教員より指示 |
| 教材・参考文献・配付資料等 | 指導教員より指示 |
| オフィスアワー等 (連絡先含む) | (久野) 火曜日 17 時 30 分~18 時 15 分 東京キャンパス 536 電話 03-3942-6382 筑波キャンパス D309 電話 029-853-7335 |
| その他 (受講生にのぞむことや受講上の注意点等) | 積極的な受講態度を望みます。 |
| 他の授業科目との関連 | |
| ティーチングフェロー (TF)・ティーチングアシスタント (TA) | 無 |
| キーワード | 研究計画, 研究テーマ |

| | |
|-----------------------------------|--|
| 授業科目名 | スポーツ健康研究方法論 II |
| 科目番号 | 0ATS032 |
| 単位数 | 1.0 単位 |
| 標準履修年次 | 2 年次 |
| 時間割 | 秋 A 随時 |
| 担当教員 | 菊 幸一, 高橋 義雄, 尾縣 貢, 山口 香, 久野 譜也, 柴田 愛, 水上 勝義 |
| 授業概要 | 学位論文中間発表会に終日参加し、研究進捗状況や構想、データ収集および分析状況について発表ができることを目標とする。スポーツ・ヘルスプロモーションの修士論文・特定課題研究報告書の作成のために必要な基礎的な研究方法について、学習する。スポーツや健康のプロモーションやマネジメントに関する研究に、設定した各自の研究テーマに基づき、担当教員の指導のもとに、研究を実施し、資料・データの解析、プレゼンテーションの方法等について学ぶ。そして、学位論文中間発表会に終日参加すること、および、研究進捗状況や構想、データ収集および分析状況について発表を行う。 |
| 備考 | 01EK004 と同一。 |
| 授業形態 | 演習 |
| 学位プログラム・コンピテンスとの関係 | コミュニケーション能力、研究力 |
| 授業の到達目標 (学修成果) | 学位論文中間発表会に終日参加し、研究進捗状況や構想、データ収集および分析状況について発表ができること。 |
| 授業計画 | 1~10 回 各教員 発表と討議及び指導 (1)~(10) ・研究の実施 資料データの解析 プレゼンテーション法 ・学位論文中間発表会の終日参加 ・学位論文中間発表会における発表 |
| 履修条件 | スポーツ健康科学論 I を修得済であること |
| 成績評価方法 | 中間発表の評価 評価基準 (A+, A, B, C 又は D) |
| 学修時間の割り当て及び授業外における学修方法 | 授業外における学修 (予習・復習等) については、適宜担当教員より指示 |
| 教材・参考文献・配付資料等 | 指導教員より指定 |
| オフィスアワー等 (連絡先含む) | (久野) 火曜日 17 時 30 分~18 時 15 分 東京キャンパス 536 電話 03-3942-6382 筑波キャンパス D309 電話 029-853-7335 |
| その他 (受講生にのぞむことや受講上の注意点等) | 積極的な研究実施、発表を望みます。 |
| 他の授業科目との関連 | 0ATS021 スポーツ健康研究方法論 I |
| ティーチングフェロー (TF)・ティーチングアシスタント (TA) | 無 |

| | |
|-------|-----------|
| キーワード | プレゼンテーション |
|-------|-----------|

| | |
|--------------------------|--|
| 授業科目名 | スポーツ健康研究方法論 III |
| 科目番号 | 0ATS033 |
| 単位数 | 1.0 単位 |
| 標準履修年次 | 2 年次 |
| 時間割 | 春 A 随時 |
| 担当教員 | 菊 幸一, 高橋 義雄, 尾縣 貢, 山口 香, 久野 譜也, 柴田 愛, 水上 勝義 |
| 授業概要 | 学位論文中間発表会に終日参加し、研究進捗状況や構想、データ収集および分析状況について発表ができることを目標とする。スポーツ・ヘルスプロモーションの修士論文・特定課題研究報告書の作成のために必要な基礎的な研究方法について、学習する。スポーツや健康のプロモーションやマネジメントに関する研究に、設定した各自の研究テーマに基づき、担当教員の指導のもとに、研究を実施し、資料・データの解析、プレゼンテーションの方法等について学ぶ。そして、学位論文中間発表会に終日参加すること、および、研究進捗状況や構想、データ収集および分析状況について発表を行う。 |
| 備考 | 9 月末修了予定者用 01EK005 と同一。 |
| 授業形態 | 演習 |
| 学位プログラム・コンピテンスとの関係 | コミュニケーション能力、研究力 |
| 授業の到達目標 (学修成果) | 学位論文中間発表会に終日参加し、研究進捗状況や構想、データ収集および分析状況について発表ができること。 |
| 授業計画 | 1~10 回 各教員 発表と討議及び指導 (1)~(10) ・研究の実施 資料データの解析 プレゼンテーション法 ・学位論文中間発表会の終日参加 ・学位論文中間発表会における発表 |
| 履修条件 | スポーツ健康科学論 I を履修済であること 9 月末修了予定で、「0ATS032(01EK004) スポーツ健康科学論 II」を未修得の者 |
| 成績評価方法 | 中間発表の評価 評価基準 (A+, A, B, C 又は D) |
| 学修時間の割り当て及び授業外における学修方法 | 授業外における学修 (予習・復習等) については、適宜担当教員より指示 |
| 教材・参考文献・配付資料等 | 指導教員より指定 |
| オフィスアワー等 (連絡先含む) | (久野) 火曜日 17 時 30 分~18 時 15 分 東京キャンパス 536 電話 03-3942-6382 筑波キャンパス D309 電話 029-853-7335 |
| その他 (受講生にのぞむことや受講上の注意点等) | 積極的な研究実施、発表を望みます。 |

| | |
|--------------------------------------|-----------------------|
| 他の授業科目との関連 | 0ATS021 スポーツ健康研究方法論 I |
| ティーチングフェロー (TF)・ティーチングアシスタント (TA) | 無 |
| キーワード | プレゼンテーション |

| | |
|--------------------|---|
| 授業科目名 | スポーツプロモーション論特講 |
| 科目番号 | 0ATS110 |
| 単位数 | 2.0 単位 |
| 標準履修年次 | 1・2 年次 |
| 時間割 | 春 BC 木 7,8 |
| 担当教員 | 菊 幸一 |
| 授業概要 | 現代社会におけるスポーツプロモーションの基本理念を理解し、現代スポーツの社会的構造を分析するとともに、スポーツプロモーション政策の課題について学習する。スポーツの社会的需要・供給関係を軸にした社会的構造・機能モデルに基づいて、現代社会におけるスポーツのポジティブ/ネガティブな作用を分析し、そこからスポーツプロモーションの基本理念を概説する。また、プロフェッショナルスポーツの成立と発展過程をも視野に入れつつ、文化としてのスポーツプロモーションのあり方について講ずる。 |
| 備考 | 01EK101 と同一。 |
| 授業形態 | 講義 |
| 学位プログラム・コンピテンスとの関係 | 知の活用力、マネジメント能力、国際性、研究力、専門知識、倫理観 |
| 授業の到達目標 (学修成果) | 現代社会におけるスポーツプロモーションの基本理念を理解し、現代スポーツの社会的構造を分析するとともに、スポーツプロモーション政策の課題について学習する。 |
| 授業計画 | <p>第 1 回 1~2 回:スポーツプロモーション論とは何か (スポーツ 政治 政策 統治・保護 保障・支援)</p> <p>第 2 回 3~4 回:スポーツプロモーション政策におけるスポーツの捉え方と理念 (スポーツ政策 政治課題 生活課題 政策理念)</p> <p>第 3 回 5~6 回 スポーツ政策の変遷 (古代社会 階級社会 近代社会 現代)</p> <p>第 4 回 7~8 回 現代スポーツの構造と機能 (1) スポーツの自由・政治統制・福祉・公共性 (スポーツ需要 スポーツ供給 スポーツ体制)</p> <p>第 5 回 9~10 回 現代スポーツの構造と機能 (2) スポーツ需要・スポーツ供給・スポーツ体制 (スポーツ需要 スポーツ供給 スポーツ体制)</p> <p>第 6 回 11~12 回 現代スポーツへの変動 (プロフェッショナリズム 近代スポーツ論 高度化)</p> <p>第 7 回 13~14 回 プロフェッショナルスポーツの成立 (文化的成熟 スポーツ思想 経済的制度化)</p> <p>第 8 回 15~16 回 プロフェッショナルスポーツの発展 (社会的条件 スポーツ環境 高度化スポーツの価値)</p> <p>第 9 回 17~18 回 プロフェッショナリズムとスポーツプロモーション (文化発展と公共的責任 職業と社会貢献)</p> <p>第 10 回 19~20 回 スポーツプロモーション論の課題 (ビジョン 討論 専門性)</p> |
| 履修条件 | 特になし |

| | |
|-----------------------------------|--|
| 成績評価方法 | <p>総括レポート (50%), 予習レポート (30%), ビデオレポート (10%), 授業中の質疑応答や討論の内容 (10%)</p> <p>評価基準 (A+, A, B, C 又は D)</p> |
| 学修時間の割り当て及び授業外における学修方法 | <p>授業外における学修 (予習・復習等) については、適宜担当教員より指示</p> |
| 教材・参考文献・配付資料等 | <p>テキスト</p> <p>菊幸一ほか編, スポーツプロモーション論, 明和出版,2006.</p> <p>参考図書</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 菊幸一ほか編, スポーツ政策論, 成文堂,2011. 2. 菊幸一ほか編, 現代スポーツのパースペクティブ, 大修館書店,2006. 3. 井上俊、菊幸一編, よくわかるスポーツ文化論, ミネルヴァ書房,2012. 4. 菊幸一編, 現代スポーツは嘉納治五郎から何を学ぶのか, ミネルヴァ書房,2014. |
| オフィスアワー等 (連絡先含む) | <p>オフィスアワーは特に設けない。</p> <p>随時、下記メールアドレスに事前連絡の上、日時を設定する。</p> <p>kiku.koichi.ga at u.tsukuba.ac.jp</p> |
| その他 (受講生にのぞむことや受講上の注意点等) | <p>積極的な受講態度を望みます。</p> |
| 他の授業科目との関連 | <p>0ATS111 スポーツプロモーション論演習 1</p> <p>0ATS112 スポーツプロモーション論演習 2</p> <p>0ATS113 スポーツプロモーション論実習</p> <p>0ATS164 スポーツプロモーション研究方法論 IV</p> <p>0ATS165 スポーツプロモーション研究方法論 V</p> |
| ティーチングフェロー (TF)・ティーチングアシスタント (TA) | <p>無</p> |
| キーワード | <p>プロモーション スポーツ文化 スポーツ組織 スポーツ制度 スポーツライフスタイル</p> |

| | |
|--------------------|--|
| 授業科目名 | スポーツプロモーション論演習 1 |
| 科目番号 | 0ATS111 |
| 単位数 | 1.0 単位 |
| 標準履修年次 | 1・2 年次 |
| 時間割 | 春 ABC 随時 |
| 担当教員 | 菊 幸一 |
| 授業概要 | スポーツプロモーションに関する各自の問題意識を反映するテーマについて明確な動機・目的につながる内容を主にメディアスポーツ、スペクテータースポーツ、スポーツの生産と消費の観点から演習し、スポーツプロモーションにおける政策立案モデルを描けるようにする。国レベル、地域レベル、団体レベルのスポーツプロモーション政策の具体的事例を取り上げ、それぞれの歴史・社会・文化的背景との関係からその政策課題を相互比較し、それぞれの特徴と課題を明らかにする。こうして養われるスポーツプロモーション政策形成の具体的分析力を基礎に、それぞれの学生の現職経験に基づくスポーツプロモーション問題を取り上げ、そこに作用する政治課題のベクトルと生活課題のベクトルをシミュレーションすることによって政策課題を明確にし、政策立案のモデル化について演習する。 |
| 備考 | 01EK112 と同一。 |
| 授業形態 | 演習 |
| 学位プログラム・コンピテンスとの関係 | マネジメント能力、コミュニケーション能力、チームワーク力、研究力、専門知識、倫理観 |
| 授業の到達目標 (学修成果) | スポーツプロモーションに関する各自の問題意識を反映するテーマについて明確な動機・目的につながる内容を主にメディアスポーツ、スペクテータースポーツ、スポーツの生産と消費の観点から演習し、スポーツプロモーションにおける政策立案モデルを描けるようにする。 |
| 授業計画 | 第 1 回スポーツプロモーションに対する各自のねらいと考え方、方法 第 2 回スポーツの現代化とスポーツプロモーションとの関係 第 3 回メディアスポーツ論 (1) (メディア、メッセージ、メタファー) 第 4 回メディアスポーツ論 (2) (スポーツシンボリズム、神話作用) 第 5 回メディアスポーツ論 (3) (メディアストーリー、メディアテキスト) 第 6 回スペクテータースポーツ論 (1) (葬祭競技、祭典競技、奉納競技) 第 7 回スペクテータースポーツ論 (2) (ゲームの保護、パトロネージ論) 第 8 回スポーツの生産と消費 (1) (公共性、文化、聖性と生産/消費) 第 9 回各自の政策立案モデルの提示と議論 |
| 履修条件 | 主にスポーツプロモーション領域所属の学生 |
| 成績評価方法 | 1. 分担レポートの発表、課題をめぐる討議等に関する自己評価・相互評価を含めて、総括的に評価する (80%)。 2. スポーツプロモーションに関連する先行研究の検討状況を評価する (20%)。 |

| | |
|-----------------------------------|---|
| | 評価基準 (A+, A, B, C 又は D) |
| 学修時間の割り当て及び授業外における学修方法 | 授業外における学修 (予習・復習等) については、適宜担当教員より指示 |
| 教材・参考文献・配付資料等 | テキスト: 菊幸一他編「現代スポーツのパースペクティブ」大修館書店,2006 年 参考図書 1. 山川雄巳,「政策過程論」蒼林社出版,1980 年 2. 菊幸一他編,「スポーツ政策論」成文堂,2011 年 |
| オフィスアワー等 (連絡先含む) | オフィスアワーは特に設けない。 随時、下記メールアドレスに事前連絡の上、日時を設定する。 kiku.koichi.ga at u.tsukuba.ac.jp |
| その他 (受講生にのぞむことや受講上の注意点等) | 積極的な受講態度を望みます。 |
| 他の授業科目との関連 | 0ATS110 スポーツプロモーション論特講 0ATS112 スポーツプロモーション論演習 2 0ATS113 スポーツプロモーション論実習 0ATS164 スポーツプロモーション研究方法論 IV 0ATS165 スポーツプロモーション研究方法論 V |
| ティーチングフェロー (TF)・ティーチングアシスタント (TA) | 無 |
| キーワード | メディアスポーツ スペクテータースポーツ スポーツの公共性 政策立案モデル |

| | |
|--------------------|---|
| 授業科目名 | スポーツプロモーション論演習 2 |
| 科目番号 | 0ATS112 |
| 単位数 | 2.0 単位 |
| 標準履修年次 | 1・2 年次 |
| 時間割 | 秋 AB 木 7,8 |
| 担当教員 | 菊 幸一 |
| 授業概要 | グローバル化する世界のスポーツ状況を踏まえながら、これからのスポーツプロモーションにおけるビジョンと課題を検討し、諸外国のスポーツライフスタイルを通じた多様なスポーツライフスタイル構想から、スポーツプロモーションに関する具体的な問題意識を醸成する。国レベル、地域レベル、団体レベルのスポーツプロモーション政策の具体的事例を取り上げ、それぞれの歴史・社会・文化的背景との関係からその政策課題を相互比較し、それぞれの特徴と課題を明らかにする。こうして養われるスポーツプロモーション政策形成の具体的分析力を基礎に、それぞれの学生の現職経験に基づくスポーツプロモーション問題を取り上げ、そこに作用する政治課題のベクトルと生活課題のベクトルをシミュレーションすることによって政策課題を明確にし、政策立案のモデル化について演習する。 |
| 備考 | 01EK113 と同一。 |
| 授業形態 | 演習 |
| 学位プログラム・コンピテンスとの関係 | マネジメント能力、コミュニケーション能力、チームワーク力、研究力、専門知識、倫理観 |
| 授業の到達目標 (学修成果) | グローバル化する世界のスポーツ状況を踏まえながら、これからのスポーツプロモーションにおけるビジョンと課題を検討し、諸外国のスポーツライフスタイルを通じた多様なスポーツライフスタイル構想から、スポーツプロモーションに関する具体的な問題意識を醸成する |
| 授業計画 | 第 1 回 1~2 回 スポーツプロモーション・ビジョンの検討 第 2 回 3~4 回 スポーツプロモーションの対象としてのスポーツ (近代スポーツを超えて) 第 3 回 5~6 回 スポーツビジョンづくりの視点と展開 第 4 回 7~8 回 諸外国におけるスポーツライフスタイル (1) (ニュージーランド、イギリス) 第 5 回 9~10 回 諸外国におけるスポーツライフスタイル (2) 第 6 回 11~12 回 スポーツ組織の現状分析と課題 (1) (NF の組織化における現状と課題) 第 7 回 13~14 回 スポーツ組織の現状分析と課題 (2) (レクリエーションおよび商業関連スポーツ団体) 第 8 回 15~16 回 多様なスポーツライフスタイルの構想 (1) (総合型クラブ、若者) 第 9 回 17~18 回 多様なスポーツライフスタイルの構想 (2) (バリアフリー、みるスポーツ) 第 10 回 19~20 回 スポーツプロモーション・ビジョンの課題 |
| 履修条件 | 主にスポーツプロモーション領域所属の学生 |
| 成績評価方法 | 1. 分担レポートの発表、課題をめぐる討議等に関する自己評価・相互評価を含めて、総括的に評価する (80%)。 2. 政策モデルに関するレポートを評価する (20%)。 評価基準 (A+, A, B, C 又は D) |

| | |
|---------------------------------|--|
| 学修時間の割り当て及び授業外における学修方法 | 授業外における学修(予習・復習等)については、適宜担当教員より指示 |
| 教材・参考文献・配付資料等 | <p>テキスト:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 菊 幸一他編, スポーツプロモーション論, 明和出版、2006. 2) 菊 幸一, 公共性の再構築からみた体育・スポーツのシステム再編に関する研究, 科学研究成果報告書、2005. 3) 佐伯聰夫他, スポーツ・イベントの展開と地域社会形成, 不昧堂出版,2000. <p>参考図書</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 佐伯年詩雄ほか「生涯スポーツの振興方策に関する調査研究」日本体育協会スポーツ医・科学研究報告第1報 第3報、2000年 2002年 |
| オフィスアワー等(連絡先含む) | <p>オフィスアワーは特に設けない。</p> <p>随時、下記メールアドレスに事前連絡の上、日時を設定する。</p> <p>kiku.koichi.ga at u.tsukuba.ac.jp</p> |
| その他(受講生にのぞむことや受講上の注意点等) | 積極的な受講態度を望みます。 |
| 他の授業科目との関連 | <p>0ATS110 スポーツプロモーション論特講</p> <p>0ATS111 スポーツプロモーション論演習 1</p> <p>0ATS113 スポーツプロモーション論実習</p> <p>0ATS164 スポーツプロモーション研究方法論 IV</p> <p>0ATS165 スポーツプロモーション研究方法論 V</p> |
| ティーチングフェロー(TF)・ティーチングアシスタント(TA) | 無 |
| キーワード | グローバルスポーツ スポーツビジョン スポーツライフスタイル 現代スポーツ ポストモダン |

| | |
|--------------------|--|
| 授業科目名 | スポーツプロモーション論実習 |
| 科目番号 | 0ATS113 |
| 単位数 | 1.0 単位 |
| 標準履修年次 | 1・2 年次 |
| 時間割 | 通年 随時 |
| 担当教員 | 菊 幸一 |
| 授業概要 | <p>現職経験から導かれるスポーツプロモーション問題を政策科学の視点から課題化し、各自が対象とする具体的な組織や関連イベントにかかわるスポーツプロモーションの現状と課題を明らかにする。学生の現職経験から導かれるスポーツプロモーション問題を、政策科学の視点から政策課題化し、それに基づく政策目標-政策対象-政策条件-政策計画のシミュレーションを行う。このシミュレーションモデルに基づき、政策展開に必要な環境的・物的・人的・文化的資源を査定し、当該政策実施における既存資源を評価し、過剰/不足資源を明確にする。さらに、明確化された不足資源の整備・開発を計画すると共に、政策展開の視点から見た有効資源のシステムをデザインし、具体的な政策モデルをシミュレーションする。</p> |
| 備考 | 01EK105 と同一。 |
| 授業形態 | 実習・実験・実技 |
| 学位プログラム・コンピテンスとの関係 | コミュニケーション能力、チームワーク力、研究力、専門知識、倫理観 |
| 授業の到達目標 (学修成果) | <p>学生の現職経験から導かれるスポーツプロモーション問題を政策科学の視点から課題化し、各自が対象とする具体的な組織や関連イベントにかかわるスポーツプロモーションの現状と課題について明らかにしたことを発表する。</p> |
| 授業計画 | <p>第 1 回 1~2 回 スポーツプロモーション実習の目的・方法・対象:ガイダンスと理論 第 2 回 3~4 回 対象の選定と理由の検討 (1):その特徴と背景 第 3 回 5~6 回 対象の選定と理由の検討 (2):実習目的と方法の明確化 第 4 回 7~8 回 調査対象に対する実習計画の検討とシミュレーション (1):環境的資源の査定 第 5 回 9~10 回 調査対象に対する実習計画の検討とシミュレーション (2):物的資源の査定 第 6 回 11~12 回 調査対象に対する実習計画の検討とシミュレーション (3):人的資源の査定 第 7 回 13~14 回 調査対象に対する実習計画の検討とシミュレーション (4):文化的資源の査定 第 8 回 15~16 回 調査対象に対する実習計画の検討とシミュレーション (5):システムデザイン 第 9 回実習成果の発表内容に関するグループワーク:具体的な政策モデルのシミュレーション 第 10 回実習成果の発表と議論:学位論文への応用をめぐる課題の検討</p> |
| 履修条件 | 主にスポーツプロモーション領域所属の学生 |
| 成績評価方法 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 分担レポートの内容や発表、課題をめぐる討議等に関する自己評価・相互評価を含めて、総括的に評価する (80%)。 2. 学位論文作成の基礎資料として価値を評価する (20%)。 |

| | |
|-----------------------------------|---|
| | 評価基準 (A+, A, B, C 又は D) |
| 学修時間の割り当て及び授業外における学修方法 | 授業外における学修 (予習・復習等) については、適宜担当教員より指示 |
| 教材・参考文献・配付資料等 | テキスト: 佐伯聰夫他,(2000), スポーツイベントの展開と地域社会形成, 不昧堂出版,2000. 参考図書 1. 菊幸一, スポーツ組織の公共性と自立からみた課題と展望. 体育・スポーツ (2017) 経営学研究第 30 巻第 1 号,pp.65-81 |
| オフィスアワー等 (連絡先含む) | オフィスアワーは特に設けない。 随時、下記メールアドレスに事前連絡の上、日時を設定する。 kiku.koichi.ga at u.tsukuba.ac.jp |
| その他 (受講生にのぞむことや受講上の注意点等) | 積極的な実習態度を望みます。 |
| 他の授業科目との関連 | 0ATS110 スポーツプロモーション論特講 0ATS111 スポーツプロモーション論演習 1 0ATS112 スポーツプロモーション論演習 2 0ATS164 スポーツプロモーション研究方法論 IV 0ATS165 スポーツプロモーション研究方法論 V |
| ティーチングフェロー (TF)・ティーチングアシスタント (TA) | 必要に応じて任用する |
| キーワード | 現職経験 フィールドワーク 質的研究 文献調査 インタビュー調査 シュミレーション |

| | |
|--------------------|---|
| 授業科目名 | スポーツイベント論特講 |
| 科目番号 | 0ATS120 |
| 単位数 | 2.0 単位 |
| 標準履修年次 | 1・2 年次 |
| 時間割 | 秋 A 金 7,8; 秋 A 集中 |
| 担当教員 | 高橋 義雄 |
| 授業概要 | スポーツプロモーションにおけるスポーツイベントの理念と意義を理解するとともに、スポーツイベントと地域形成、現代社会におけるスポーツイベント政策、プロフェッショナルスポーツの発展過程などについて、その歴史社会的な意味や現代的機能を探究する。スポーツイベントの社会的需要・供給関係を軸にした社会的構造・機能モデルに基づいて、スポーツプロモーションにおけるスポーツイベントの理念と意義を概説する。これに基づいて、現代社会におけるスポーツイベントのポジティブ/ネガティブな地域形成作用を分析し、そこから現代社会におけるスポーツイベント政策の社会的役割を分析する。また、プロフェッショナルスポーツの発展過程を分析し、その社会及び地域形成に関わる意味と機能について概説する。 |
| 備考 | 集中講義 10:00~ 01EK106 と同一。 10/3,10/31 |
| 授業形態 | 講義 |
| 学位プログラム・コンピテンスとの関係 | 知の活用力、マネジメント能力、国際性、研究力、専門知識、倫理観 |
| 授業の到達目標 (学修成果) | スポーツプロモーションにおけるスポーツイベントの理念と意義を理解するとともに、スポーツイベントのマネジメントを考察し、地域形成、現代社会におけるスポーツイベント政策、プロフェッショナルスポーツの発展過程などについて、その歴史社会的な意味や現代的機能をマネジメントの視点で探究する。 |
| 授業計画 | 第 1 回スポーツイベントとは (イベント, 概念, 理念, 意義) 第 2 回スポーツイベントのマネジメント総論 (マネジメント) 第 3 回前近代とスポーツイベント (前近代) 第 4 回近・現代とスポーツイベント (近代, 現代, 商業化) 第 5 回スポーツイベントと地域活性化 (価値, 地域形成, 日本, ヨーロッパ) 第 6 回スポーツイベントとスポーツマーケティング (スポーツマーケティング) 第 7 回スポーツイベントと社会政策 (地域政策, 公共性, 効果) 第 8 回スポーツイベントと産業政策 (産業政策, スポーツ産業, スポーツ市場, 効果) |

| | |
|------------------------|---|
| | <p>第 9 回スポーツイベントとスポーツビジネス (スポーツ産業、スポーツビジネス)</p> <p>第 10 回スポーツイベントと流動人口・観光 (スポーツツーリズム)</p> <p>第 11 回スポーツイベントのプロデュース (プロスポーツクラブ経営)</p> <p>第 12 回国際的なスポーツイベントのプロデュース (官・産組織、大会組織委員会)</p> <p>第 13 回スポーツイベントのためのスポーツ環境デザイン (ソフトインフラ、制度化、理論的枠組み)</p> <p>第 14 回スポーツイベントのためのスポーツ環境デザイン (スポーツ施設、ハードインフラ)</p> <p>第 15 回プロ・スポーツ産業の発展過程 (サッカー、J リーグ、B リーグ)</p> <p>第 16 回参加イベント型スポーツ経営 (トライアスロン、マラソン、アウトドアスポーツ)</p> <p>第 17 回プロ・スポーツ産業の財務・会計 (財務、ビジネスモデル)</p> <p>第 18 回プロ・スポーツ産業と新技術 (IT 技術、ビックデータ、エンターテインメント産業)</p> <p>第 19 回近未来のスポーツイベント:グループ発表前半 (近未来、総括)</p> <p>第 20 回近未来のスポーツイベント:グループ発表後半 (近未来、総括)</p> |
| 履修条件 | 特になし |
| 成績評価方法 | <p>1. 評価方法および評価割合</p> <p>わが国におけるスポーツイベントの社会的役割についてグループワークし、スポーツイベントのプロモーションについてのグループ発表。(50%)</p> <p>毎回講義に積極的に参加し、講義内容の知識をもとに、諸外国を含めた身近なスポーツイベントの事例をさまざまな角度から分析してのディスカッション。(50%)</p> <p>2. 評価基準</p> <p>A+, A, B, C 又は D</p> |
| 学修時間の割り当て及び授業外における学修方法 | 授業外における学修(予習・復習等)については、適宜担当教員より指示 |
| 教材・参考文献・配付資料等 | <p>参考図書</p> <p>1) 菊 幸一:「近代プロ・スポーツ」の歴史社会学, 不昧堂出版</p> <p>2) 佐伯聰夫ほか:スポーツ・イベントの展開と地域社会形成, 不昧堂出版</p> <p>3) 松村和則ほか:メガ・スポーツイベントの社会学, 南窓社</p> <p>4) 橋本純一ほか:現代メディアスポーツ論, 世界思想社</p> <p>5) 小笠原正監修:導入対話によるスポーツ法学, 不磨書房</p> <p>6) 原田宗彦ほか:スポーツ産業論第 6 版, 杏林書院</p> |

| | |
|-----------------------------------|--|
| オフィスアワー等 (連絡先含む) | 水曜日 17 時 30 分~18 時 20 分 東京キャンパス 電話 03-3942-6390 筑波キャンパス B505 電話 029-853-2659 オフィスアワーは特に定めませんが、事前に連絡してから訪問すること 体育科学系 B 棟 B505 03-3942-6390 takahashi.yoshio.gp at u.tsukuba.ac.jp |
| その他 (受講生にのぞむことや受講上の注意点等) | 積極的にディスカッションに参加し、これまでの自分の考え方が変わるような体験をしてください。 |
| 他の授業科目との関連 | 0ATS121 スポーツイベント論演習 1 0ATS122 スポーツイベント論演習 2 0ATS123 スポーツイベント論実習 0ATS164 スポーツプロモーション研究方法論 IV 0ATS165 スポーツプロモーション研究方法論 V |
| ティーチングフェロー (TF)・ティーチングアシスタント (TA) | 無 |
| キーワード | スポーツイベント, スポーツ競技団体, プロスポーツクラブ, スポーツ経営人材, マネジメント, マーケティング, スポーツ産業, スポーツツーリズム, スポーツビジネス, 技術革新 |

| | |
|--------------------|--|
| 授業科目名 | スポーツイベント論演習 1 |
| 科目番号 | 0ATS121 |
| 単位数 | 1.0 単位 |
| 標準履修年次 | 1・2 年次 |
| 時間割 | 秋 ABC 随時 |
| 担当教員 | 高橋 義雄 |
| 授業概要 | スポーツイベントにかかわる各自の研究関心に沿って、経営学分野、特にイノベーション研究を取り上げ、その課題を演習する。国際、国、地域、各レベルにおけるスポーツイベントの事例を取り上げ、その社会的な構造と機能を理解しながら課題を演習する。国際レベル、国レベル、地域レベルのスポーツイベントの具体的事例を取り上げ、それぞれの歴史・社会・文化的背景との関係からその構造的・機能的特性を相互比較し、それぞれのスポーツ及び地域プロモーションに関する政策課題について演習する。また、プロフェッショナルスポーツの具体的事例から、スポーツイベントの展開過程における問題と課題について演習する。 |
| 備考 | 01EK114 と同一。 |
| 授業形態 | 演習 |
| 学位プログラム・コンピテンスとの関係 | マネジメント能力、コミュニケーション能力、チームワーク力、研究力、専門知識、倫理観 |
| 授業の到達目標 (学修成果) | スポーツイベントにかかわる各自の研究関心に沿って、その課題を演習する。国際、国、地域、小規模集団、各レベルにおけるスポーツイベントの事例を取り上げ、その社会的な構造と機能、マネジメントを理解しながら課題を演習する。 |
| 授業計画 | <p>第 1 回学習のねらいと方法について (本演習のねらい、研究の考え方、利用する概念、研究環境などを紹介する。)</p> <p>第 2 回研究をはじめるための問題意識 (自身の経験から問題意識を明確にする。先行研究のレビュー)</p> <p>第 3 回問題意識に対する下調べとしての先行研究の扱い方 (自身の問題意識を文章化し、キーワードから先行研究を探索して、これまでわかっていることをまとめる)</p> <p>第 4 回研究の方法論と方法 (方法論の検討、質的調査、量的調査等の適切な方法を考える)</p> <p>第 5 回科学的調査とデータの分析 (調査手法、分析・調査結果の集計について学ぶ)</p> <p>第 6 回量的調査の統計解析 (調査結果の統計分析の基礎を理解する)</p> <p>第 7 回論文構想を発表する (自身の論文の構想を発表し、よりよいプレゼンテーションについて理解する)</p> <p>第 8 回論文構想を発表 (他者の研究発表を聞いて理解し、適切なコメントや質問をする練習をする)</p> <p>第 9 回研究の倫理 (研究倫理申請について理解する)</p> <p>第 10 回論文の概要を作成する (自身の研究の概要を明らかにしてみる)</p> |

| | |
|---------------------------------|---|
| 履修条件 | 主にスポーツプロモーション領域所属の学生 |
| 成績評価方法 | <p>1. 評価方法</p> <p>1 分担レポートの発表内容および授業を通じた議論の深まりについて評価する。</p> <p>2 先行研究に関する検討を通じた自らのテーマと方法論に関する明晰性について評価する。</p> <p>2. 割合</p> <p>1:50%、2:50%</p> <p>3. 評価基準</p> <p>A+,A,B,C 又は D</p> |
| 学修時間の割り当て及び授業外における学修方法 | 授業外における学修（予習・復習等）については、適宜担当教員より指示 |
| 教材・参考文献・配付資料等 | <p>テキスト:特になし</p> <p>参考図書は随時指定する</p> |
| オフィスアワー等（連絡先含む） | <p>水曜日 17 時 30 分~18 時 20 分</p> <p>東京キャンパス 電話 03-3942-6390</p> <p>筑波キャンパス B505 電話 029-853-2659</p> |
| その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等） | 自分の研究について深く探求してください。 |
| 他の授業科目との関連 | <p>0ATS120 スポーツイベント論特講</p> <p>0ATS122 スポーツイベント論演習 2</p> <p>0ATS123 スポーツイベント論実習</p> <p>0ATS164 スポーツプロモーション研究方法論 IV</p> <p>0ATS165 スポーツプロモーション研究方法論 V</p> |
| ティーチングフェロー(TF)・ティーチングアシスタント(TA) | 無 |
| キーワード | スポーツ大会, 国際競技大会, マーケティング, マネジメント, 経営学, 社会学 |

| | |
|--------------------|--|
| 授業科目名 | スポーツイベント論演習 2 |
| 科目番号 | 0ATS122 |
| 単位数 | 2.0 単位 |
| 標準履修年次 | 1・2 年次 |
| 時間割 | 春 A 木 7,8; 春 B 火 7,8 |
| 担当教員 | 高橋 義雄 |
| 授業概要 | スポーツイベントにかかわる各自の研究関心に沿って、適切な研究手法を選択し、先行研究を取り上げて各自の研究について演習する。スポーツイベント論実習と平行して行い、実習の事例を取り上げ、その社会的な構造と機能を理解しながら課題を演習する。国際レベル、国レベル、地域レベルのスポーツイベントの具体的事例を取り上げ、それぞれの歴史・社会・文化的背景との関係からその構造的・機能的特性を相互比較し、それぞれのスポーツ及び地域プロモーションに関する政策課題について演習する。また、プロフェッショナルスポーツの具体的事例から、スポーツイベントの展開過程における問題と課題について演習する。 |
| 備考 | 01EK115 と同一。 |
| 授業形態 | 演習 |
| 学位プログラム・コンピテンスとの関係 | マネジメント能力、コミュニケーション能力、チームワーク力、研究力、専門知識、倫理観 |
| 授業の到達目標 (学修成果) | スポーツイベントにかかわる各自の研究関心に沿って、適切な研究手法を選択し、先行研究を取り上げて各自の研究について演習する。スポーツイベント論実習と平行して行い、実習の事例を取り上げ、その社会的な構造と機能を理解しながら課題を演習する。 |
| 授業計画 | <p>第 1 回学習のねらいと方法について (演習 2 のねらいと方法を理解する)</p> <p>第 2 回研究と学生生活 (教員との関係、対人関係、アサーティブについて理解する)</p> <p>第 3 回問題意識の構造化 (ブレインストーミングや KJ 法を紹介し、問題意識を構造化してみる)</p> <p>第 4 回先行研究の検討 (文献検索や文献レビューの方法について理解する)</p> <p>第 5 回論文の基本コンセプトの理解し現状を報告する (現時点で考えている研究対象、枠組み、研究倫理について発表する)</p> <p>第 6 回論文の構成と文章表現法 (科学論文における文章表現や基本構成を理解する)</p> <p>第 7 回調査データの収集と分析 (量的研究、質問紙調査を用いる事例を紹介し、方法について理解する)</p> <p>第 8 回調査データの収集と分析 (データ収集にむけてサンプリングし、回収したデータのコーディング、その後の解析ソフト SPSS を学ぶ)</p> <p>第 9 回調査データの収集と分析 (質的研究の方法としてのフィールドワークを理解する)</p> |

| | |
|-------------------------|--|
| | <p>第 10 回調査データの収集と分析 (質的研究の方法としてのインタビュー調査や参与観察を理解する)</p> <p>第 11 回文献を抄読する (企業/学校スポーツに関する文献の抄読)</p> <p>第 12 回文献を抄読する (競技団体のマネジメントに関する文献の抄読)</p> <p>第 13 回文献を抄読する (スポーツマネジメント人材に関する文献の抄読)</p> <p>第 14 回文献を抄読する (メディアとスポーツに関する文献の抄読)</p> <p>第 15 回文献を抄読する (スポーツ産業に関する文献の抄読)</p> <p>第 16 回文献を抄読する (プロスポーツに関する文献の抄読)</p> <p>第 17 回文献を抄読する (大学スポーツに関する文献の抄読)</p> <p>第 18 回文献を抄読する (女性とスポーツに関する文献の抄読)</p> <p>第 19 回文献を抄読する (スポーツ選手に関する文献の抄読)</p> <p>第 20 回文献を抄読する (スポーツイベントマネジメントに関する文献の抄読)</p> |
| 履修条件 | 主にスポーツプロモーション領域所属の学生 |
| 成績評価方法 | <p>1. 評価方法 1 分担レポートの発表内容および授業を通じた議論の深まりについて評価する。 2 先行研究に関する検討を通じた自らのテーマと方法論に関する明晰性について評価する。</p> <p>2. 割合 1:50%、2:50%</p> <p>3. 評価基準 A+,A,B,C 又は D</p> |
| 学修時間の割り当て及び授業外における学修方法 | 授業外における学修(予習・復習等)については、適宜担当教員より指示 |
| 教材・参考文献・配付資料等 | <p>1) M.E. ポーター:「競争の戦略」、ダイヤモンド社</p> <p>2) P. コトラー、A.R. アンドリーセン:「非営利組織のマーケティング戦略」</p> <p>3) 近藤隆雄:「サービスマネジメント入門」</p> |
| オフィスアワー等(連絡先含む) | <p>水曜日 17 時 30 分~18 時 20 分</p> <p>東京キャンパス 電話 03-3942-6390</p> <p>筑波キャンパス B505 電話 029-853-2659</p> |
| その他(受講生にのぞむことや受講上の注意点等) | 自分の研究について深く探求してください。 |

| | |
|-----------------------------------|--|
| 他の授業科目との関連 | 0ATS120 スポーツイベント論特講 0ATS121 スポーツイベント論演習 1 0ATS123 スポーツイベント論実習 0ATS164 スポーツプロモーション研究方法論 IV 0ATS165 スポーツプロモーション研究方法論 V |
| ティーチングフェロー (TF)・ティーチングアシスタント (TA) | 無 |
| キーワード | スポーツイベント, スポーツクラブ, スポーツビジネス, スポーツマーケティング |

| | |
|--------------------|--|
| 授業科目名 | スポーツイベント論実習 |
| 科目番号 | 0ATS123 |
| 単位数 | 1.0 単位 |
| 標準履修年次 | 1・2 年次 |
| 時間割 | 通年 随時 |
| 担当教員 | 高橋 義雄 |
| 授業概要 | スポーツイベント論演習で学んだスポーツイベントにかかわる研究方法を採用し、その研究手法で指定されたスポーツイベントを調査する。フィールド調査、アンケート調査など個人または研究グループを結成し、調査プロジェクト実施方法を学ぶ。学生の現職経験から導かれるスポーツイベント問題を、スポーツプロモーションと地域形成の視点から政策課題化し、それに基づくスポーツイベント展開のマネジメントのシミュレーションを行う。このシミュレーションモデルに基づき、スポーツイベント編成に必要な諸エージェントと資源を査定し、当該イベント展開における関係エージェントと資源のシステム化をシミュレーションし、具体的なスポーツイベントの政策マネジメントモデルを企画・立案する。 |
| 備考 | 01EK110 と同一。 |
| 授業形態 | 実習・実験・実技 |
| 学位プログラム・コンピテンスとの関係 | コミュニケーション能力、チームワーク力、研究力、専門知識、倫理観 |
| 授業の到達目標 (学修成果) | スポーツイベント論演習で学んだスポーツイベントにかかわる研究方法を採用し、その研究手法で指定されたスポーツイベントを調査する。フィールド調査、アンケート調査など個人または研究グループを結成し、調査プロジェクト実施方法を学ぶ。 |
| 授業計画 | <p>第 1 回実習対象の選定</p> <p>第 2 回作業仮説の設定、調査方法の選定・準備 (作業仮説や研究課題を設定し、先行研究にあたる。また研究倫理について考える)</p> <p>第 3 回調査実習 (研究計画を設計し、事前調査を行い資料収集にあたる)</p> <p>第 4 回調査実習 (インタビュー、参与観察の準備をする)</p> <p>第 5 回調査実習 (アンケート調査の方法について学ぶ)</p> <p>第 6 回実査集計と報告書 (テープ起こし、質的データ分析の方法を学ぶ)</p> <p>第 7 回実査集計と報告書 (コーディング、SPSS による集計について学ぶ)</p> <p>第 8 回実査集計と報告書 (データの分析、統計検定について学ぶ)</p> <p>第 9 回プレゼンテーション方法・準備</p> <p>第 10 回実習報告会</p> |
| 履修条件 | 主にスポーツプロモーション領域所属の学生 |
| 成績評価方法 | <p>1. 評価方法</p> <p>1 分担レポートの発表内容および授業を通じた議論の深まりについて評価する。</p> <p>2 先行研究に関する検討を通じた自らのテーマと方法論に関する明晰性について評価する。</p> <p>2. 割合</p> <p>1:50%、2:50%</p> <p>3. 評価基準</p> <p>A+,A,B,C 又は D</p> |
| 学修時間の割り当て及 | 授業外における学修 (予習・復習等) については、適宜担当教員より指示 |

| | |
|---------------------------------|--|
| 教材・参考文献・配付資料等 | テキスト:特になし 参考図書は随時指定する |
| オフィスアワー等(連絡先含む) | 水曜日 17時30分~18時20分 東京キャンパス 電話 03-3942-6390 筑波キャンパス B505 電話 029-853-2659 |
| その他(受講生にのぞむことや受講上の注意点等) | 積極的に実習に参加することを望みます。 |
| 他の授業科目との関連 | 0ATS120 スポーツイベント論特講 0ATS121 スポーツイベント論演習1 0ATS122 スポーツイベント論演習2 0ATS164 スポーツプロモーション研究方法論IV 0ATS165 スポーツプロモーション研究方法論V |
| ティーチングフェロー(TF)・ティーチングアシスタント(TA) | 必要に応じて任用する |
| キーワード | フィールド調査, 質問紙調査, インタビュー調査 |

| | |
|--------------------|---|
| 授業科目名 | スポーツプロモーション研究方法論 IV |
| 科目番号 | 0ATS164 |
| 単位数 | 2.0 単位 |
| 標準履修年次 | 2 年次 |
| 時間割 | 秋 ABC 随時 |
| 担当教員 | 菊 幸一, 高橋 義雄 |
| 授業概要 | スポーツプロモーションに関する研究方法論について、その視角、課題について理解し、実証的な視点から検討して修士論文あるいは特定課題研究報告書を作成することを目標とする。学生の現職経験に基づく実践的な課題を取り上げ、政策科学的視点からその存立状況を構造的に分析することによって、専門研究にむけて課題化する。さらに明確化された専門課題解決の可能性と限界を明らかにし、問題解決に対応する専門研究の研究計画をデザインする。この研究計画に基づいて現職経験から得られる固有のデータを生かし、それを学術情報化することによって、修士論文・特定課題研究報告書を作成する。 |
| 備考 | 01EK116 と同一。 |
| 授業形態 | 演習 |
| 学位プログラム・コンピテンスとの関係 | 知の活用力、研究力 |
| 授業の到達目標 (学修成果) | スポーツプロモーションに関する研究方法論について、その視角、課題について理解し、実証的な視点から検討して修士論文あるいは特定課題研究報告書を作成する。 |
| 授業計画 | 第 1 回スポーツプロモーション研究の論文作成に向けた視角 (1) (公共性、政策、政治課題) 第 2 回スポーツプロモーション研究の論文作成に向けた視角 (2) (私的自由、生活課題、共同体) 第 3 回スポーツプロモーション研究の論文作成に向けた視角 (3) (文化、身体、健康、体力) 第 4 回スポーツプロモーション研究の論文作成に向けた課題 (1) (労働・体力政策課題) 第 5 回スポーツプロモーション研究の論文作成に向けた課題 (2) (文化・レジャー政策課題) 第 6 回実践的研究事例 (1) (量的データ、質的データ) 第 7 回実践的研究事例 (2) (エスノメソドロジー、モノグラフ記述) 第 8 回実践的研究事例 (3) (歴史社会学的、文化社会学的) 第 9 回実践的研究事例 (4) (経済学的、経営学的) 第 10 回実践的研究事例 (5) (問題発見型、課題解決型、提案・問題解決型) |
| 履修条件 | スポーツプロモーション領域所属の学生 スポーツ健康科学論 I 及び II または III を修得した者 |

| | |
|-----------------------------------|--|
| 成績評価方法 | 修士論文あるいは特定課題研究報告書における研究方法論としての充実度を評価する。 評価基準 (A+, A, B, C 又は D) |
| 学修時間の割り当て及び授業外における学修方法 | 授業外における学修 (予習・復習等) については、適宜担当教員より指示 |
| 教材・参考文献・配付資料等 | テキスト 指導教員より指定 |
| オフィスアワー等 (連絡先含む) | オフィスアワーは特に設けない。 随時、下記メールアドレスに事前連絡の上、日時を設定する。 菊 幸一 kiku.koichi.ga at u.tsukuba.ac.jp |
| その他 (受講生にのぞむことや受講上の注意点等) | 自分の研究について深く探求してください。 |
| 他の授業科目との関連 | 0ATS110 スポーツプロモーション論特講 0ATS111 スポーツプロモーション論演習 1 0ATS112 スポーツプロモーション論演習 2 0ATS113 スポーツプロモーション論実習 0ATS120 スポーツイベント論特講 0ATS121 スポーツイベント論演習 1 0ATS122 スポーツイベント論演習 2 0ATS123 スポーツイベント論実習 |
| ティーチングフェロー (TF)・ティーチングアシスタント (TA) | 無 |
| キーワード | 政治課題 生活課題 健康政策 スポーツ政策 質的研究 量的研究 分析枠組み |

| | |
|--------------------|--|
| 授業科目名 | スポーツプロモーション研究方法論 V |
| 科目番号 | 0ATS165 |
| 単位数 | 2.0 単位 |
| 標準履修年次 | 2 年次 |
| 時間割 | 春 ABC 随時 |
| 担当教員 | 菊 幸一, 高橋 義雄 |
| 授業概要 | スポーツプロモーションに関する研究方法論について、その視角、課題について理解し、実証的な視点から検討して修士論文あるいは特定課題研究報告書を作成することを目標とする。学生の現職経験に基づく実践的な課題を取り上げ、政策科学的視点からその存立状況を構造的に分析することによって、専門研究にむけて課題化する。さらに明確化された専門課題解決の可能性と限界を明らかにし、問題解決に対応する専門研究の研究計画をデザインする。この研究計画に基づいて現職経験から得られる固有のデータを生かし、それを学術情報化することによって、修士論文・特定課題研究報告書を作成する。 |
| 備考 | 9 月末修了予定者用 01EK117 と同一。 |
| 授業形態 | 演習 |
| 学位プログラム・コンピテンスとの関係 | 知の活用力、研究力 |
| 授業の到達目標 (学修成果) | スポーツプロモーションに関する研究方法論について、その視角、課題について理解し、実証的な視点から検討して修士論文あるいは特定課題研究報告書を作成する。 |
| 授業計画 | <p>第 1 回スポーツプロモーション研究の論文作成に向けた視角 (1) (公共性、政策、政治課題)</p> <p>第 2 回スポーツプロモーション研究の論文作成に向けた視角 (2) (私的自由、生活課題、共同体)</p> <p>第 3 回スポーツプロモーション研究の論文作成に向けた視角 (3) (文化、身体、健康、体力)</p> <p>第 4 回スポーツプロモーション研究の論文作成に向けた課題 (1) (労働・体力政策課題)</p> <p>第 5 回スポーツプロモーション研究の論文作成に向けた課題 (2) (文化・レジャー政策課題)</p> <p>第 6 回実践的研究事例 (1) (量的データ、質的データ)</p> <p>第 7 回実践的研究事例 (2) (エスノメソドロジー、モノグラフ記述)</p> <p>第 8 回実践的研究事例 (3) (歴史社会学的、文化社会学的)</p> <p>第 9 回実践的研究事例 (4) (経済学的、経営学的)</p> <p>第 10 回実践的研究事例 (5) (問題発見型、課題解決型、提案・問題解決型)</p> |
| 履修条件 | スポーツプロモーション領域所属の学生 スポーツ健康科学論 I 及び II または III を修得した、9 月末修了予定者 |

| | |
|---------------------------------|--|
| 成績評価方法 | 修士論文あるいは特定課題研究報告書における研究方法論としての充実度を評価する。 |
| 学修時間の割り当て及び授業外における学修方法 | 授業外における学修(予習・復習等)については、適宜担当教員より指示 |
| 教材・参考文献・配付資料等 | 指導教員より指定 |
| オフィスアワー等(連絡先含む) | オフィスアワーは特に設けない。 随時、下記メールアドレスに事前連絡の上、日時を設定する。 菊 幸一 kiku.koichi.ga at u.tsukuba.ac.jp |
| その他(受講生にのぞむことや受講上の注意点等) | 自分の研究について深く探求してください。 |
| 他の授業科目との関連 | 0ATS110 スポーツプロモーション論特講 0ATS111 スポーツプロモーション論演習 1 0ATS112 スポーツプロモーション論演習 2 0ATS113 スポーツプロモーション論実習 0ATS120 スポーツイベント論特講 0ATS121 スポーツイベント論演習 1 0ATS122 スポーツイベント論演習 2 0ATS123 スポーツイベント論実習 |
| ティーチングフェロー(TF)・ティーチングアシスタント(TA) | 無 |
| キーワード | 問題意識 公共性 歴史社会学 文化社会学 産業社会学 論文作成 |

| | |
|--------------------|---|
| 授業科目名 | スポーツマネジメント論特講 |
| 科目番号 | 0ATS210 |
| 単位数 | 2.0 単位 |
| 標準履修年次 | 1・2 年次 |
| 時間割 | 秋 B 木 7,8; 秋 B 集中 |
| 担当教員 | 尾縣 貢 |
| 授業概要 | 地域のスポーツクラブと学校の運動部、それぞれの活動における問題点を明確にし、今後、取り組むべき課題とそれらを解決するための具体的な取り組みについて概説する。また、ジュニアからシニアにいたるまでのコーチング・トレーニングのマネジメントについても講義する。地域のスポーツクラブと学校の運動部の共存共栄がわが国のスポーツの更なる発展には求められている。マネジメントの面から、それぞれの活動における問題点を明確にし、今後、取り組むべき課題とそれらを解決するための具体的な取り組みについて概説する。また、ジュニアからシニアにいたるまでのコーチング・トレーニングのマネジメントについても講義する。 |
| 備考 | 集中講義 10:00~ 01EK201 と同一。 11/7,12/12 |
| 授業形態 | 講義 |
| 学位プログラム・コンピテンスとの関係 | 知の活用力、マネジメント能力、国際性、研究力、専門知識、倫理観 |
| 授業の到達目標 (学修成果) | 地域のスポーツクラブと学校の運動部、それぞれの活動における問題点を明確にし、今後、取り組むべき課題とそれらを解決するための具体的な取り組みについて概説する。また、ジュニアからシニアにいたるまでのコーチング・トレーニングのマネジメントについても講義する。 |
| 授業計画 | 第 1 回 1~2 回 スポーツマネジメントで学ぶこと (競技団体 学校 地域 JOC 日本体育協会) 第 2 回 3~4 回 現代スポーツにおける諸問題 (早期専門化 スポーツ離れ 競技人口減少 二極化) 第 3 回 5~6 回 国策としてのスポーツ (スポーツ立国戦略、スポーツ基本法) 第 4 回 7~8 回 学校体育から生涯スポーツへ (学習指導要領 運動部 授業 海外事情) 第 5 回 9~10 回 地域スポーツクラブにおけるマネジメント (指導者育成 施設 プログラム イベント) 第 6 回 11~12 回 タレント発掘からトップアスリート強化 (競技者育成プログラム 一貫指導 英才教育) 第 7 回 13~14 回 トレーニングのマネジメント I (ピリオダイゼーション コンディショニング) 第 8 回 15~16 回 トレーニングのマネジメント II (フィジカル メンタル テクニック) 第 9 回 17~18 回 競技会のマネジメント (競技役員 プログラム メディア 集客) |

| | |
|-----------------------------------|--|
| | 第 10 回 19~20 回 競技団体におけるマネジメント (スポンサー獲得 国際競技団体 委員会活動) |
| 履修条件 | 特になし |
| 成績評価方法 | 1. プレゼンテーションを評価する (50%) 2. レポートを評価する (50%) 評価基準 (A+, A, B, C 又は D) |
| 学修時間の割り当て及び授業外における学修方法 | 授業外における学修 (予習・復習等) については、適宜担当教員より指示 |
| 教材・参考文献・配付資料等 | テキスト:特になし。必要な資料を配布する。 参考図書 1) 山下秋二 他、図解スポーツマネジメント、大修館書店 2) 谷塚哲、地域スポーツクラブのマネジメント -クラブ設立から運営マニュアルまで-、カンゼン 3) 尾懸貢・青山清英監訳、競技力向上のトレーニング戦略、大修館書店 |
| オフィスアワー等 (連絡先含む) | 火曜日 17 時 00~20 時 30 分 東京キャンパス 534 電話 03-3942-6456 筑波キャンパス A402 電話 029-853-2674 |
| その他 (受講生にのぞむことや受講上の注意点等) | 積極的な受講態度を望みます。 |
| 他の授業科目との関連 | 0ATS211 スポーツマネジメント論演習 1 0ATS212 スポーツマネジメント論演習 2 0ATS213 スポーツマネジメント論実習 0ATS264 スポーツマネジメント研究方法論 IV 0ATS265 スポーツマネジメント研究方法論 V |
| ティーチングフェロー (TF)・ティーチングアシスタント (TA) | 無 |
| キーワード | 競技者育成, 指導者育成, トレーニング戦略, 学校体育, 運動部活動, トランスファー, 心技体, 超回復, インテグリティ |

| | |
|------------------------|--|
| 授業科目名 | スポーツマネジメント論演習 1 |
| 科目番号 | 0ATS211 |
| 単位数 | 1.0 単位 |
| 標準履修年次 | 1・2 年次 |
| 時間割 | 秋 ABC 随時 |
| 担当教員 | 尾縣 貢 |
| 授業概要 | スポーツマネジメントに関する解決すべき研究課題を設定し、文献研究を行ったうえで、各自の研究のデザインを作成する。スポーツ基本法、スポーツ立国戦略、学習指導要領等からわが国のスポーツが進むべき方向を考えるとともに、実際の地域スポーツクラブおよび学校運動部の活動状況、そしてそこに内在する問題点を把握させ、それぞれが共存共栄し、スポーツ文化を形成する上での礎となるための方策についてスポーツマネジメントの観点から検討していく。 |
| 備考 | 01EK212 と同一。 |
| 授業形態 | 演習 |
| 学位プログラム・コンピテンスとの関係 | マネジメント能力、コミュニケーション能力、チームワーク力、研究力、専門知識、倫理観 |
| 授業の到達目標 (学修成果) | スポーツマネジメントに関する解決すべき研究課題を設定し、文献研究を行ったうえで、各自の研究のデザインを作成する。 |
| 授業計画 | 第 1 回オリエンテーション 第 2 回研究課題の設定 第 3 回文献研究 (1) 文献検索の仕方、国内文献の検索 第 4 回文献研究 (2) 海外文献の検索、文献リストの作成 第 5 回文献研究 (3) 問題点の洗い出し、総説の作成 第 6 回研究デザインの作成 (1) 研究目的の設定、研究手法 第 7 回研究デザインの作成 (2) 仮設の立て方、研究の限界 第 8 回研究デザインの作成 (3) 章立て、図表の作成 第 9 回プレゼンテーション 第 10 回研究デザインの作成 (4) |
| 履修条件 | 主にスポーツマネジメント領域の学生 |
| 成績評価方法 | 研究デザインに関するレポート (60%) とプレゼンテーション (40%) 評価基準 (A+, A, B, C 又は D) |
| 学修時間の割り当て及び授業外における学修方法 | 授業外における学修 (予習・復習等) については、適宜担当教員より指示 |
| 教材・参考文献・配付資料等 | 必要な資料を配布する。 |

| | |
|-----------------------------------|--|
| オフィスアワー等 (連絡先含む) | 火曜日 17 時~20 時 30 分 東京キャンパス 534 電話 03-3942-6456 筑波キャンパス A402 電話 029-853-2674 |
| その他 (受講生にのぞむことや受講上の注意点等) | 積極的な受講態度を望みます。 |
| 他の授業科目との関連 | 0ATS210 スポーツマネジメント論特講 0ATS212 スポーツマネジメント論演習 2 0ATS213 スポーツマネジメント論実習 0ATS264 スポーツマネジメント研究方法論 IV 0ATS265 スポーツマネジメント研究方法論 V |
| ティーチングフェロー (TF)・ティーチングアシスタント (TA) | 無 |
| キーワード | 研究課題, 課題解決, 質的研究法, 量的研究法, 統計的手法, データベース |

| | |
|--------------------|--|
| 授業科目名 | スポーツマネジメント論演習 2 |
| 科目番号 | 0ATS212 |
| 単位数 | 2.0 単位 |
| 標準履修年次 | 1・2 年次 |
| 時間割 | 春 AB 金 7,8 |
| 担当教員 | 尾縣 貢 |
| 授業概要 | スポーツマネジメントに関する研究を取り上げ、それらを抄読することにより、今後解決すべき課題を明確にしたうえで、各々の課題を解決するための研究的取り組みについて理解する。スポーツ基本法、スポーツ立国戦略、学習指導要領等からわが国のスポーツが進むべき方向を考えるとともに、実際の地域スポーツクラブおよび学校運動部の活動状況、そしてそこに内在する問題点を把握させ、それぞれが共存共栄し、スポーツ文化を形成する上での礎となるための方策についてスポーツマネジメントの観点から検討していく。 |
| 備考 | 01EK213 と同一。 |
| 授業形態 | 演習 |
| 学位プログラム・コンピテンスとの関係 | マネジメント能力、コミュニケーション能力、チームワーク力、研究力、専門知識、倫理観 |
| 授業の到達目標 (学修成果) | スポーツマネジメントに関する研究を取り上げ、それらを抄読することにより、今後解決すべき課題を明確にしたうえで、各々の課題を解決するための研究的取り組みについて理解する。 |
| 授業計画 | 第 1 回 研究法の紹介 (1) インタビュー法、テープ起こし 第 2 回 研究法の紹介 (2) アンケート法、データ集計 第 3 回 研究法の紹介 (3) 画像解析、統計手法 第 4 回 文献の抄読 (1) レビューテーマ、文献の収集 第 5 回 文献の抄読 (2) J-ステージ、国内文献 第 6 回 文献の抄読 (3) インパクト・ファクター、海外文献 第 7 回 文献の抄読 (4) 専門用語集の作成 第 8 回 文献の抄読 (5) レビューの作成 第 9 回 文献の抄読 (6) レビューの発表 第 10 回 まとめと評価 レビューからの研究課題の設定 |
| 履修条件 | 主にスポーツマネジメント領域の学生 |
| 成績評価方法 | 課題レポートによって評価する |

| | |
|-----------------------------------|--|
| | 評価基準 (A+, A, B, C 又は D) |
| 学修時間の割り当て及び授業外における学修方法 | 授業外における学修 (予習・復習等) については、適宜担当教員より指示 |
| 教材・参考文献・配付資料等 | 必要な資料を配布する。 |
| オフィスアワー等 (連絡先含む) | 火曜日 17 時~20 時 30 分 東京キャンパス 534 電話 03-3942-6456 筑波キャンパス A402 電話 029-853-2674 |
| その他 (受講生にのぞむことや受講上の注意点等) | 積極的な受講態度を望みます。 |
| 他の授業科目との関連 | 0ATS210 スポーツマネジメント論特講 0ATS211 スポーツマネジメント論演習 1 0ATS213 スポーツマネジメント論実習 0ATS264 スポーツマネジメント研究方法論 IV 0ATS265 スポーツマネジメント研究方法論 V |
| ティーチングフェロー (TF)・ティーチングアシスタント (TA) | 無 |
| キーワード | 統計的手法, 多変量解析, 質的保証, KJ 法, 半構造化, 仮説の検証 |

| | |
|-----------------------------------|--|
| 授業科目名 | スポーツマネジメント論実習 |
| 科目番号 | 0ATS213 |
| 単位数 | 1.0 単位 |
| 標準履修年次 | 1・2 年次 |
| 時間割 | 通年 随時 |
| 担当教員 | 尾縣 貢 |
| 授業概要 | 学生の現職経験や体験から導かれる地域のスポーツクラブと学校の運動部における具体的成功例や失敗例を分析することで、マネジメント上の問題点を明らかにし、解決すべき課題をあげる。そして、現職経験等から見た課題解決のために必要な方策を考案し、その方策の有用性に関して議論を繰り返すことで、包括的なマネジメント戦略を構築していく。 |
| 備考 | 01EK205 と同一。 |
| 授業形態 | 実習・実験・実技 |
| 学位プログラム・コンピテンスとの関係 | コミュニケーション能力、チームワーク力、研究力、専門知識、倫理観 |
| 授業の到達目標 (学修成果) | 学生の現職経験や体験から導かれる地域のスポーツクラブと学校の運動部における具体的成功例や失敗例を分析することで、マネジメント上の問題点を明らかにし、解決すべき課題をあげる。そして、現職経験等から見た課題解決のために必要な方策を考案し、その方策の有用性に関して議論を繰り返すことで、包括的なマネジメント戦略を構築していく。 |
| 授業計画 | <ul style="list-style-type: none"> ・事前学習: 実習オリエンテーション実習課題の設定 ・集中実習: 学校運動部活動、地域スポーツクラブの活動、競技大会などを視察し、現状を把握するとともに、マネジメントにおける課題点を明確にしたうえで、解決策を考える。 ・事後学習: レポートをまとめて、発表をする。 |
| 履修条件 | 主にスポーツマネジメント領域の学生 |
| 成績評価方法 | 実習報告書 (70%)、プレゼンテーション (30%) 評価基準 (A+, A, B, C 又は D) |
| 学修時間の割り当て及び授業外における学修方法 | 事前に実習課題の設定、事後にレポートを作成し、発表する。 |
| 教材・参考文献・配付資料等 | テキスト、参考図書:特になし。必要に応じて資料を配布する。 |
| オフィスアワー等 (連絡先含む) | 火曜日 17 時~20 時 30 分 東京キャンパス 534 電話 03-3942-6456 筑波キャンパス A402 電話 029-853-2674 |
| その他 (受講生にのぞむことや受講上の注意点等) | 積極的な実習態度を望みます。 |
| 他の授業科目との関連 | 0ATS210 スポーツマネジメント論特講 0ATS211 スポーツマネジメント論演習 1 0ATS212 スポーツマネジメント論演習 2 0ATS264 スポーツマネジメント研究方法論 IV 0ATS265 スポーツマネジメント研究方法論 V |
| ティーチングフェロー (TF)・ティーチングアシスタント (TA) | 必要に応じて任用する |

キーワード

ケーススタディ, アクション・リサーチ, 機縁法, PDCA サイクル, プレゼンテーションスキル

| | |
|--------------------|--|
| 授業科目名 | 高度競技マネジメント論特講 |
| 科目番号 | 0ATS220 |
| 単位数 | 2.0 単位 |
| 標準履修年次 | 1・2 年次 |
| 時間割 | 春 A 火 7,8; 春 BC 集中 |
| 担当教員 | 山口 香 |
| 授業概要 | 国際競技力開発の理念としてのスポーツ・プロフェッショナリズムの重要性およびシステム編成に必要な資源評価・査定・開発とそのシステムマネジメントの課題と方法論について理解する。国際競技力開発に関する世界的状況を概括し、我が国における問題と課題を明らかにする。そして、国際競技力開発の仕組みを「発掘・育成・強化・支援」の各開発段階における物的・人的・文化的資源のシステム化として概説し、システム編成に必要な資源評価・査定・開発とそのシステムマネジメントの課題と方法論について講義する。 |
| 備考 | 4/21,4/28,5/12,5/23,6/8,6/13,6/29,7/20,7/28,8/1 開講。土曜日は 10:00~12:40、他の曜日は 7,8 限。 01EK206 と同一。 |
| 授業形態 | 講義 |
| 学位プログラム・コンピテンスとの関係 | 知の活用力、マネジメント能力、国際性、研究力、専門知識、倫理観 |
| 授業の到達目標 (学修成果) | 国際競技力開発の理念としてのスポーツ・プロフェッショナリズムの重要性およびシステム編成に必要な資源評価・査定・開発とそのシステムマネジメントの課題と方法論について理解する |
| 授業計画 | 第 1 回ガイダンス 第 2 回総合戦略 (マネジメント, ストラテジー) 第 3 回組織のあり方 (JOC, NF, JSC の構造及び役割) 第 4 回ナショナルトレーニングセンター (1) (合宿, 国際交流) 第 5 回ナショナルトレーニングセンター (2) (エリートアカデミー, コーチアカデミー) 第 6 回タレント発掘と一貫指導 (1) (タレント, 地域の取り組み) 第 7 回タレント発掘と一貫指導 (2) (指導理念の共有, 種目転向) 第 8 回コーチングとは (コーチング, 理念) 第 9 回一流プレイヤーの特徴 (理解, 信頼関係) 第 10 回コーチに必要な資質 (公平性, 伝達能力, 探究心, ネットワーク) 第 11 回キャリア教育の重要性 (セカンドキャリア) |

| | |
|--------------------------|---|
| | <p>第 12 回オリンピックや W 杯など大会のマネジメント (役割分担, 情報収集・管理, メディア対策)</p> <p>第 13 回 Team behind the team (医科学サポート, 栄養, ドーピング)</p> <p>第 14 回リスクマネジメント (コンディショニング・安全)</p> <p>第 15 回情報戦略 (情報収集・選別・活用)</p> <p>第 16 回国際競争力 (IF,IOC)</p> <p>第 17 回コミュニケーションスキル (ネットワーク, 社交性, 国際性)</p> <p>第 18 回スポーツの目指すもの (スポーツ庁の役割・強化拠点)</p> <p>第 19 回 2020 のレガシーと今後の国際強化戦略 (金メダル戦略・重点強化)</p> <p>第 20 回まとめ</p> |
| 履修条件 | スポーツにおける基本的な知識を有しており、国際競技力向上施策について研究する意欲のある者 |
| 成績評価方法 | レポートで評価する。 評価基準 (A+, A, B, C 又は D) |
| 学修時間の割り当て及び授業外における学修方法 | 授業外における学修 (予習・復習等) については、適宜担当教員より指示 |
| 教材・参考文献・配付資料等 | テキストは特になし。必要に応じて資料を配布する。 1. JOHN LYLE,SPORTS COACHING CONCEPTS 2. ジェラルド・ウリエ, ジャック・クルボアジェ, フランスサッカーのプロフェッショナル・コーチング 3. 河野一郎監修・勝田 隆著, 知的コーチングのすすめ |
| オフィスアワー等 (連絡先含む) | 木曜日 17 時半~18 時 20 分 東京キャンパス 電話 03-3942-6451 つくばキャンパス B405 電話 029-853-2687 |
| その他 (受講生にのぞむことや受講上の注意点等) | 積極的な受講態度を望みます。 |
| 他の授業科目との関連 | 0ATS221 高度競技マネジメント論演習 1 0ATS222 高度競技マネジメント論演習 2 0ATS223 高度競技マネジメント論実習 0ATS264 スポーツマネジメント研究方法論 IV 0ATS265 スポーツマネジメント研究方法論 V |

| | |
|--------------------------------------|----------------------------|
| ティーチングフェロー (TF)・ティーチングアシスタント (TA) | 無 |
| キーワード | 国際競技力向上, マネジメント, 組織, コーチング |

| | |
|------------------------|---|
| 授業科目名 | 高度競技マネジメント論演習 1 |
| 科目番号 | 0ATS221 |
| 単位数 | 1.0 単位 |
| 標準履修年次 | 1・2 年次 |
| 時間割 | 春 ABC 随時 |
| 担当教員 | 山口 香 |
| 授業概要 | オリンピックにおいて競技者の最高パフォーマンスを発揮させるために必要なマネジメントの実践的な課題を、国際・国内スポーツ組織論、情報戦略論、競技パフォーマンス分析論、競技者及びチームマネジメント論、メディアマネジメント論等の総合的戦略として理解する。国際競技大会において競技者及びチームの最高パフォーマンスを発揮させるために必要なマネジメントの実践的な課題を、国際・国内スポーツ組織論、情報戦略論、競技パフォーマンス分析論、競技者及びチームマネジメント論、メディアマネジメント論、スポンサー対応論等の総合的戦略として理解させ、オリンピック競技大会やワールドカップ等の具体的事例に対応する国際競技スポーツマネジメントのシミュレーションを行う。 |
| 備考 | 01EK214 と同一。 |
| 授業形態 | 演習 |
| 学位プログラム・コンピテンスとの関係 | マネジメント能力、コミュニケーション能力、チームワーク力、研究力、専門知識、倫理観 |
| 授業の到達目標 (学修成果) | オリンピック等の重要な国際大会において競技者の最高パフォーマンスを発揮させるために必要なマネジメントの実践的な課題を、国際・国内スポーツ組織論、情報戦略論、競技パフォーマンス分析論、競技者及びチームマネジメント論、メディアマネジメント論等の総合的戦略として理解する。 |
| 授業計画 | 第 1 回オリエンテーション 第 2 回オリンピックリ等、重要な国際大会に向けた強化計画 (ジュニア, シニア, 合宿, スケジュール) 第 3 回強化計画に関するの発表と討議 第 4 回オリンピックにおける情報戦略 (情報収集, 現地視察, サポート) 第 5 回情報戦略に関するの発表と討議 第 6 回オリンピックの選手選考 (選考会, ランキング, 実績の評価) 第 7 回選手選考に関するの発表と討議 第 8 回オリンピック等の重要な国際大会における大会のマネジメント (選手村, 村外との連携, 情報管理) 第 9 回大会のマネジメントにおける発表と討議 第 10 回まとめ |
| 履修条件 | 主にスポーツマネジメント領域の学生 |
| 成績評価方法 | 課題に対する発表 (50%)、レポート (50%) で評価する。 評価基準 (A+, A, B, C 又は D) |
| 学修時間の割り当て及び授業外における学修方法 | 授業外における学修 (予習・復習等) については、適宜担当教員より指示 |

| | |
|---------------------------------|--|
| 教材・参考文献・配付資料等 | 特になし。必要な資料をその都度配布する。 |
| オフィスアワー等(連絡先含む) | 水曜日 17時30分~18時20分 東京キャンパス 電話 03-3942-6451 筑波キャンパス B405 電話 029-853-2687 |
| その他(受講生にのぞむことや受講上の注意点等) | 積極的な受講態度を望みます。 |
| 他の授業科目との関連 | 0ATS220 高度競技マネジメント論特講 0ATS222 高度競技マネジメント論演習 2 0ATS223 高度競技マネジメント論実習 0ATS264 スポーツマネジメント研究方法論 IV 0ATS265 スポーツマネジメント研究方法論 V |
| ティーチングフェロー(TF)・ティーチングアシスタント(TA) | 無 |
| キーワード | 国際競技力, チームマネジメント, 情報戦略 |

| | |
|------------------------|--|
| 授業科目名 | 高度競技マネジメント論演習 2 |
| 科目番号 | 0ATS222 |
| 単位数 | 2.0 単位 |
| 標準履修年次 | 1・2 年次 |
| 時間割 | 秋 AB 火 7,8 |
| 担当教員 | 山口 香 |
| 授業概要 | スポーツ基本法、スポーツ立国戦略、学習指導要領等からわが国のスポーツが進むべき方向を考えるとともに、実際の地域スポーツクラブおよび学校運動部の活動状況、そしてそこに内在する問題点を把握させ、それぞれが共存共栄し、スポーツ文化を形成する上での礎となるための方策についてスポーツマネジメントの観点から検討していく。 |
| 備考 | 01EK215 と同一。 |
| 授業形態 | 演習 |
| 学位プログラム・コンピテンスとの関係 | マネジメント能力、コミュニケーション能力、チームワーク力、研究力、専門知識、倫理観 |
| 授業の到達目標 (学修成果) | 国際競技大会において競技者の最高パフォーマンスを発揮させるために必要なコーチングの実践的な課題を、国際・国内スポーツ組織論、情報戦略論、競技パフォーマンス分析論、競技者及びチームマネジメント論等の総合的戦略として理解する。 |
| 授業計画 | 第 1 回オリエンテーション 第 2 回目標設定とモチベーション (目標設定の意義, 評価と分析) 第 3 回目標設定について発表と討議 第 4 回コーチの資質 (コミュニケーション能力, 技術分析, 伝達能力) 第 5 回コーチの資質について発表と討議 第 6 回大会におけるコーチング (情報管理, 声かけ, 対応力) 第 7 回大会におけるコーチングについて発表と討議 第 8 回ネットワークと情報収集 (情報収集力, ネットワーク, 国際性) 第 9 回ネットワークと情報収集について発表と討議 第 10 回まとめ |
| 履修条件 | 主にスポーツマネジメント領域の学生 |
| 成績評価方法 | 課題に対する発表 (50%)、レポート (50%) で評価する。 評価基準 (A+, A, B, C 又は D) |
| 学修時間の割り当て及び授業外における学修方法 | 授業外における学修 (予習・復習等) については、適宜担当教員より指示 |
| 教材・参考文献・配付資料等 | 必要な資料をその都度配布する。 |
| オフィスアワー等 (連絡先含む) | 水曜日 17 時 30 分~18 時 20 分 東京キャンパス 電話 03-3942-6451 筑波キャンパス B405 電話 029-853-2687 |

| | |
|-----------------------------------|--|
| その他 (受講生にのぞむことや受講上の注意点等) | 積極的な受講態度を望みます。 |
| 他の授業科目との関連 | 0ATS220 高度競技マネジメント論特講 0ATS221 高度競技マネジメント論演習 1 0ATS223 高度競技マネジメント論実習 0ATS264 スポーツマネジメント研究方法論 IV 0ATS265 スポーツマネジメント研究方法論 V |
| ティーチングフェロー (TF)・ティーチングアシスタント (TA) | 無 |
| キーワード | 国際競技力向上, チームマネジメント, 情報戦略, コーチング |

| | |
|------------------------|--|
| 授業科目名 | 高度競技マネジメント論実習 |
| 科目番号 | 0ATS223 |
| 単位数 | 1.0 単位 |
| 標準履修年次 | 1・2 年次 |
| 時間割 | 通年 随時 |
| 担当教員 | 山口 香 |
| 授業概要 | 学生の現職経験から導かれる国際競技大会における具体的な成功事例や失敗事例等を競技力開発と総合戦略の視点から捉え直し、そこにおける国際競技マネジメントの具体的な課題を明らかにする。そして、現職経験との関係から見た課題解決のために必要な資源評価・査定・開発及びシステム編成のモデルをデザインし、そのモデルと現職経験の比較検討を通して、具体的な課題解決に向けたマネジメント戦略をシミュレーションする。 |
| 備考 | 01EK210 と同一。 |
| 授業形態 | 実習・実験・実技 |
| 学位プログラム・コンピテンスとの関係 | コミュニケーション能力、知チームワーク力、研究力、専門知識、倫理観 |
| 授業の到達目標 (学修成果) | 学生の現職経験から導かれる国際競技大会における具体的な成功事例や失敗事例等を競技力開発と総合戦略の視点から捉え直し、そこにおける国際競技マネジメントの具体的な課題を明らかにする。そして、現職経験との関係からみた課題解決のために必要な資源評価・査定・開発及びシステム編成のモデルをデザインし、そのモデルと現職経験の比較検討を通して、具体的な課題解決に向けたマネジメント戦略をシミュレーションすることを目標とする。 |
| 授業計画 | 第 1 回オリエンテーション 授業概要と計画の確認 第 2 回ケーススタディ 第 3 回課題設定と課題解決のための仮説 第 4 回フィールドワーク (1) 課題の抽出のための仮説 第 5 回フィールドワーク (2) 課題についての検討およびディスカッション 第 6 回フィールドワーク (3) 課題解決への取り組み 第 7 回フィールドワーク (4) 課題解決取り組みへの評価 第 8 回フィールドワーク (5) 外部関係者からの評価 第 9 回プレゼンテーション ワーキンググループの発表 第 10 回ディスカッション 全体ディスカッション、授業全体の総括 |
| 履修条件 | スポーツにおける現場での競技もしくは指導経験を有する者。また、それに準ずる者。 |
| 成績評価方法 | 実際に体験した事例を各自がまとめ、プレゼンテーションを行う。内容とプレゼンテーション能力を評価する。 評価基準 (A+, A, B, C 又は D) |
| 学修時間の割り当て及び授業外における学修方法 | 授業外における学修 (予習・復習等) については、適宜担当教員より指示 |

| | |
|-----------------------------------|---|
| 教材・参考文献・配付資料等 | <p>テキスト:特になし。必要な資料をその都度配布する。</p> <p>参考図書:随時指定する。</p> |
| オフィスアワー等 (連絡先含む) | <p>木曜日 17 時 30 分~18 時 20 分</p> <p>東京キャンパス 電話 03-3942-6451</p> <p>筑波キャンパス B405 電話 029-853-2687</p> |
| その他 (受講生にのぞむことや受講上の注意点等) | <p>積極的な実習態度を望みます。</p> |
| 他の授業科目との関連 | <p>0ATS220 高度競技マネジメント論特講</p> <p>0ATS221 高度競技マネジメント論演習 1</p> <p>0ATS222 高度競技マネジメント論演習 2</p> <p>0ATS264 スポーツマネジメント研究方法論 IV</p> <p>0ATS265 スポーツマネジメント研究方法論 V</p> |
| ティーチングフェロー (TF)・ティーチングアシスタント (TA) | <p>必要に応じて任用する</p> |
| キーワード | <p>国際競技大会, 課題解決, マネジメント戦略</p> |

| | |
|------------------------|---|
| 授業科目名 | スポーツマネジメント研究方法論 IV |
| 科目番号 | 0ATS264 |
| 単位数 | 2.0 単位 |
| 標準履修年次 | 2 年次 |
| 時間割 | 秋 ABC 随時 |
| 担当教員 | 尾縣 貢, 山口 香 |
| 授業概要 | 現職としてのフィールドを最大限に生かした上での課題意識を明確にし、それらを合理的・客観的に解決するための科学的技法について学習するとともに、成果をまとめあげて公表するまでの一連のプロセスを習得し、研究的視野と技法を身につけた高度専門職としての能力を高めることを目標とする。スポーツマネジメントに関する学生の実践的研究課題に対応しながら、実践的課題解決に向けた研究計画をデザインする。この研究計画に基づいて、現職経験から得られる固有のデータを生かし、それを学術情報化することによって、修士論文・特定課題研究の作成を導く。 |
| 備考 | 01EK216 と同一。 |
| 授業形態 | 演習 |
| 学位プログラム・コンピテンスとの関係 | 知の活用力、研究力 |
| 授業の到達目標 (学修成果) | 現職としてのフィールドを最大限に生かした上での課題意識を明確にし、それらを合理的・客観的に解決するための科学的技法について学習するとともに、成果をまとめあげて公表するまでの一連のプロセスを習得し、研究的視野と技法を身につけた高度専門職としての能力を高める。 |
| 授業計画 | 第 1 回 1~2 回 研究活動としての特質 第 2 回 3~4 回 研究の進め方 第 3 回 5~6 回 文献の調査と収集 第 4 回 7~8 回 定量的研究 第 5 回 9~10 回 定性的研究 第 6 回 11~12 回 課題設定 第 7 回 13~14 回 データの収集 第 8 回 15~16 回 データの整理 第 9 回 17~18 回 考察のしかた 第 10 回 19~20 回 研究のまとめかた 研究発表の方法 |
| 履修条件 | スポーツマネジメント領域所属の学生 スポーツ健康科学論 I 及び II または III を修得した者 |
| 成績評価方法 | 修士論文あるいは特定課題研究報告書における研究方法論としての充実度を評価する。 評価基準 (A+, A, B, C 又は D) |
| 学修時間の割り当て及び授業外における学修方法 | 授業外における学修 (予習・復習等) については、適宜担当教員より指示 |
| 教材・参考文献・配付資料等 | 1) David H. Clarke, Research Processes in Physical Education, Recreation, and Health, Prentice Hall 2) Jerry R. Thomas, Introduction to Research in Health, PE, Recreation and Dance, Human Kinetics |

| | |
|-----------------------------------|--|
| オフィスアワー等 (連絡先含む) | 火曜日 17 時~20 時 30 分 東京キャンパス 534 電話 03-3942-6456(尾懸) 東京キャンパス 538 電話 03-3942-6451(山口) |
| その他 (受講生にのぞむことや受講上の注意点等) | 積極的な研究姿勢を望みます。 |
| 他の授業科目との関連 | 0ATS210 スポーツマネジメント論特講 0ATS211 スポーツマネジメント論演習 1 0ATS212 スポーツマネジメント論演習 2 0ATS213 スポーツマネジメント論実習 0ATS220 高度競技マネジメント論特講 0ATS221 高度競技マネジメント論演習 1 0ATS222 高度競技マネジメント論演習 2 0ATS223 高度競技マネジメント論実習 |
| ティーチングフェロー (TF)・ティーチングアシスタント (TA) | 無 |
| キーワード | 事例研究, 実践研究, アンケート法, インタビュー法, アクション・リサーチ, PDCA |

| | |
|------------------------|---|
| 授業科目名 | スポーツマネジメント研究方法論 V |
| 科目番号 | 0ATS265 |
| 単位数 | 2.0 単位 |
| 標準履修年次 | 2 年次 |
| 時間割 | 春 ABC 随時 |
| 担当教員 | 尾縣 貢, 山口 香 |
| 授業概要 | 現職としてのフィールドを最大限に生かした上での課題意識を明確にし、それらを合理的・客観的に解決するための科学的技法について学習するとともに、成果をまとめあげて公表するまでの一連のプロセスを習得し、研究的視野と技法を身につけた高度専門職としての能力を高めることを目標とする。スポーツマネジメントに関する学生の実践的研究課題に対応しながら、実践的課題解決に向けた研究計画をデザインする。この研究計画に基づいて、現職経験から得られる固有のデータを生かし、それを学術情報化することによって、修士論文・特定課題研究の作成を導く。 |
| 備考 | 9 月末修了予定者用 01EK217 と同一。 |
| 授業形態 | 演習 |
| 学位プログラム・コンピテンスとの関係 | 知の活用力、研究力 |
| 授業の到達目標 (学修成果) | 現職としてのフィールドを最大限に生かした上での課題意識を明確にし、それらを合理的・客観的に解決するための科学的技法について学習するとともに、成果をまとめあげて公表するまでの一連のプロセスを習得し、研究的視野と技法を身につけた高度専門職としての能力を高める。 |
| 授業計画 | 第 1 回 1~2 回 研究活動としての特質 第 2 回 3~4 回 研究の進め方 第 3 回 5~6 回 文献の調査と収集 第 4 回 7~8 回 定量的研究 第 5 回 9~10 回 定性的研究 第 6 回 11~12 回 課題設定 第 7 回 13~14 回 データの収集 第 8 回 15~16 回 データの整理 第 9 回 17~18 回 考察のしかた 第 10 回 19~20 回 研究のまとめかた 研究発表の方法 |
| 履修条件 | スポーツマネジメント領域所属の学生 スポーツ健康科学論 I 及び II または III を修得した、9 月末修了予定者 |
| 成績評価方法 | 修士論文あるいは特定課題研究報告書における研究方法論としての充実度を評価する。 評価基準 (A+, A, B, C 又は D) |
| 学修時間の割り当て及び授業外における学修方法 | 授業外における学修 (予習・復習等) については、適宜担当教員より指示 |

| | |
|-----------------------------------|--|
| 教材・参考文献・配付資料等 | 1) David H. Clarke、Research Processes in Physical Education, Recreation, and Health、Prentice Hall 2) Jerry R. Thomas、Introduction to Research in Health, PE, Recreation and Dance, Human Kinetics |
| オフィスアワー等 (連絡先含む) | 火曜日 17 時 ~ 20 時 30 分 東京キャンパス 534 電話 03-3942-6456(尾懸) 東京キャンパス 538 電話 03-3942-6451(山口) |
| その他 (受講生にのぞむことや受講上の注意点等) | 積極的な研究姿勢を望みます。 |
| 他の授業科目との関連 | 0ATS210 スポーツマネジメント論特講 0ATS211 スポーツマネジメント論演習 1 0ATS212 スポーツマネジメント論演習 2 0ATS213 スポーツマネジメント論実習 0ATS220 高度競技マネジメント論特講 0ATS221 高度競技マネジメント論演習 1 0ATS222 高度競技マネジメント論演習 2 0ATS223 高度競技マネジメント論実習 |
| ティーチングフェロー (TF)・ティーチングアシスタント (TA) | 無 |
| キーワード | 事例研究, 実践研究, アンケート法, インタビュー法, アクション・リサーチ, PDCA |

| | |
|------------------------|--|
| 授業科目名 | スポーツプロモーション法制論特講 |
| 科目番号 | 0ATS311 |
| 単位数 | 1.0 単位 |
| 標準履修年次 | 1・2 年次 |
| 時間割 | 秋 B 水 7,8 |
| 担当教員 | 齋藤 健司 |
| 授業概要 | スポーツプロモーションに関係する法制度全般を概説し検討する。また、今後のスポーツ立法政策について考える。スポーツ関連法制について概観し、スポーツプロモーションに向けたスポーツ法制度の構造や諸課題を具体的な事例を通じて講義する。アマチュアスポーツやスポーツ行政だけでなくプロスポーツやスポーツの経済的活動に関する法制度も解説する。 |
| 備考 | 西暦偶数年度開講。 01EK302 と同一。 |
| 授業形態 | 講義 |
| 学位プログラム・コンピテンスとの関係 | 知の活用力、マネジメント能力、国際性、専門知識 |
| 授業の到達目標 (学修成果) | スポーツプロモーションを行う実務家が必要とするスポーツプロモーションに関する法制度の専門的知識の理解を深め、スポーツプロモーションのための実践力の向上を図る。スポーツ法に関する基礎的知識と研究力の養成を行い、関連分野における知の活用力及び倫理観を身につける。 1) スポーツプロモーション法制における倫理観を確立すること 2) スポーツプロモーション法制に関する専門的知識を理解し、説明できるようになること。 3) スポーツプロモーションに関する法務に関する実践力を向上させる。 4) スポーツ法に関する基礎知識を理解し、研究課題や実務的課題において活用できるようになること。 |
| 授業計画 | 第 1 回スポーツ基本法の構成と特色 第 2 回スポーツ法の体系と国際動向 (Lex Olympica・Lex Sportiva) 第 3 回スポーツ法の主体とスポーツ団体のガバナンス 第 4 回スポーツの紛争解決と法 第 5 回スポーツ事故と法的責任・法的防御書類 第 6 回アンチ・ドーピング法 第 7 回知的財産法、著作権法とスポーツの権利ビジネス 第 8 回スポーツ放送法 第 9 回選手契約と労働法・独占禁止法 第 10 回スポーツ権とスポーツプロモーション |
| 履修条件 | 特になし |
| 成績評価方法 | 講義中の討議の内容 (20%) と レポート課題 (80%) によって評価する 評価基準 (A+, A, B, C 又は D) |
| 学修時間の割り当て及び授業外における学修方法 | 毎回の講義内容を復習し、専門用語の意味などを確認すること。 関連する法令、判例、事例などに関連する文献、資料等を読み、理解を深めること。 |

| | |
|-----------------------------------|---|
| 教材・参考文献・配付資料等 | <p>適宜プリントを配布する。 教科書は使用しない。下記の参考文献などがある。</p> <p>日本スポーツ法学会 監修:標準テキストスポーツ法学大3版、エイデル研究所、2020年 日本スポーツ法学会 編:詳解スポーツ基本法、成文堂、2011年 グレン M ウォン・川井圭司:スポーツビジネスの法と文化、2012年 日本弁護士連合会スポーツ・エンターティメント法促進 PT:スポーツ事故の法務、創 耕舎、2013年 日本スポーツ法学会年報 各号</p> |
| オフィスアワー等 (連絡先含む) | <p>金曜日 17時30分~19時30分 つくばキャンパス B602 電話 029-853-6364 Email:saito.kenji.fw@u.tsukuba.ac.jp 東京キャンパス連絡先 専攻事務室:電話 03-3942-6365(開始時間等のお問い合わせはこちらへ)</p> |
| その他 (受講生にのぞむことや受講上の注意点等) | <p>欠席、遅刻、途中退出などがある場合には、事前に届け出ること。</p> |
| 他の授業科目との関連 | <p>0ATP7F3 スポーツ法学演習</p> |
| ティーチングフェロー (TF)・ティーチングアシスタント (TA) | <p>無</p> |
| キーワード | <p>スポーツ法, 法的責任, スポーツ基本法, 契約, 権利</p> |

| | |
|------------------------|---|
| 授業科目名 | スポーツの倫理と教育 |
| 科目番号 | 0ATS312 |
| 単位数 | 1.0 単位 |
| 標準履修年次 | 1・2 年次 |
| 時間割 | 春 C 集中 |
| 担当教員 | 長谷川 悦示, 深澤 浩洋 |
| 授業概要 | 我が国のスポーツプロモーションにおけるスポーツの倫理と教育の可能性について、歴史的変遷や諸外国との比較を通じて説明できる。また、我が国のスポーツ教育の政策の歴史を踏まえ、今後の課題について説明することができることを目標とする。我が国のスポーツプロモーションにおけるスポーツの倫理について、ルールやエトス、フェアプレイなどをめぐって講義する。また我が国のスポーツ教育政策の歴史を概観し、スポーツ教育の諸課題について講義する。 |
| 備考 | 西暦奇数年度開講 01EK321 と同一。 2020 年度開講せず。 |
| 授業形態 | 講義 |
| 学位プログラム・コンピテンスとの関係 | 知の活用力、マネジメント能力、国際性、専門知識 |
| 授業の到達目標 (学修成果) | 我が国のスポーツプロモーションにおけるスポーツの倫理や教育の可能性について、歴史的変遷や諸外国との比較を通じて説明できる。また、我が国のスポーツ教育の政策の歴史を踏まえ、今後の課題について説明することができる。 |
| 授業計画 | 第 1 回スポーツの価値と倫理 担当:深澤 浩洋 第 2 回スポーツと倫理問題の場 担当:深澤 浩洋 第 3 回スポーツにおけるルールとエトス 担当:深澤 浩洋 第 4 回スポーツにおける自律性・個の確立・ガバナンス 担当:深澤 浩洋 第 5 回フェアネスの奨励-スポーツにできること 担当:深澤 浩洋 第 6 回スポーツと学校体育 担当:長谷川 悦示 第 7 回学習指導要領の変遷 担当:長谷川 悦示 第 8 回体育教師の実践的指導力 担当:長谷川 悦示 第 9 回体育教師の教授行動分析 担当:長谷川 悦示 第 10 回体育教師のための授業評価システム 担当:長谷川 悦示 |
| 履修条件 | 特になし |
| 成績評価方法 | 授業での取り組み:40%(長谷川分・深澤分各 20%)、レポート:60%(長谷川分・深澤分各 30%) 評価基準 (A+, A, B, C 又は D) |
| 学修時間の割り当て及び授業外における学修方法 | 授業外における学修 (予習・復習等) については、適宜担当教員より指示 |
| 教材・参考文献・配付資料等 | テキスト 特に指定しない 参考図書 日本体育学会学校体育問題検討特別委員会 (監)(2002) 世界学校体育サミット. 杏林書院:東京 フェアネスの表と裏. 不昧堂:東京 レンク、H.・ピルツ、G. |
| オフィスアワー等 (連絡先含む) | 月曜日 16 時 30 分~17 時 30 分 つくばキャンパス A501 電話 029-853-6340(長谷川) B508 電話 029-853-6341(深澤) 東京キャンパス連絡先 専攻事務室:電話 03-3942-6365(開始時間等のお問い合わせはこちらへ) |

| | |
|-----------------------------------|---------------------------------------|
| その他 (受講生にのぞむことや受講上の注意点等) | 積極的な受講態度を望みます。 |
| 他の授業科目との関連 | |
| ティーチングフェロー (TF)・ティーチングアシスタント (TA) | 無 |
| キーワード | ルール, エトス, 自律性, 学習指導要領, 実践的指導力, 教授行動分析 |

| | |
|--------------------|--|
| 授業科目名 | スポーツプロモーションとビジネス |
| 科目番号 | 0ATS313 |
| 単位数 | 1.0 単位 |
| 標準履修年次 | 1・2 年次 |
| 時間割 | 秋 C 木 7,8 |
| 担当教員 | 仲澤 眞, 嵯峨 寿 |
| 授業概要 | スポーツプロモーションに関連する産業やビジネスを概観し、ビジネスマネジメントの視点からスポーツやスポーツイベントの特徴について事例を通じて講義する。スポーツプロモーションの視点から、プロスポーツの運営やスポーツメーカーのブランディングの事例を取り上げ、スポーツビジネスの現状と課題について講義する。 |
| 備考 | 西暦奇数年度開講 01EK322 と同一。 2020 年度開講せず。 |
| 授業形態 | 講義 |
| 学位プログラム・コンピテンスとの関係 | 知の活用力、マネジメント能力、国際性、専門知識 |
| 授業の到達目標 (学修成果) | スポーツプロモーションに関連する産業やビジネスを概観し、ビジネスマネジメントの視点からスポーツやスポーツイベントの特徴について事例を通じて講義する。 |
| 授業計画 | <p>第 1 回コミュニケーション論とプロモーション戦略 (コミュニケーション過程、プル戦略、プッシュ戦略) 担当:仲澤 眞</p> <p>第 2 回メディアの多様化とプロモーション戦略 (SNS、CGM、e-WOM、関係性マーケティング) 担当:仲澤 眞</p> <p>第 3 回プロサッカーにおけるプロモーション事例 (1) (記号化、メッセージ、メディア・ミックス) 担当:仲澤 眞</p> <p>第 4 回プロサッカーにおけるプロモーション事例 (2) (ジュビロ磐田、オピニオンボックス、CRM) 担当:仲澤 眞</p> <p>第 5 回プロ野球におけるプロモーション事例 (東京ヤクルト、女性観戦者、代替的消費) 担当:仲澤 眞</p> <p>第 6 回パブリックリレーション活動 (ロールモデル教育、パブリシティー戦略) 担当:嵯峨 寿</p> <p>第 7 回スポーツ用品企業のスポーツプロモーション (ナイキ、ブランドコミュニケーション、cause-promotion) 担当:嵯峨 寿</p> <p>第 8 回オリンピックスポンサー企業のオリンピック・プロモーション (オリンピズム、スポンサーシップ、アクティベーション、creating shared values) 担当:嵯峨 寿</p> <p>第 9 回バドミントンのプロモーションとビジネス (ヨネックス、無気力試合、バドミントン・ミュージアム、バドミントン・アカデミー) 担当:嵯峨 寿</p> <p>第 10 回ラグビーのプロモーションとビジネス (ノーサイドの精神、アフターマッチファンクション、クラブハウス、預託金事業) 担 当:嵯峨 寿</p> |

| | |
|-----------------------------------|--|
| 履修条件 | 特になし |
| 成績評価方法 | 毎時のリアクションペーパー・集団討議の内容 (70%)、学期末レポート (30%) 評価基準 (A+, A, B, C 又は D) |
| 学修時間の割り当て及び授業外における学修方法 | 授業外における学修 (予習・復習等) については、適宜担当教員より指示 |
| 教材・参考文献・配付資料等 | テキスト よくわかるスポーツマーケティング、仲澤・吉田、ミネルヴァ書房、2017 参考図書 ビジョナリーカンパニー、ジム・コリンズ、日経 BP 出版センター、1995 新マーケティング・コミュニケーション戦略論、亀井昭宏ら、日経広告研究所、2009 マーケティング原理 第 9 版 基礎理論から実践戦略まで、コトラーら、ダイヤモンド社、2003 シュードッグ、フィル・ナイト、東洋経済新報社、2017 |
| オフィスアワー等 (連絡先含む) | オフィスアワーは特に設けない。電子メール等により事前に連絡してから訪問して下さい。 電子メールアドレス: 仲 澤 (nakazawa.makoto.fb@u.tsukuba.ac.jp)、嵯 峨 (saga.hitoshi.fu@u.tsukuba.ac.jp) オフィス:仲澤 (つくばキャンパス体育系棟 B503)、嵯峨 (つくばキャンパス体育系棟 B504) 東京キャンパス連絡先 専攻事務室:電話 03-3942-6365(開始時間等のお問い合わせはこちらへ) |
| その他 (受講生にのぞむことや受講上の注意点等) | 積極的な受講態度を望みます。 |
| 他の授業科目との関連 | |
| ティーチングフェロー (TF)・ティーチングアシスタント (TA) | 無 |
| キーワード | |

| | |
|--------------------|--|
| 授業科目名 | トップアスリートのトレーニング |
| 科目番号 | 0ATS314 |
| 単位数 | 1.0 単位 |
| 標準履修年次 | 1・2 年次 |
| 時間割 | 秋 C 金 7,8 |
| 担当教員 | 白木 仁, 河合 季信, 榎本 靖士 |
| 授業概要 | トップアスリートが競技力を向上するためのトレーニング内容やバイオメカニクスの活用方法について学ぶ。トップアスリートの競技力向上のためのトレーニング及びバイオメカニクスを学ぶ。ジュニア期のトレーニング、年間計画、身体運動におけるバイオメカニクスの目的、活用法などについて考える。この講義は前半をトレーニング論(6回)、後半をバイオメカニクス論(4回)とし、それぞれ別の教員が担当する。 |
| 備考 | 01EK323 と同一。 |
| 授業形態 | 講義 |
| 学位プログラム・コンピテンスとの関係 | 知の活用力、マネジメント能力、国際性、専門知識 |
| 授業の到達目標(学修成果) | トップアスリートが競技力を向上するためのトレーニング内容やバイオメカニクスの活用方法について学ぶ |
| 授業計画 | <p>第1回 トップアスリートのトレーニングの現状 (反復練習、ストレングストレーニング) 担当:白木 仁</p> <p>第2回 トップアスリートのトレーニングに関わるスタッフ (アスレティックトレーナー、コンディショニングコーチ) 担当:白木 仁</p> <p>第3回 トップアスリートにおけるトレーニングのフレームワーク(1) (パフォーマンスパスウェイ、オリンピック・パラリンピックサイクル、テクノロジーの活用) 担当:河合 季信</p> <p>第4回 トップアスリートにおけるトレーニングのフレームワーク(2) (パフォーマンスパスウェイ、オリンピック・パラリンピックサイクル、テクノロジーの活用) 担当:河合 季信</p> <p>第5回 スポーツをバイオメカニクスの基礎知識、手法、データの解釈方法について解説する(1) (Kinematics、kinetics、スポーツバイオメカニクス研究法) 担当:榎本 靖士</p> <p>第6回 スポーツをバイオメカニクスの基礎知識、手法、データの解釈方法について解説する(2) (Kinematics、kinetics、スポーツバイオメカニクス研究法) 担当:榎本 靖士</p> <p>第7回 スポーツバイオメカニクスからみたスポーツ技術のとらえ方、技術に関する研究、データのフィードバックについて解説する(1) (スポーツ技術、動作の最適化ループ、トップアスリート、国際競技会、データフィードバック) 担当:榎本 靖士</p> <p>第8回 スポーツバイオメカニクスからみたスポーツ技術のとらえ方、技術に関する研究、データのフィードバックについて解説する(2) (スポーツ技術、動作の最適化ループ、トップアスリート、国際競技会、データフィードバック) 担当:榎本 靖士</p> |

| | |
|-----------------------------------|--|
| | <p>第9回競技力向上のためのトレーニングの考え方 (スキルトレーニング、コンディショニング) 担当:白木 仁</p> <p>第10回競技力向上のためのトレーニング方法 (コーディネーショントレーニング) 担当:白木 仁</p> |
| 履修条件 | 特になし |
| 成績評価方法 | 出席・参加意欲 (50%), レポート (50%) 評価基準 (A+, A, B, C 又は D) |
| 学修時間の割り当て及び授業外における学修方法 | 授業外における学修 (予習・復習等) については、適宜担当教員より指示 |
| 教材・参考文献・配付資料等 | |
| オフィスアワー等 (連絡先含む) | つくばキャンパス D621 電話 029-853-2667 東京キャンパス 専攻事務室:電話 03-3942-6365(開始時間等のお問い合わせはこちらへ) |
| その他 (受講生にのぞむことや受講上の注意点等) | 積極的な受講態度を望みます。 |
| 他の授業科目との関連 | |
| ティーチングフェロー (TF)・ティーチングアシスタント (TA) | 無 |
| キーワード | |

| | |
|------------------------|---|
| 授業科目名 | トップコーチング |
| 科目番号 | 0ATS315 |
| 単位数 | 1.0 単位 |
| 標準履修年次 | 1・2 年次 |
| 時間割 | 秋 C 火 7,8 |
| 担当教員 | 岡田 弘隆, 河合 季信, 谷川 聡, 吹田 真士, 小井土 正亮 |
| 授業概要 | 世界のトップをめざした競技力向上のフレーム (枠組み) を理解し、そこで重要な役割を果たすコーチに必要な資質やスキルを学ぶ。オリンピックやワールドカップなどでアスリートが高いパフォーマンスを発揮するためのコーチングの理論と実際を学ぶ。世界の強豪国・地域の視点、競技特性の視点、世界の動向など、さまざまな観点から、トップレベルのコーチに求められる役割や資質について考える。 |
| 備考 | 01EK324 と同一。 |
| 授業形態 | 講義 |
| 学位プログラム・コンピテンスとの関係 | 知の活用力、マネジメント能力、国際性、専門知識 |
| 授業の到達目標 (学修成果) | トップをめざした競技力向上のフレーム (枠組み) を理解し、そこで重要な役割を果たすコーチに必要な資質やスキルを学ぶ。 |
| 授業計画 | 第 1 回ガイダンス/世界のトップスポーツの動向とコーチの役割 担当:河合 季信 第 2 回 # 担当:河合 季信 第 3 回個人記録系スポーツの事例 担当:谷川 聡 第 4 回 # 担当:谷川 聡 第 5 回個人&団体ラケットバット系スポーツの事例 担当:吹田 真士 第 6 回 # 担当:吹田 真士 第 7 回個人格闘系スポーツの事例 担当:岡田 弘隆 第 8 回 # 担当:岡田 弘隆 第 9 回団体球技系スポーツの事例 担当:小井土 正亮 第 10 回 # 担当:小井土 正亮 |
| 履修条件 | 特になし |
| 成績評価方法 | 授業における積極的な参加 (20%)、期末レポート (80%) によって評価する。 評価基準 (A+, A, B, C 又は D) |
| 学修時間の割り当て及び授業外における学修方法 | 授業外における学修 (予習・復習等) については、適宜担当教員より指示 |
| 教材・参考文献・配付資料等 | テキスト 特になし 参考図書 講義内で各担当者から紹介 |
| オフィスアワー等 (連絡先含む) | 世話人教員: 河合 季信 特に設定しないので事前にメールで日程調整をしてください。 体育系 B 棟 3F B316 研究室 kawai.toshinobu.gp at u.tsukuba.ac.jp 東京キャンパス 専攻事務室:電話 03-3942-6365(開始時間等のお問い合わせはこちらへ) |

| | |
|-----------------------------------|----------------|
| その他 (受講生にのぞむことや受講上の注意点等) | 積極的な受講態度を望みます。 |
| 他の授業科目との関連 | |
| ティーチングフェロー (TF)・ティーチングアシスタント (TA) | 無 |
| キーワード | コーチング, トップスポーツ |

| | |
|--------------------|---|
| 授業科目名 | 生涯スポーツのトータルマネジメント |
| 科目番号 | 0ATS316 |
| 単位数 | 1.0 単位 |
| 標準履修年次 | 1・2 年次 |
| 時間割 | 春 C 火 7,8 |
| 担当教員 | 坂本 昭裕, 平山 素子, 澤江 幸則, 寺山 由美, 本谷 聡 |
| 授業概要 | 競技スポーツとは異なる目的、側面を持つ身体運動・スポーツのマネジメントについて理解を深めることを目標にする。競技スポーツとは異なる目的、側面を持つ野外教育・スポーツ、舞踊、体操などの歴史や教育的側面を踏まえた最新のコーチングやマネジメントについて学ぶ。また、障害者スポーツについての現状と課題を検証し、理解を深める。 |
| 備考 | 01EK325 と同一。 |
| 授業形態 | 講義 |
| 学位プログラム・コンピテンスとの関係 | 知の活用力、マネジメント能力、国際性、専門知識 |
| 授業の到達目標 (学修成果) | <p>競技スポーツとは異なる目的、側面を持つ身体運動・スポーツのマネジメントについて理解を深めること。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 野外教育マネジメントについて基礎的な知識を理解する。 2) ダンスの多様性と歴史を理解し、身体のコミュニケーションについて理解できる。 3) 生涯スポーツとしてのダンスにおける指導者の進め方を理解する。 4) 障害のある人や子どものスポーツ実践を支えるための方法論について、あだぶてっど・スポーツ的視点から理解する。 5) 体操について理解を深めこれからの体操のあり方について検討できる。 |
| 授業計画 | <p>第 1 回不登校児や発達障害児, 非行少年などの野外教育プログラムのマネジメントを取り上げる。 (キャンプ 冒険教育プログラム 心のマネジメント) 担当:坂本 裕昭</p> <p>第 2 回 # 担当:坂本 昭裕</p> <p>第 3 回ダンスの多様性と歴史を紹介し, 身体発のコミュニケーション方法を様々な角度から検証する。 担当:平山 素子</p> <p>第 4 回 # 担当:平山 素子</p> <p>第 5 回 30 代から 80 代における生涯スポーツでのダンスの実態を取り上げ, 指導者と参加者がどのような点に留意して活動を進めているか検討する。 担当:寺山 由美</p> <p>第 6 回 # 担当:寺山 由美</p> <p>第 7 回障害のある人や子どものスポーツ実践の可能性を示すとともに, その実践を支えるための方法論について, アダプテッド・スポーツの観点から検討する。 (アダプテッド・スポーツ 日常化・社会化 障害観) 担当:澤江 幸則</p> <p>第 8 回 # 担当:澤江 幸則</p> <p>第 9 回体操についての国内外の映像や資料を題材として, これからの体操のあり方について検討する。 (体操, 体づくり運動, 動きづくり, 体づくり) 担当:本谷 聡</p> |

| | |
|-----------------------------------|--|
| | 第 10 回 # 担当:本谷 聡 |
| 履修条件 | 特になし |
| 成績評価方法 | レポート, 授業への貢献度 (出席, 発言など) から総合的に評価する 評価基準 (A+, A, B, C 又は D) |
| 学修時間の割り当て及び授業外における学修方法 | 授業外における学修 (予習・復習等) については、適宜担当教員より指示 |
| 教材・参考文献・配付資料等 | テキスト 特になし 参考図書 各教員が必要に応じて紹介する。 |
| オフィスアワー等 (連絡先含む) | 月曜日 15 時 ~ 16 時半 (5 限時) つくばキャンパス A404 電話 029-853-6361 東京キャンパス 専攻事務室:電話 03-3942-6365(開始時間等のお問い合わせはこちらへ) |
| その他 (受講生にのぞむことや受講上の注意点等) | 積極的な受講態度を望みます。 |
| 他の授業科目との関連 | |
| ティーチングフェロー (TF)・ティーチングアシスタント (TA) | 無 |
| キーワード | |

| | |
|------------------------|--|
| 授業科目名 | コミュニティスポーツプロモーション論特講 |
| 科目番号 | 0ATS351 |
| 単位数 | 1.0 単位 |
| 標準履修年次 | 1・2 年次 |
| 時間割 | 秋 C 木 7,8 |
| 担当教員 | 柳沢 和雄 |
| 授業概要 | 我が国におけるコミュニティスポーツの歴史を概観し、地域社会におけるスポーツの社会的役割を概説する。特に政策的に推進されている総合型地域スポーツクラブを取り上げ、その展開過程や経営課題を概観する。また、総合型地域スポーツクラブを題材にしながら、公共スポーツ施設の整備と経営の考え方、指導者養成をめぐる制度的課題、ボランティア論、スポーツと市民社会論などについて講義する。 |
| 備考 | 01EK301 と同一 |
| 授業形態 | 講義 |
| 学位プログラム・コンピテンスとの関係 | 知の活用力、マネジメント能力、国際性、専門知識 |
| 授業の到達目標 (学修成果) | 市区町村におけるスポーツ推進策の経緯と地域スポーツ経営の考え方を理解するとともに、総合型地域スポーツクラブ育成政策を通してコミュニティスポーツのプロモーション課題について考える能力を養う。 |
| 授業計画 | 第 1 回スポーツ経営学研究及び地域スポーツにおける倫理と実践について 第 2 回戦後の地域スポーツ政策-社会体育・コミュニティスポーツ・生涯スポーツ- 第 3 回コミュニティスポーツ政策の主体化と民営化 第 4 回コミュニティスポーツの収斂としての総合型地域スポーツクラブ 第 5 回総合型クラブの育成の経緯と経営課題 第 6 回総合型クラブのスポーツ空間-公共スポーツ施設の整備と学校開放- 第 7 回コミュニティスポーツプロモーションとスポーツ事業 第 8 回コミュニティスポーツを支える Human Resource Management-マネジメント人材養成とボランティア論- 第 9 回新しい社会経済システムとしての総合型クラブ 第 10 回市民社会論の可能性と総合型クラブ |
| 履修条件 | 特になし |
| 成績評価方法 | レポートと課題 (60%)、授業コメントの適格性 (20%)、授業参加の積極性 (20%) 評価基準 (A+, A, B, C 又は D) |
| 学修時間の割り当て及び授業外における学修方法 | 授業外における学修 (予習・復習等) については、適宜担当教員より指示 |
| 教材・参考文献・配付資料等 | テキスト 特になし 参考図書 1) 柳沢和雄・清水紀宏・中西純司 (編著):よくわかるスポーツマネジメント、ミネルヴァ書房.2017 2) 柳沢和雄・向陽スポーツ文化クラブ編:総合型地域スポーツクラブの発展と展望、不昧堂出版.2008 3) 松村和則:地域づくりとスポーツの社会学、道和書院.1993 |

| | |
|-----------------------------------|--|
| オフィスアワー等 (連絡先含む) | 特に指定しないが、事前に専攻事務室に連絡のこと東京キャンパス 専攻事務室:電話 03-3942-6365(開始時間等のお問い合わせはこちらへ) |
| その他 (受講生にのぞむことや受講上の注意点等) | 積極的な受講態度を望みます。 |
| 他の授業科目との関連 | |
| ティーチングフェロー (TF)・ティーチングアシスタント (TA) | 無 |
| キーワード | |

| | |
|---------------------|---|
| 授業科目名 | 国際スポーツビジネス論 |
| 科目番号 | 0ATS352 |
| 単位数 | 1.0 単位 |
| 標準履修年次 | 1・2 年次 |
| 時間割 | 秋 BC 集中 |
| 担当教員 | 高橋 義雄 |
| 授業概要 | 今日グローバルに展開される国際スポーツビジネスについてヨーロッパ、アメリカ、アジア、途上国の現状を理解し、それぞれの地域で必要な高度な知識、ビジネススキル、ビジネスマインドを学ぶ。また国際スポーツビジネスに必要なマネジメント能力を非常勤講師や招聘する実務家を通じて学び、グループごとに示されたテーマに沿った分析を行い、グループ発表することでコミュニケーションスキルも身に着ける。 |
| 備考 | 01EK320 と同一 12/19,12/26 |
| 授業形態 | 講義 |
| 学位プログラム・コンピテンストとの関係 | 知の活用力、マネジメント能力、国際性、専門知識 |
| 授業の到達目標 (学修成果) | 地球規模で展開される国際的なスポーツビジネスにおける高度な専門的な知識を、スポーツの権利保持者であるスポーツ団体やプロリーグ、プロクラブの立場と、スポーツの価値を本業に活かす企業の側の両側面から把握できるようになる。また国際的なスポーツビジネスのビジネスモデル、実務上で必要なビジネススキルやビジネスマインドを活用したマネジメント能力を身につけることで国際社会にスポーツビジネスを通じて貢献できる意識をはぐくむことができる。 |
| 授業計画 | <p>第 1 回 (1) スポーツの国際化の現状について 国際化するスポーツを社会科学的にとらえる意味を学び、今後必要となる視点、分析方法を解説する。</p> <p>第 2 回 (2) ヨーロッパの国際的なビジネス概論 東西冷戦以降のヨーロッパの政治・経済情勢とスポーツビジネスの関り、そこに見られる実務上で必要なビジネススキルについて概説する。</p> <p>第 3 回 (3) アメリカのスポーツの国際的なビジネス概論 アメリカのプロスポーツを中心に、そこに見られる実務上で必要なビジネススキルについて概説する。</p> <p>第 4 回 (4) アジアにおけるスポーツビジネス概論 経済成長率の高いアジアにおいて果たすスポーツの役割について学び、そこに見られる実務上で必要なビジネススキルについて概説する。</p> <p>第 5 回 (5) 途上国のこれからのスポーツビジネス概論 南米、アフリカなど今後発展が期待される地域において果たすスポーツの役割について学び、そこに見られる実務上で必要なビジネススキルについて概説する。</p> <p>第 6 回 (6) 日本企業と国際スポーツビジネス概論 国際的なビジネス展開する日本企業とスポーツビジネスの関係について学び、日本企業に必要なビジネススキルやビジネスマインドを概説する。</p> |

| | |
|-----------------------------------|--|
| | <p>第7回 (7) 国際的なスポンサーシップ概論 国際的なスポンサーシップの高度な専門的な知識をスポーツの権利保持者であるスポーツ団体やプロリーグ、プロクラブの立場と、スポーツの価値を本業に活かす企業の側の両側面から概説する。</p> <p>第8回 (8) オリンピック・世界選手権ビジネス概論 国際的なメガスポーツイベントを取り上げ、国際ビジネスの視点から理解し、国際スポーツイベントのスポーツビジネスを通じて国際社会に貢献する可能性を概説する。</p> <p>第9回 (9) プロジェクトについてグループ発表1 グループごとに割り当てられた国際スポーツビジネスの分析結果について発表する。</p> <p>第10回 (10) プロジェクトについてのグループ発表2 グループごとに割り当てられた国際スポーツビジネスの分析結果について発表する。</p> |
| 履修条件 | 特になし |
| 成績評価方法 | <p>1 評価方法 講義後に毎回実施するコメントシートおよび最終レポート課題による評価を行う。</p> <p>2 割合 毎回の小コメントシート 30%、最終レポート 70%</p> <p>3 評価基準 (A+, A, B, C 又は D)</p> |
| 学修時間の割り当て及び授業外における学修方法 | 授業後に毎回指定した教科書や報告書を事前に読んでおくこと、次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味等を理解しておくこと。 |
| 教材・参考文献・配付資料等 | 教科書は適宜指定する。 |
| オフィスアワー等 (連絡先含む) | <p>東京キャンパス文京校舎 533 棟 金曜日</p> <p>それ以外の日時を希望する場合は、前もって、email で連絡のこと 電話番号:03-3942-6390</p> <p>e-mail アドレス: takahashi.yoshio.gp@u.tsukuba.ac.jp</p> |
| その他 (受講生にのぞむことや受講上の注意点等) | 積極的に授業に参加し、討論に参加すること、グループワークでの学生間の密なコミュニケーションによる質の高い発表資料の作成を望みます。 |
| 他の授業科目との関連 | <p>0ATS110 スポーツプロモーション論特講</p> <p>0ATS120 スポーツイベント論特講</p> |
| ティーチングフェロー (TF)・ティーチングアシスタント (TA) | 無 |
| キーワード | 国際スポーツ組織, 国際オリンピック委員会, スポンサーシップ, テレビ放映権, チケット, ホスピタリティ, マーケティング, セールスプロモーション, スポーツプロモーション, スポーツイベント |

| | |
|--------------------|--|
| 授業科目名 | ヘルスプロモーション論特講 |
| 科目番号 | 0ATS410 |
| 単位数 | 2.0 単位 |
| 標準履修年次 | 1・2 年次 |
| 時間割 | 秋 AB 火 7,8 |
| 担当教員 | 久野 譜也 |
| 授業概要 | 健康増進政策とは何かを理解した上で、国、県、市町村における健康政策の現状と課題を把握する。さらに健康政策の具体的な策定方法における基礎的理解を深める。我が国及び諸外国における運動を中心としたヘルスプロモーションのための政策課題について概説し、その目的、内容、方法等の特徴を明らかにするとともに、我が国における今後のヘルスプロモーションの政策課題の方向性について講義する。 |
| 備考 | 01EK401 と同一。 |
| 授業形態 | 講義 |
| 学位プログラム・コンピテンスとの関係 | 知の活用力、マネジメント能力、国際性、研究力、専門知識、倫理観 |
| 授業の到達目標 (学修成果) | 健康増進政策とは何かを理解した上で、国、県、市町村における健康政策の現状と課題を把握する。さらに健康政策の具体的な策定方法における基礎的理解を深める。 |
| 授業計画 | <p>第 1 回ヘルスプロモーションとは (I) (WHO オタワ憲章 健康日本 21 ソーシャルスキル)</p> <p>第 2 回ヘルスプロモーションとは (II) (オンリーワン社会 ヘルシーカンパニー 健康家族)</p> <p>第 3 回身体的・精神的に健康でない状態 (身体的疾病 精神的病態)</p> <p>第 4 回社会的に良好でない状態 (個人 コミュニティ 地方 国)</p> <p>第 5 回ヘルスプロモーションにおける健康教育の役割 (I) (健康観 指導観)</p> <p>第 6 回ヘルスプロモーションにおける健康教育の役割 (II) (健康リテラシー)</p> <p>第 7 回わが国の健康政策としての「健康日本 21」の理解 I. 日本の健康水準の現状分析と世界的潮流 (平均寿命, 健康寿命, 健康価値観の多様化, 目標志向型健康増進施策)</p> <p>第 8 回わが国の健康政策としての「健康日本 21」の理解 II. 基本戦略 (展望, 理念, 目的, 目標)</p> <p>第 9 回わが国の健康政策としての「健康日本 21」の理解 III. 目標の設定と評価の基準 (健康課題, 健康サービスの有効性, 経済的効率)</p> <p>第 10 回わが国の健康政策としての「健康日本 21」の理解 IV. 地方計画の策定と健康情報システムの確立 (重点政策化, 実施主体の役割, マスメディア, 科学的根拠)</p> <p>第 11 回わが国の健康政策としての「健康日本 21」の理解 V. 人生の各段階の課題 1 幼年, 少年及び青年期 (健康教育, 事故対策, 早世, 身体活動)</p> |

| | |
|------------------------|--|
| | <p>第 12 回わが国の健康政策としての「健康日本 21」の理解 VI. 人生の各段階の課題 2 壮年, 中年及び高年期 (生活機能, 生活習慣病, 防衛体力, 身体活動)</p> <p>第 13 回自治体における健康政策の理解 I. 県での健康づくり戦略 (茨城県健康いばらき 21 プランを例にして) (茨城県の特性と課題, 支援機能, 県民運動)</p> <p>第 14 回自治体における健康政策の理解 II. 先進的健康づくり実施市町村の健康政策 1(茨城県大洋村) (超高齢社会, 医療費, 環境整備)</p> <p>第 15 回自治体における健康政策の理解 III. 先進的健康づくり実施市町村の健康政策 2(埼玉県小鹿野町) (介護制度, 疾病第一主義からの脱却)</p> <p>第 16 回健康な地域づくりを達成する策定方法 I. 産・官・学・民における役割の整理と科学的根拠に基づく健康政策目標の立て方 (自治体の総合計画, 関係部局・団体・機関との連携, 達成目標の共有化)</p> <p>第 17 回健康な地域づくりを達成する策定方法 II. 自然科学的手法による健康政策の評価法 (生活機能測定法, 身体活動量, 栄養摂取量)</p> <p>第 18 回健康な地域づくりを達成する策定方法 III. 社会科学的手法による健康政策の評価法 (事業への投入指標, 事業評価, 地域効果)</p> <p>第 19 回健康な地域づくりを達成する策定方法 IV. 医療経済効果的視点による健康政策の評価法 (医療費とヘルスプロモーションの関係, 医療費と運動教室, 費用効果分析)</p> <p>第 20 回健康な地域づくりを達成する策定方法 V. まとめ</p> |
| 履修条件 | 特になし |
| 成績評価方法 | レポートによる 評価基準 (A+, A, B, C 又は D) |
| 学修時間の割り当て及び授業外における学修方法 | 授業外における学修 (予習・復習等) については、適宜担当教員より指示 |
| 教材・参考文献・配付資料等 | <p>テキスト:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 保健指導に求められる個別運動プログラム作成・実践ガイド-専門職が指導するメタボリックシンドローム・介護予防プログラムとは- 久野譜也 (編)、杏林書院 2) 介護予防のための筋力トレーニング指導法 久野譜也 (編)、NAP <p>参考図書:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) ウエルネスサポーター教本 久野譜也 (監)、日経 BP 社 2) 地域における高齢者の健康づくりハンドブック 松田光生他 (編)、NAP 3) 健康遺伝子をオンにしよう! 久野譜也、サンマーク出版 |

| | |
|-----------------------------------|--|
| オフィスアワー等 (連絡先含む) | 火曜日 17 時 30 分~18 時 15 分 東京キャンパス 536 電話 03-3942-6382 筑波キャンパス D309 電話 029-853-7335 |
| その他 (受講生にのぞむことや受講上の注意点等) | 積極的な受講態度を望みます。 |
| 他の授業科目との関連 | 0ATS411 ヘルスプロモーション論演習 1 0ATS412 ヘルスプロモーション論演習 2 0ATS413 ヘルスプロモーション論実習 0ATS464 ヘルスプロモーション研究方法論 IV 0ATS465 ヘルスプロモーション研究方法論 V |
| ティーチングフェロー (TF)・ティーチングアシスタント (TA) | 無 |
| キーワード | 健康増進政策, ヘルスリテラシー, 健康日本 21 |

| | |
|------------------------|---|
| 授業科目名 | ヘルスプロモーション論演習 1 |
| 科目番号 | 0ATS411 |
| 単位数 | 1.0 単位 |
| 標準履修年次 | 1・2 年次 |
| 時間割 | 秋 ABC 随時 |
| 担当教員 | 久野 譜也 |
| 授業概要 | ヘルスプロモーションのためのスポーツ実践の条件と要因を導き出すとともに、学生の実践的課題に対応しながら、スポーツによるヘルスプロモーションのためのシステム編成とそのマネジメント、資源整備及びプログラム開発等の具体的な方法について演習する。 |
| 備考 | 01EK412 と同一。 |
| 授業形態 | 演習 |
| 学位プログラム・コンピテンスとの関係 | マネジメント能力、コミュニケーション能力、チームワーク力、研究力、専門知識、倫理観 |
| 授業の到達目標 (学修成果) | ヘルスプロモーションのためのスポーツ実践の条件と要因を導き出すとともに、学生の実践的課題に対応しながら、スポーツによるヘルスプロモーションのためのシステム編成とそのマネジメント、資源整備及びプログラム開発等の具体的な方法について演習する。 |
| 授業計画 | 第 1 回オリエンテーション 課題の提示、グループ分け 第 2 回課題に即した資料内容の検討と整理 (1) 第 3 回課題に即した資料内容の検討と整理 (2) 第 4 回資料内容の検討の発表と方向性の確認 (1) 第 5 回資料内容の検討の発表と方向性の確認 (2) 第 6 回第 4,5 回の発表により明らかになった課題の検討 (1) 第 7 回第 4,5 回の発表により明らかになった課題の検討 (2) 第 8 回資料内容の検討の発表により明らかになった課題の検討 第 9 回最終発表会のためのプレゼンの準備 (パワーポイントの作成) 第 10 回まとめの講義 |
| 履修条件 | 主にヘルスプロモーション領域の学生 |
| 成績評価方法 | レポートによる 評価基準 (A+, A, B, C 又は D) |
| 学修時間の割り当て及び授業外における学修方法 | 授業外における学修 (予習・復習等) については、適宜担当教員より指示 |
| 教材・参考文献・配付資料等 | テキスト: 1) ヘルスサポートの方法と実践 田中滋/小林篤/松田晋哉 (編)、東京大学出版会 2) 介護予防のための筋力トレーニング指導法 久野譜也 (編)、NAP 参考図書: 1) 健康遺伝子をオンにしよう! 久野譜也、サンマーク出版 |
| オフィスアワー等 (連絡先含む) | 火曜日 17 時 30 分~18 時 15 分 東京キャンパス 536 電話 03-3942-6382 筑波キャンパス D309 電話 029-853-7335 |

| | |
|-----------------------------------|--|
| その他 (受講生にのぞむことや受講上の注意点等) | 積極的な受講態度を望みます。 |
| 他の授業科目との関連 | 0ATS410 ヘルスプロモーション論特講 0ATS412 ヘルスプロモーション論演習 2 0ATS413 ヘルスプロモーション論実習 0ATS464 ヘルスプロモーション研究方法論 IV 0ATS465 ヘルスプロモーション研究方法論 V |
| ティーチングフェロー (TF)・ティーチングアシスタント (TA) | 無 |
| キーワード | ヘルスプロモーション, ヘルスリテラシー, 健康教育 |

| | |
|------------------------|--|
| 授業科目名 | ヘルスプロモーション論演習 2 |
| 科目番号 | 0ATS412 |
| 単位数 | 2.0 単位 |
| 標準履修年次 | 1・2 年次 |
| 時間割 | 春 AB 火 7,8 |
| 担当教員 | 久野 譜也 |
| 授業概要 | ヘルスプロモーションのためのスポーツ実践の条件と要因を導き出すとともに、学生の実践的課題に対応しながら、スポーツによるヘルスプロモーションのためのシステム編成とそのマネジメント、資源整備及びプログラム開発等の具体的な方法について演習する。また、感染症、心身疾患あるいはドーピング等のスポーツにおける健康阻害状況に関する具体的事例も取り上げ、その発症のメカニズムを分析し、その原因と対策について検討する。 |
| 備考 | 01EK413 と同一。 |
| 授業形態 | 演習 |
| 学位プログラム・コンピテンスとの関係 | 授業外における学修(予習・復習等)については、適宜担当教員より指示 |
| 授業の到達目標(学修成果) | ヘルスプロモーションのためのスポーツ実践の条件と要因を導き出すとともに、学生の実践的課題に対応しながら、スポーツによるヘルスプロモーションのためのシステム編成とそのマネジメント、資源整備及びプログラム開発等の具体的な方法について演習する。また、感染症、心身疾患あるいはドーピング等のスポーツにおける健康阻害状況に関する具体的事例も取り上げ、その発症のメカニズムを分析し、その原因と対策について検討する。 |
| 授業計画 | 第 1 回オリエンテーション 課題の提示、グループ分け 第 2 回課題に即した資料内容の検討と整理 第 3 回資料内容の検討の発表と方向性の確認 第 4 回第 3 回の発表により明らかになった課題の検討 (1) 第 5 回最終発表会のためのプレゼンの準備 (パワーポイントの作成)(1) 第 6 回最終発表会のためのプレゼンの準備 (パワーポイントの作成)(2) 第 7 回健康施策に関する課題に対する発表と討議 1~2 班 第 8 回健康施策に関する課題に対する発表と討議 3~4 班 第 9 回健康施策に関する課題に対する発表と討議 5~6 班 第 10 回まとめの講義 |
| 履修条件 | 主にヘルスプロモーション領域の学生 |
| 成績評価方法 | レポートによる 評価基準 (A+, A, B, C 又は D) |
| 学修時間の割り当て及び授業外における学修方法 | 授業外における学修(予習・復習等)については、適宜担当教員より指示 |
| 教材・参考文献・配付資料等 | |
| オフィスアワー等(連絡先含む) | 火曜日 17 時 30 分~18 時 15 分 東京キャンパス 536 電話 03-3942-6382 筑波キャンパス D309 電話 029-853-7335 |

| | |
|-----------------------------------|--|
| その他 (受講生にのぞむことや受講上の注意点等) | 積極的な受講態度を望みます。 |
| 他の授業科目との関連 | 0ATS410 ヘルスプロモーション論特講 0ATS411 ヘルスプロモーション論演習 1 0ATS413 ヘルスプロモーション論実習 0ATS464 ヘルスプロモーション研究方法論 IV 0ATS465 ヘルスプロモーション研究方法論 V |
| ティーチングフェロー (TF)・ティーチングアシスタント (TA) | 無 |
| キーワード | 健康課題, 健康寿命, 健康サービス |

| | |
|--------------------------|--|
| 授業科目名 | ヘルスプロモーション論実習 |
| 科目番号 | 0ATS413 |
| 単位数 | 1.0 単位 |
| 標準履修年次 | 1・2 年次 |
| 時間割 | 通年 随時 |
| 担当教員 | 久野 譜也 |
| 授業概要 | 地域もしくは職域における健康づくりの実態を理解する。また、それらをレポートにまとめ、発表できる能力を養成する。ヘルスプロモーションに関する学生の現職経験を重視し、そこから導かれる実践的な課題を取り上げ、それをシステムの課題に洗練するとともに、現職やそれと関わるフィールドワークを通じて、課題解決に志向したシステムモデルのデザインを実習する。 |
| 備考 | 01EK405 と同一。 |
| 授業形態 | 実習・実験・実技 |
| 学位プログラム・コンピテンスとの関係 | コミュニケーション能力、チームワーク力、研究力、専門知識、倫理観 |
| 授業の到達目標 (学修成果) | 地域もしくは職域における健康づくりの実態を理解する。また、それらをレポートにまとめ、発表できる能力を養成する。 |
| 授業計画 | 第 1 回集中 1:オリエンテーション、計画立案 第 2 回集中 2:現地実習 第 3 回集中 3:発表と討議、まとめ |
| 履修条件 | 主にヘルスプロモーション領域の学生 |
| 成績評価方法 | レポートによる 評価基準 (A+, A, B, C 又は D) |
| 学修時間の割り当て及び授業外における学修方法 | 授業外における学修 (予習・復習等) については、適宜担当教員より指示 |
| 教材・参考文献・配付資料等 | テキスト: 1) ヘルスサポートの方法と実践 田中滋/小林篤/松田晋哉 (編)、東京大学出版会 2) 介護予防のための筋力トレーニング指導法 久野譜也 (編)、NAP 参考図書: 1) 健康遺伝子をオンにしよう!, 久野譜也, サンマーク出版 |
| オフィスアワー等 (連絡先含む) | 火曜日 17 時 30 分~18 時 15 分 東京キャンパス 536 電話 03-3942-6382 筑波キャンパス D309 電話 029-853-7335 |
| その他 (受講生にのぞむことや受講上の注意点等) | 積極的な実習態度を望みます。 |
| 他の授業科目との関連 | 0ATS410 ヘルスプロモーション論特講 0ATS411 ヘルスプロモーション論演習 1 0ATS412 ヘルスプロモーション論演習 2 0ATS464 ヘルスプロモーション研究方法論 IV 0ATS465 ヘルスプロモーション研究方法論 V |

| | |
|--------------------------------------|-----------------------|
| ティーチングフェロー (TF)・ティーチングアシスタント (TA) | 必要に応じて任用する |
| キーワード | 科学的根拠, 関係機関との連携, 評価基準 |

| | |
|--------------------|--|
| 授業科目名 | 健康開発プログラム論特講 |
| 科目番号 | 0ATS420 |
| 単位数 | 2.0 単位 |
| 標準履修年次 | 1・2 年次 |
| 時間割 | 春 A 金 7,8; 春 ABC 集中 |
| 担当教員 | 柴田 愛 |
| 授業概要 | 行動科学の考え方を応用して、健康行動（主に、身体活動や運動）を推進させるプログラム開発に関する基礎的および専門的知識を獲得できるようにする。健康行動を推進させるプログラム開発に活用されている行動科学の理論やモデルの基礎的な考え方について理解を深めるとともに、それを応用した様々な実践例について学ぶ。 |
| 備考 | 4/24,4/25,5/1,5/8,6/1,6/22,7/13,7/27/,7/31,8/5。土曜日は 10:00~12:40、他の曜日は 7,8 限。 01EK406 と同一。 |
| 授業形態 | 講義 |
| 学位プログラム・コンピテンスとの関係 | マネジメント能力、国際性、研究力、専門知識、倫理観 |
| 授業の到達目標（学修成果） | 行動科学の考え方を応用して、健康行動（主に、身体活動や運動）を推進させるプログラム開発に関する基礎的および専門的知識を獲得できるようにする。 |
| 授業計画 | <p>第 1 回 1・2 回: ガイダンス・健康づくり研究の体系化-「行動疫学」の枠組みの応用- (我が国の健康課題、行動疫学)</p> <p>第 2 回 3・4 回: 健康開発に活かす「行動科学」の理論・モデル (行動変容、学習理論、健康信念モデル)</p> <p>第 3 回 5・6 回: イヌの飼育、イヌの散歩とヒトの身体活動 (潜在的リソース活用)</p> <p>第 4 回 7・8 回: 健康開発に活かす行動変容技法 (変容ステージ、意思決定バランス、セルフ・エフィカシー)</p> <p>第 5 回 9・10 回: 健康行動と環境の科学 (エコロジカルモデル、ポピュレーションアプローチ)</p> <p>第 6 回 11・12 回: 子どもの身体活動を増やす効果的な取り組み (介入場面・時間、環境介入)</p> <p>第 7 回 13・14 回: 座位行動研究の最前線 (新たな健康行動、座りすぎ)</p> <p>第 8 回 15・16 回: 介護予防-運動器の機能向上および運動器疾患対策 1- (ハイリスクアプローチ、評価、普及戦略)</p> <p>第 9 回 17・18 回: 介護予防-運動器の機能向上および運動器疾患対策 2- (ポピュレーションアプローチ、ソーシャルマーケティング)</p> <p>第 10 回 19・20 回: がん予防-ヘルスコミュニケーションおよびヘルスリテラシーの役割- (健康情報提供・普及)</p> |
| 履修条件 | 特になし |
| 成績評価方法 | 授業参加の積極性 (70%) 及びレポート (30%) により評価する。 評価基準 (A+, A, B, C 又は D) |

| | |
|---------------------------------|---|
| 学修時間の割り当て及び授業外における学修方法 | 授業外における学修（予習・復習等）については、適宜担当教員より指示 |
| 教材・参考文献・配付資料等 | 授業時に適宜指定または指示 |
| オフィスアワー等（連絡先含む） | 随時 事前にメールにて連絡をお願いします。 shibata.ai.ga at u.tsukuba.ac.jp |
| その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等） | 積極的な受講態度を望みます。 |
| 他の授業科目との関連 | 0ATS421 健康開発プログラム論演習 1 0ATS422 健康開発プログラム論演習 2 0ATS423 健康開発プログラム論実習 0ATS464 ヘルスプロモーション研究方法論 IV 0ATS465 ヘルスプロモーション研究方法論 V |
| ティーチングフェロー（TF）・ティーチングアシスタント（TA） | 無 |
| キーワード | 健康課題, 行動変容, ハイリスクアプローチ, ポピュレーションアプローチ, 環境, ヘルスキューション, ヘルスリテラシー |

| | |
|--------------------------|---|
| 授業科目名 | 健康開発プログラム論演習 1 |
| 科目番号 | 0ATS421 |
| 単位数 | 1.0 単位 |
| 標準履修年次 | 1・2 年次 |
| 時間割 | 春 ABC 随時 |
| 担当教員 | 柴田 愛 |
| 授業概要 | 健康増進のための効果的な支援方策に関する最新情報収集、基礎知識構築、有効性・課題把握を行うための基礎的スキルを上げて、修士論文をまとめるための研究能力および問題解決力を高める。効果的な健康開発プログラムに関する近年の具体的事例を取り上げ、情報検索、論文読解、統計解析、プレゼンテーションスキルについて学習する。 |
| 備考 | 01EK414 と同一。 |
| 授業形態 | 演習 |
| 学位プログラム・コンピテンスとの関係 | マネジメント能力、コミュニケーション能力、チームワーク力、研究力、専門知識、倫理観 |
| 授業の到達目標 (学修成果) | 健康増進のための効果的な支援方策に関する最新情報収集、基礎知識構築、有効性・課題把握を行うための基礎的スキルを上げて、修士論文をまとめるための研究能力および問題解決力を高める。 |
| 授業計画 | 第 1 回発表と討議 (情報検索) 第 2 回発表と討議 (論文読解 1:抄録、背景、方法) 第 3 回発表と討議 (論文読解 2:結果、考察) 第 4 回発表と討議 (統計分析) 第 5 回発表と討議, まとめ (プレゼンテーション) |
| 履修条件 | 主にヘルスプロモーション領域の学生 |
| 成績評価方法 | 授業参加の積極性 (50%)、レポート (20%)、プレゼンテーション (30%) により評価する。 評価基準 (A+, A, B, C 又は D) |
| 学修時間の割り当て及び授業外における学修方法 | 授業外における学修 (予習・復習等) については、適宜担当教員より指示 |
| 教材・参考文献・配付資料等 | 授業時に適宜指定または指示 |
| オフィスアワー等 (連絡先含む) | 随時 事前にメールにて連絡をお願いします。 shibata.ai.ga at u.tsukuba.ac.jp |
| その他 (受講生にのぞむことや受講上の注意点等) | 積極的な受講態度を望みます。 |
| 他の授業科目との関連 | 0ATS420 健康開発プログラム論特講 0ATS422 健康開発プログラム論演習 2 0ATS423 健康開発プログラム論実習 0ATS464 ヘルスプロモーション研究方法論 IV 0ATS465 ヘルスプロモーション研究方法論 V |

| | |
|--------------------------------------|----------------|
| ティーチングフェロー (TF)・ティーチングアシスタント (TA) | 無 |
| キーワード | 行動疫学, 疫学的アプローチ |

| | |
|------------------------|---|
| 授業科目名 | 健康開発プログラム論演習 2 |
| 科目番号 | 0ATS422 |
| 単位数 | 2.0 単位 |
| 標準履修年次 | 1・2 年次 |
| 時間割 | 秋 AB 水 7,8 |
| 担当教員 | 柴田 愛 |
| 授業概要 | 健康増進のための効果的な支援方策に関する最新情報収集、基礎知識構築、有効性・課題把握を行うための応用的スキルを上げて、修士論文をまとめるための研究能力および問題解決力を高める。我が国及び諸外国において実践されている健康開発プログラムの中から自らが興味のある特定のテーマを決めて、その有効性と課題について文献的に検討・発表する(ディレクトリーディング)。これらの分析をもとに、学生それぞれの実践的な課題について演習する。 |
| 備考 | 01EK415 と同一。 |
| 授業形態 | 演習 |
| 学位プログラム・コンピテンスとの関係 | マネジメント能力、コミュニケーション能力、チームワーク力、研究力、専門知識、倫理観 |
| 授業の到達目標(学修成果) | 健康増進のための効果的な支援方策に関する最新情報収集、基礎知識構築、有効性・課題把握を行うための応用的スキルを上げて、修士論文をまとめるための研究能力および問題解決力を高める。 |
| 授業計画 | 第 1 回オリエンテーション(演習の目標、進め方) 第 2 回発表と討議(ディレクトリーディング 選択論文 1) 第 3 回発表と討議(ディレクトリーディング 選択論文 2) 第 4 回発表と討議(ディレクトリーディング 選択論文 3) 第 5 回発表と討議(ディレクトリーディング 選択論文 4) 第 6 回発表と討議(ディレクトリーディング 選択論文 5) 第 7 回発表と討議(ディレクトリーディング 選択論文 6) 第 8 回発表と討議(ディレクトリーディング 選択論文 7) 第 9 回発表と討議(実践的な課題の背景、目的の立案) 第 10 回発表と討議, まとめ(実践的な課題の方法の立案) 第 2-8 回に関しては、毎回受講学生が自ら興味のあるテーマに関連する学術論文を推敲し、その概要(意義や課題、使用している方法論等)について発表する。また、その内容に関して議論や専門的知識を提供していく。 |
| 履修条件 | 主にヘルスプロモーション領域の学生 |
| 成績評価方法 | 授業参加の積極性(70%)及びレポート(30%)により評価する。 評価基準(A+, A, B, C 又は D) |
| 学修時間の割り当て及び授業外における学修方法 | 授業外における学修(予習・復習等)については、適宜担当教員より指示 |
| 教材・参考文献・配付資料等 | |
| オフィスアワー等(連絡先含む) | 随時 事前にメールにて連絡をお願いします。 shibata.ai.ga at u.tsukuba.ac.jp |

| | |
|-----------------------------------|---|
| その他 (受講生にのぞむことや受講上の注意点等) | 積極的な受講態度を望みます。 |
| 他の授業科目との関連 | 0ATS420 健康開発プログラム論特講 0ATS421 健康開発プログラム論演習 1 0ATS423 健康開発プログラム論実習 0ATS464 ヘルスプロモーション研究方法論 IV 0ATS465 ヘルスプロモーション研究方法論 V |
| ティーチングフェロー (TF)・ティーチングアシスタント (TA) | 無 |
| キーワード | 疫学的アプローチ, 効果, 実行可能性 |

| | |
|-----------------------------------|---|
| 授業科目名 | 健康開発プログラム論実習 |
| 科目番号 | 0ATS423 |
| 単位数 | 1.0 単位 |
| 標準履修年次 | 1・2 年次 |
| 時間割 | 通年 随時 |
| 担当教員 | 柴田 愛 |
| 授業概要 | 効果的な健康開発プログラムを計画・実行していく上で役立つ基礎知識と実践的スキルを学ぶ。学生の現職経験から導かれる健康開発プログラムの課題を取り上げ、現職域及び関連組織・機関等をフィールドにして、課題解決に向けた情報収集、健康開発プログラムの計画と実践、評価について実習する。 |
| 備考 | 01EK410 と同一。 |
| 授業形態 | 実習・実験・実技 |
| 学位プログラム・コンピテンスとの関係 | コミュニケーション能力、チームワーク力、研究力、専門知識、倫理観 |
| 授業の到達目標 (学修成果) | 効果的な健康開発プログラムを計画・実行していく上で役立つ基礎知識と実践的スキルを学ぶ。 |
| 授業計画 | 第 1 回集中 1:オリエンテーション, 計画立案, 調査設計 第 2 回集中 2:フィールド調査 第 3 回集中 3:発表と討議, まとめ |
| 履修条件 | 主にヘルスプロモーション領域の学生 |
| 成績評価方法 | 実習状況 (70%)、レポート (30%) により評価する。 評価基準 (A+, A, B, C 又は D) |
| 学修時間の割り当て及び授業外における学修方法 | 授業外における学修 (予習・復習等) については、適宜担当教員より指示 |
| 教材・参考文献・配付資料等 | 授業時に適宜指定または指示 |
| オフィスアワー等 (連絡先含む) | 随時 東京キャンパス 537 電話 03-3942-6455 |
| その他 (受講生にのぞむことや受講上の注意点等) | 積極的な実習態度を望みます。 |
| 他の授業科目との関連 | 0ATS420 健康開発プログラム論特講 0ATS421 健康開発プログラム論演習 1 0ATS422 健康開発プログラム論演習 2 0ATS464 ヘルスプロモーション研究方法論 IV 0ATS465 ヘルスプロモーション研究方法論 V |
| ティーチングフェロー (TF)・ティーチングアシスタント (TA) | 必要に応じて任用する |

| | |
|-------|------------------|
| キーワード | アクティブラーニング, 行動変容 |
|-------|------------------|

| | |
|--------------------------|--|
| 授業科目名 | ヘルスプロモーション研究方法論 IV |
| 科目番号 | 0ATS464 |
| 単位数 | 2.0 単位 |
| 標準履修年次 | 2 年次 |
| 時間割 | 秋 ABC 随時 |
| 担当教員 | 久野 譜也, 柴田 愛 |
| 授業概要 | 文献レビュー、研究計画法、研究方法論、データ分析法、研究結果プレゼンテーション法などについて実践的に理解し、修士論文・特定課題研究報告書を作成することを目標とする。ヘルスプロモーションに関する学生の現職経験に基づく実践的な課題を取り上げ、その課題をシステムの視点から整理することにより専門研究にむけた課題に洗練する。この専門研究課題を現職及び関連組織等の状況にフィードバックしながら実践的問題解決のための研究計画をデザインする。この研究計画に基づいて、現職経験を生かしたシュミレーションを行い、具体的な解決計画のモデル提案を目指した修士論文・特定課題研究報告の作成を指導する。 |
| 備考 | 01EK416 と同一。 |
| 授業形態 | 演習 |
| 学位プログラム・コンピテンスとの関係 | 知の活用力、研究力 |
| 授業の到達目標 (学修成果) | 文献レビュー、研究計画法、研究方法論、データ分析法、研究結果プレゼンテーション法などについて実践的に理解し、修士論文・特定課題研究報告書を作成する。 |
| 授業計画 | 第 1 回文献レビュー、研究テーマの設定 第 2 回研究計画タイムマネジメント 第 3 回研究方法論 (調査研究法, 質的研究法), データ分析法 第 4 回実際の結果の分析指導 (1) 第 5 回実際の結果の分析指導 (2) 第 6 回研究成果のプレゼンテーション法 |
| 履修条件 | ヘルスプロモーション領域所属の学生 スポーツ健康科学論 I 及び II または III を修得した者 |
| 成績評価方法 | 修士論文あるいは特定課題研究報告書における研究方法論としての充実度を評価する。 評価基準 (A+, A, B, C 又は D) |
| 学修時間の割り当て及び授業外における学修方法 | 授業外における学修 (予習・復習等) については、適宜担当教員より指示 |
| 教材・参考文献・配付資料等 | 指導教員より指定 |
| オフィスアワー等 (連絡先含む) | 火曜日 17 時 30 分~18 時 15 分 東京キャンパス 536 電話 03-3942-6382(久野) 東京キャンパス 537 電話 03-3942-6455(柴田) |
| その他 (受講生にのぞむことや受講上の注意点等) | 積極的な研究姿勢を望みます。 |

| | |
|--------------------------------------|--|
| 他の授業科目との関連 | 0ATS410 ヘルスプロモーション論特講 0ATS411 ヘルスプロモーション論演習 1 0ATS412 ヘルスプロモーション論演習 2 0ATS413 ヘルスプロモーション論実習 0ATS420 健康開発プログラム論特講 0ATS421 健康開発プログラム論演習 1 0ATS422 健康開発プログラム論演習 2 0ATS423 健康開発プログラム論実習 |
| ティーチングフェロー (TF)・ティーチングアシスタント (TA) | 無 |
| キーワード | ヘルスプロモーション, 研究計画, データ分析, プレゼンテーション |

| | |
|------------------------|--|
| 授業科目名 | ヘルスプロモーション研究方法論 V |
| 科目番号 | 0ATS465 |
| 単位数 | 2.0 単位 |
| 標準履修年次 | 2 年次 |
| 時間割 | 春 ABC 随時 |
| 担当教員 | 久野 譜也, 柴田 愛 |
| 授業概要 | 文献レビュー、研究計画法、研究方法論、データ分析法、研究結果プレゼンテーション法などについて実践的に理解し、修士論文・特定課題研究報告書を作成することを目標とする。ヘルスプロモーションに関する学生の現職経験に基づく実践的な課題を取り上げ、その課題をシステムの視点から整理することにより専門研究にむけた課題に洗練する。この専門研究課題を現職及び関連組織等の状況にフィードバックしながら実践的問題解決のための研究計画をデザインする。この研究計画に基づいて、現職経験を生かしたシミュレーションを行い、具体的な解決計画のモデル提案を目指した修士論文・特定課題研究報告の作成を指導する。 |
| 備考 | 9 月末修了予定者用 01EK417 と同一。 |
| 授業形態 | 演習 |
| 学位プログラム・コンピテンスとの関係 | 知の活用力、研究力 |
| 授業の到達目標 (学修成果) | 文献レビュー, 研究計画法, 研究方法論, データ分析法, 研究結果プレゼンテーション法などについて実践的に理解し, 修士論文・特定課題研究報告書を作成する。 |
| 授業計画 | 第 1 回文献レビュー, 研究テーマの設定 第 2 回研究計画タイムマネジメント 第 3 回研究方法論 (調査研究法, 質的研究法), データ分析法 第 4 回実際の結果の分析指導 (1) 第 5 回実際の結果の分析指導 (2) 第 6 回研究成果のプレゼンテーション法 |
| 履修条件 | ヘルスプロモーション領域所属の学生 スポーツ健康科学論 I 及び II または III を修得した 9 月末修了予定者 |
| 成績評価方法 | 修士論文あるいは特定課題研究報告書における研究方法論としての充実度を評価する。 評価基準 (A+, A, B, C 又は D) |
| 学修時間の割り当て及び授業外における学修方法 | 授業外における学修 (予習・復習等) については、適宜担当教員より指示 |
| 教材・参考文献・配付資料等 | 指導教員より指定 |
| オフィスアワー等 (連絡先含む) | 火曜日 17 時 30 分~18 時 15 分 東京キャンパス 536 電話 03-3942-6382(久野) 東京キャンパス 537 電話 03-3942-6455(柴田) |

| | |
|-----------------------------------|--|
| その他 (受講生にのぞむことや受講上の注意点等) | |
| 他の授業科目との関連 | 0ATS410 ヘルスプロモーション論特講 0ATS411 ヘルスプロモーション論演習 1 0ATS412 ヘルスプロモーション論演習 2 0ATS413 ヘルスプロモーション論実習 0ATS420 健康開発プログラム論特講 0ATS421 健康開発プログラム論演習 1 0ATS422 健康開発プログラム論演習 2 0ATS423 健康開発プログラム論実習 |
| ティーチングフェロー (TF)・ティーチングアシスタント (TA) | 無 |
| キーワード | ヘルスプロモーション, 研究計画, データ分析, プレゼンテーション |

| | |
|--------------------|---|
| 授業科目名 | ストレスマネジメントシステム論特講 |
| 科目番号 | 0ATS510 |
| 単位数 | 2.0 単位 |
| 標準履修年次 | 1・2 年次 |
| 時間割 | 春 A 木 7,8; 春 BC 集中 |
| 担当教員 | 水上 勝義 |
| 授業概要 | ストレスマネジメントに関する知識と技能の習得と、ストレスマネジメントのシステム開発の理論と技法について習得する。ストレスの概念を理解し、ストレスがもたらす生体反応やストレスに関連した健康問題について学習する。さらに健康促進のための個人と社会におけるストレスマネジメントシステムについて学習する。 |
| 備考 | 4/23,4/30,5/7,5/16,6/6,6/15,6/27,7/6,7/25,7/30。土曜日は、9:30~12:10、他の曜日は 7,8 限。 01EK501 と同一。 |
| 授業形態 | 講義 |
| 学位プログラム・コンピテンスとの関係 | 知の活用力、マネジメント能力、国際性、研究力、専門知識、倫理観 |
| 授業の到達目標 (学修成果) | ストレスマネジメントに関する知識と技能の習得と、ストレスマネジメントのシステム開発の理論と技法について習得する。 |
| 授業計画 | 第 1 回ストレスマネジメント研究に関する倫理について 第 2 回ストレスとは (セリエのストレス、汎適応症候群) ストレスと生体反応 (脳の機能、自律神経系、免疫系、内分泌系) 第 3 回ラザルスの心理学的ストレスモデル ストレスコーピング (問題中心コーピング、情緒中心コーピング) 第 4 回ストレスと関連する個人的要因 (気質と性格、自己効力感、首尾一貫感覚、レジリエンス) 第 5 回ストレス関連障害 (心身症、適応障害、うつ病、不安障害) 第 6 回生活の場 (家庭、学校、職場、地域社会) とメンタルヘルス 疾病関連ストレス (疾病ストレス、医療・介護現場のストレス) 第 7 回高齢社会のメンタルヘルス (高齢者のうつ、介護ストレス、介護予防、認知症) 第 8 回生活習慣とメンタルヘルス (睡眠、栄養、運動、生活習慣病) 第 9 回ストレスマネジメント (自律訓練、リラクゼーション、瞑想、ソーシャルスキルトレーニング) 第 10 回認知と行動の変容 (認知行動療法、マインドフルネス、森田療法) |
| 履修条件 | 特になし |

| | |
|-----------------------------------|--|
| 成績評価方法 | 授業参加の積極性 (50%), レポート評価 (50%) 評価基準 (A+, A, B, C 又は D) |
| 学修時間の割り当て及び授業外における学修方法 | 授業外における学修 (予習・復習等) については、適宜担当教員より指示 |
| 教材・参考文献・配付資料等 | テキスト オリジナル資料を配布する 参考図書 小杉正太郎著:「ストレス心理学」(川島書店)2009 |
| オフィスアワー等 (連絡先含む) | 火曜日 17 時~18 時 東京キャンパス 540 電話 03-3942-6453 筑波キャンパス D511 電話 029-853-3971 mizukami.katsuyos.ga at u.tsukuba.ac.jp |
| その他 (受講生にのぞむことや受講上の注意点等) | 積極的な受講態度を望みます。 |
| 他の授業科目との関連 | 0ATS511 ストレスマネジメントシステム論演習 1 0ATS512 ストレスマネジメントシステム論演習 2 0ATS513 ストレスマネジメントシステム論実習 0ATS564 ストレスマネジメントシステム研究方法論 IV 0ATS565 ストレスマネジメントシステム研究方法論 V |
| ティーチングフェロー (TF)・ティーチングアシスタント (TA) | 無 |
| キーワード | ストレス, メンタルヘルス, ストレスマネジメント, ストレス対処, ストレス耐性, うつ病, 介護予防, 認知症, 生活習慣, 心理療法 |

| | |
|------------------------|--|
| 授業科目名 | ストレスマネジメントシステム論演習 1 |
| 科目番号 | 0ATS511 |
| 単位数 | 1.0 単位 |
| 標準履修年次 | 1・2 年次 |
| 時間割 | 春 ABC 随時 |
| 担当教員 | 水上 勝義 |
| 授業概要 | 学生の興味をもつストレスマネジメントシステム開発に関するテーマで、順に発表し、討議しあうことで学習を深める。職場、学校、家庭、地域などのストレスマネジメントシステムについて、その有効性や課題について、具体的な事例を取り上げ分権的な考察を行いながら検討する。この分析をもとに、学生の現職経験から得られる実践的課題を整理し、その課題解決に向けたストレスマネジメントシステムの効果的なモデルの作成について演習する。 |
| 備考 | 01EK512 と同一。 |
| 授業形態 | 演習 |
| 学位プログラム・コンピテンスとの関係 | マネジメント能力、コミュニケーション能力、チームワーク力、研究力、専門知識、倫理観 |
| 授業の到達目標 (学修成果) | 学生の興味をもつストレスマネジメントシステム開発に関するテーマで、順に発表し、討議しあうことで学習を深める。 |
| 授業計画 | 第 1 回ストレスマネジメントの研究に関する倫理について 第 2 回発表と討議 (ストレス概念について) 第 3 回発表と討議 (ストレスと生体反応) 第 4 回発表と討議 (ストレスと生活習慣) 第 5 回発表と討議 (ストレス関連障害) 第 6 回発表と討議 (性格と健康) 第 7 回発表と討議 (ストレスコーピングについて) 第 8 回発表と討議 (ソーシャルスキルについて) 第 9 回発表と討議 (ストレスマネジメント実践について) 第 10 回総合討論 |
| 履修条件 | 主にストレスマネジメント領域の学生 |
| 成績評価方法 | 授業参加の積極性 (50%)、授業後のレポート (50%) 評価基準 (A+, A, B, C 又は D) |
| 学修時間の割り当て及び授業外における学修方法 | 授業外における学修 (予習・復習等) については、適宜担当教員より指示 |
| 教材・参考文献・配付資料等 | テキスト とくに指定しない 参考図書 小杉正太郎著:「ストレス心理学」(川島書店)2009 |
| オフィスアワー等 (連絡先含む) | 火曜日 17 時~18 時 東京キャンパス 540 電話 03-3942-6453 筑波キャンパス D511 電話 029-853-3971 mizukami.katsuyos.ga at u.tsukuba.ac.jp |

| | |
|-----------------------------------|--|
| その他 (受講生にのぞむことや受講上の注意点等) | 積極的に授業態度を望みます。 |
| 他の授業科目との関連 | 0ATS510 ストレスマネジメントシステム論特講 0ATS512 ストレスマネジメントシステム論演習 2 0ATS513 ストレスマネジメントシステム論実習 0ATS564 ストレスマネジメントシステム研究方法論 IV 0ATS565 ストレスマネジメントシステム研究方法論 V |
| ティーチングフェロー (TF)・ティーチングアシスタント (TA) | 無 |
| キーワード | ストレス, ストレスコーピング, ソーシャルスキル, 生活習慣, 生体反応 |

| | |
|------------------------|---|
| 授業科目名 | ストレスマネジメントシステム論演習 2 |
| 科目番号 | 0ATS512 |
| 単位数 | 2.0 単位 |
| 標準履修年次 | 1・2 年次 |
| 時間割 | 秋 AB 木 7,8 |
| 担当教員 | 水上 勝義 |
| 授業概要 | 学生の興味をもつストレスマネジメントシステム開発に関するテーマで、順に発表し、討議しあうことで学習を深める。職場、学校、家庭、地域などのストレスマネジメントシステムについて、その有効性や課題について、講師陣を前にして各自の研究計画を発表する。講師陣とのインタラクティブなやり取りを通して、課題解決に向けたストレスマネジメントシステムの効果的なモデルの作成について演習する。 |
| 備考 | 01EK513 と同一。 |
| 授業形態 | 演習 |
| 学位プログラム・コンピテンスとの関係 | マネジメント能力、コミュニケーション能力、チームワーク力、研究力、専門知識、倫理観 |
| 授業の到達目標 (学修成果) | 学生の興味をもつストレスマネジメントシステム開発に関するテーマで、順に発表し、討議しあうことで学習を深める。 |
| 授業計画 | 第 1 回ストレスマネジメント研究に関する倫理について 第 2 回発表と討議 (小児・青年期のストレスマネジメント) 第 3 回発表と討議 (老年期のストレスマネジメント) 第 4 回発表と討議 (職域のストレスマネジメント I) 第 5 回発表と討議 (職域のストレスマネジメント II) 第 6 回発表と討議 (ストレスと脳・神経機能) 第 7 回発表と討議 (心身症とうつのストレスマネジメント) 第 8 回発表と討議 (ストレスマネジメント研究の現状と課題) 第 9 回発表と討議 (ストレスマネジメント実践研究) 第 10 回総合討論 |
| 履修条件 | 主にストレスマネジメント領域の学生 |
| 成績評価方法 | 授業参加の積極性 50%, 授業後のレポート 50% 評価基準 (A+, A, B, C 又は D) |
| 学修時間の割り当て及び授業外における学修方法 | 授業外における学修 (予習・復習等) については、適宜担当教員より指示 |
| 教材・参考文献・配付資料等 | テキスト とくに指定しない 参考図書 小杉正太郎著:「ストレス心理学」(川島書店)2009 |
| オフィスアワー等 (連絡先含む) | 火曜日 17 時~18 時 東京キャンパス 540 電話 03-3942-6453 筑波キャンパス D511 電話 029-853-3971 mizukami.katsuyos.ga at u.tsukuba.ac.jp |

| | |
|-----------------------------------|--|
| その他 (受講生にのぞむことや受講上の注意点等) | 積極的な参加第度を望みます。 |
| 他の授業科目との関連 | 0ATS510 ストレスマネジメントシステム論特講 0ATS511 ストレスマネジメントシステム論演習 1 0ATS513 ストレスマネジメントシステム論実習 0ATS564 ストレスマネジメントシステム研究方法論 IV 0ATS565 ストレスマネジメントシステム研究方法論 V |
| ティーチングフェロー (TF)・ティーチングアシスタント (TA) | 無 |
| キーワード | ストレスマネジメント, 職域, 老年期, うつ, 脳機能 |

| | |
|--------------------------|--|
| 授業科目名 | ストレスマネジメントシステム論実習 |
| 科目番号 | 0ATS513 |
| 単位数 | 1.0 単位 |
| 標準履修年次 | 1・2 年次 |
| 時間割 | 通年 随時 |
| 担当教員 | 水上 勝義 |
| 授業概要 | 現場での健康問題や社会問題の解決につながるストレスマネジメントの技能や、ストレスマネジメントシステムの開発技能を習得する。学生の現職経験から導かれるストレスマネジメントの具体的な課題を取り上げ、現職やそれに関連したフィールドワークを通じて、課題解決に向けた情報収集を行い、また課題解決を志向したシステム開発について実習する。 |
| 備考 | 01EK505 と同一。 |
| 授業形態 | 実習・実験・実技 |
| 学位プログラム・コンピテンスとの関係 | コミュニケーション能力、チームワーク力、研究力、専門知識、倫理観 |
| 授業の到達目標 (学修成果) | 現場での健康問題や社会問題の解決につながるストレスマネジメントの技能や、ストレスマネジメントシステムの開発技能を習得する。 |
| 授業計画 | 第 1 回集中 1 リワークデイケアプログラムの計画立案 第 2 回集中 1 リワークデイケアの実践 第 3 回集中 1 リワークデイケア実習の総合討論 第 4 回集中 2 ストレスマネジメント研究の分析 第 5 回集中 2 ストレスマネジメント研究の課題の抽出 第 6 回集中 2 ストレスマネジメント研究の批判的吟味 第 7 回集中 3 ストレス・マネジメント実践の計画立案 第 8 回集中 3 ストレス・マネジメント実践 第 9 回集中 3 ストレス・マネジメント実践の総合討論 |
| 履修条件 | 主にストレスマネジメント領域の学生 |
| 成績評価方法 | 実習参加の積極性 (50%), レポート評価 (50%) 評価基準 (A+, A, B, C 又は D) |
| 学修時間の割り当て及び授業外における学修方法 | 授業外における学修 (予習・復習等) については、適宜担当教員より指示 |
| 教材・参考文献・配付資料等 | テキスト オリジナル資料を配付する 参考図書 特に指定しない |
| オフィスアワー等 (連絡先含む) | 火曜日 17 時~18 時 東京キャンパス 540 電話 03-3942-6453 筑波キャンパス D511 電話 029-853-3971 |
| その他 (受講生にのぞむことや受講上の注意点等) | 積極的な授業態度を望みます。 |

| | |
|-----------------------------------|--|
| 他の授業科目との関連 | 0ATS510 ストレスマネジメントシステム論特講 0ATS511 ストレスマネジメントシステム論演習 1 0ATS512 ストレスマネジメントシステム論演習 2 0ATS564 ストレスマネジメントシステム研究方法論 IV 0ATS565 ストレスマネジメントシステム研究方法論 V |
| ティーチングフェロー (TF)・ティーチングアシスタント (TA) | 必要に応じて任用する |
| キーワード | リワーク, デイケア, ストレスマネジメント |

| | |
|------------------------|--|
| 授業科目名 | コミュニティメンタルヘルス論特講 |
| 科目番号 | 0ATS520 |
| 単位数 | 2.0 単位 |
| 標準履修年次 | 1・2 年次 |
| 時間割 | 秋 AB 水 7,8 |
| 担当教員 | 辻 大士 |
| 授業概要 | 社会的要因や国・地域の環境とメンタルヘルスとの関わりを学習する。さらに、それらの要因について、現状把握 課題設定 手がかり発見 実践・介入 効果検証 プログラム改善を円滑に進める、一連のマネジメントサイクルを学習する。 |
| 備考 | 休講:10/21、補講:未定 01EK521 と同一。 |
| 授業形態 | 講義 |
| 学位プログラム・コンピテンスとの関係 | 知の活用力、マネジメント能力、国際性、研究力、専門知識、倫理観 |
| 授業の到達目標 (学修成果) | メンタルヘルスに関連する社会的要因や国・地域環境に関する知識を習得し、それらの改善を目指すためのマネジメントサイクル技法を習得する。 |
| 授業計画 | <p>第 1 回社会疫学とは (健康の社会的決定要因、ソーシャル・キャピタル、ポピュレーション戦略)</p> <p>第 2 回社会経済的状況とメンタルヘルス (健康格差、所得、教育歴、国際比較研究)</p> <p>第 3 回ライフコースとメンタルヘルス (子どもの貧困、貧困の連鎖、ライフコース・アプローチ)</p> <p>第 4 回労働環境とメンタルヘルス (職業性ストレス、6 つの理論モデル、雇用政策)</p> <p>第 5 回地域のスポーツ環境とメンタルヘルス (スポーツを集団で行う効果、ソーシャル・ネットワーク、マルチレベル分析)</p> <p>第 6 回建造環境とメンタルヘルス (ウォーカビリティ、緑地環境、スタジアム・アリーナ)</p> <p>第 7 回被災地とメンタルヘルス (被災による PTSD・抑うつ、避難所生活、災害レジリエンス)</p> <p>第 8 回マネジメントサイクル 1 (見える化、課題設定、手がかり発見)</p> <p>第 9 回マネジメントサイクル 2 (実践・介入、効果検証、プログラム改善)</p> <p>第 10 回まとめ</p> |
| 履修条件 | 特になし |
| 成績評価方法 | 授業参加の積極性 (50%)、レポート評価 (50%) 評価基準 (A+, A, B, C 又は D) |
| 学修時間の割り当て及び授業外における学修方法 | 授業外における学修 (予習・復習等) については、適宜担当教員より指示 |

| | |
|-----------------------------------|---|
| 教材・参考文献・配付資料等 | テキスト オリジナル資料を配布する 参考図書 リサ・F・バークマン, 他 編 (高尾総司, 他 監訳) 社会疫学・, 2017 |
| オフィスアワー等 (連絡先含む) | 火曜日 17 時~18 時 |
| その他 (受講生にのぞむことや受講上の注意点等) | 説教区的な受講態度を望みません。 |
| 他の授業科目との関連 | 0ATS564 ストレスマネジメントシステム研究方法論 IV 0ATS565 ストレスマネジメントシステム研究方法論 V |
| ティーチングフェロー (TF)・ティーチングアシスタント (TA) | 無 |
| キーワード | メンタルヘルス, 社会疫学, 健康格差, ポピュレーション戦略, 地域づくり, 介護予防, 認知症, ライフコマース, マネジメントサイクル, 被災地支援 |

| | |
|------------------------|---|
| 授業科目名 | ストレスマネジメントシステム研究方法論 IV |
| 科目番号 | 0ATS564 |
| 単位数 | 2.0 単位 |
| 標準履修年次 | 2 年次 |
| 時間割 | 秋 ABC 随時 |
| 担当教員 | 水上 勝義 |
| 授業概要 | 学位論文の作成のための研究計画法、研究方法論、研究分析法、研究結果プレゼンテーション法などについて一般的ガイダンスと具体的指導をおこなう。ストレスマネジメントシステムに関する学生の実践的研究課題に対応しながら、実践的課題解決に向けた研究計画をデザインする。その研究計画に基づいて、フィールドでの介入計画を実施し、そのプログラムの可能性と限界を行動科学的に明らかにする修士論文・特定課題研究報告書の作成を指導する。 |
| 備考 | 01EK516 と同一。 |
| 授業形態 | 演習 |
| 学位プログラム・コンピテンスとの関係 | 知の活用力、研究力 |
| 授業の到達目標 (学修成果) | 学位論文の作成のための研究計画法、研究方法論、研究分析法、研究結果プレゼンテーション法などについて一般的ガイダンスと具体的指導をおこなう。 |
| 授業計画 | 第 1 回オリエンテーション、研究倫理について 第 2 回発表と討議及び指導 各自の実践的研究課題に対応した研究テーマの設定法 第 3 回発表と討議及び指導 研究計画 第 4 回発表と討議及び指導 研究方法論 調査研究法、調査票の作成法 第 5 回発表と討議及び指導 研究方法論 介入研究法、研究デザイン 第 6 回発表と討議及び指導 質的研究 質的分析 第 7 回発表と討議及び指導 量的分析法 ノンパラメトリック検定、パラメトリック検定 第 8 回発表と討議及び指導 研究データの分析法と解釈法 第 9 回発表と討議及び指導 研究成果のプレゼンテーション法 第 10 回成果発表と総合討論 |
| 履修条件 | ストレスマネジメント領域所属の学生 スポーツ健康科学論 I 及び II または III を修得した者 |
| 成績評価方法 | 修士論文あるいは特定課題研究報告書における研究方法論としての充実度を評価する。 評価基準 (A+, A, B, C 又は D) |
| 学修時間の割り当て及び授業外における学修方法 | 授業外における学修 (予習・復習等) については、適宜担当教員より指示 |

| | |
|-----------------------------------|--|
| 教材・参考文献・配付資料等 | テキスト 随時指定する 参考図書 SPSS と Amos による心理・調査データ解析 因子分析・共分散構造分析まで/小塩真司 |
| オフィスアワー等 (連絡先含む) | 火曜日 17 時~18 時 (水上) 東京キャンパス 540 電話 03-3942-6453(水上) mizukami.katsuyos.ga at u.tsukuba.ac.jp |
| その他 (受講生にのぞむことや受講上の注意点等) | 積極的な授業態度を望みます。 |
| 他の授業科目との関連 | 0ATS510 ストレスマネジメントシステム論特講 0ATS511 ストレスマネジメントシステム論演習 1 0ATS512 ストレスマネジメントシステム論演習 2 0ATS513 ストレスマネジメントシステム論実習 0ATS520 コミュニティメンタルヘルス論特講 |
| ティーチングフェロー (TF)・ティーチングアシスタント (TA) | 無 |
| キーワード | ストレスマネジメント, 研究テーマ, 研究計画, 研究方法, 分析, プレゼンテーション |

| | |
|--------------------|--|
| 授業科目名 | ストレスマネジメントシステム研究方法論 V |
| 科目番号 | 0ATS565 |
| 単位数 | 2.0 単位 |
| 標準履修年次 | 2 年次 |
| 時間割 | 春 ABC 随時 |
| 担当教員 | 水上 勝義 |
| 授業概要 | 学位論文の作成のための研究計画法、研究方法論、研究分析法、研究結果プレゼンテーション法などについて一般的ガイダンスと具体的指導をおこなう。ストレスマネジメントシステムに関する学生の実践的研究課題に対応しながら、実践的課題解決に向けた研究計画をデザインする。その研究計画に基づいて、フィールドでの介入計画を実施し、そのプログラムの可能性と限界を行動科学的に明らかにする。修士論文・特定課題研究報告書の作成を指導する。 |
| 備考 | 9 月末修了予定者用 01EK517 と同一。 |
| 授業形態 | 演習 |
| 学位プログラム・コンピテンスとの関係 | 知の活用力、研究力 |
| 授業の到達目標 (学修成果) | 学位論文の作成のための研究計画法、研究方法論、研究分析法、研究結果プレゼンテーション法などについて一般的ガイダンスと具体的指導をおこなう。 |
| 授業計画 | 第 1 回オリエンテーションと研究倫理について 第 2 回発表と討議及び指導 各自の実践的研究課題に対応した研究テーマの設定法 第 3 回発表と討議及び指導 研究計画 第 4 回発表と討議及び指導 研究方法論 調査研究法、調査票の作成法 第 5 回発表と討議及び指導 研究方法論 介入研究法、研究デザイン 第 6 回発表と討議及び指導 質的分析法 第 7 回発表と討議及び指導 量的分析法 ノンパラメトリック検定、パラメトリック検定 第 8 回発表と討議及び指導 研究データの分析法と解釈法 第 9 回発表と討議及び指導 研究成果のプレゼンテーション法 第 10 回総合討論 |
| 履修条件 | ストレスマネジメント領域所属の学生 スポーツ健康科学論 I 及び II または III を修得した、9 月末修了予定者 |
| 成績評価方法 | 修士論文あるいは特定課題研究報告書における研究方法論としての充実度を評価する。 評価基準 (A+, A, B, C 又は D) |

| | |
|---------------------------------|--|
| 学修時間の割り当て及び授業外における学修方法 | 授業外における学修(予習・復習等)については、適宜担当教員より指示 |
| 教材・参考文献・配付資料等 | テキスト 随時指定する 参考文献 SPSS と Amos による心理・調査データ解析 因子分析・共分散構造分析まで/小塩真司 |
| オフィスアワー等(連絡先含む) | 火曜日 17 時~18 時(水上) 東京キャンパス 540 電話 03-3942-6453(水上) mizukami.katsuyos.ga at u.tsukuba.ac.jp |
| その他(受講生にのぞむことや受講上の注意点等) | 積極的な授業態度を望みます。 |
| 他の授業科目との関連 | 0ATS510 ストレスマネジメントシステム論特講 0ATS511 ストレスマネジメントシステム論演習 1 0ATS512 ストレスマネジメントシステム論演習 2 0ATS513 ストレスマネジメントシステム論実習 0ATS520 コミュニティメンタルヘルス論特講 |
| ティーチングフェロー(TF)・ティーチングアシスタント(TA) | 無 |
| キーワード | 研究テーマ, 研究計画, 研究方法, 分析法, プレゼンテーション |

| | |
|------------------------|---|
| 授業科目名 | 生活機能増進法論特講 |
| 科目番号 | 0ATS611 |
| 単位数 | 1.0 単位 |
| 標準履修年次 | 1・2 年次 |
| 時間割 | 秋 C 水 7,8 |
| 担当教員 | 向井 直樹, 白木 仁, 竹村 雅裕, 鎌田 浩史, 福田 崇 |
| 授業概要 | 身体特性を把握し、運動機能の向上に必要な運動プログラムを組み実践できることを目標とする。生活機能病(運動器の障害)に焦点を当て、生涯にわたって生活機能の向上(寝たきりの予防)法の開発やその指導法に関して学習する。臨床スポーツ医学的アプローチを含む。 |
| 備考 | 01EK621 と同一。 |
| 授業形態 | 講義 |
| 学位プログラム・コンピテンスとの関係 | 知の活用力、マネジメント能力、国際性、専門知識 |
| 授業の到達目標(学修成果) | 身体特性を把握し、運動機能の向上に必要な運動プログラムを組み実践できることを目標とする |
| 授業計画 | <p>第 1 回運動と骨代謝 骨代謝の基本と運動の影響について (骨塩量、骨密度、骨成長、男・女性ホルモン、骨粗鬆症、骨軟化症) 担当:向井 直樹</p> <p>第 2 回老化と骨代謝 骨代謝と老化について (骨塩量、骨密度、骨成長、男・女性ホルモン、骨粗鬆症、骨軟化症) 担当:向井 直樹</p> <p>第 3 回運動療法の基礎 運動機能の評価方法の基礎知識について (徒手筋力テスト、歩容評価、単純・複合運動、関節拘縮) 担当:竹村 雅裕</p> <p>第 4 回運動処方と強化 等尺性・等長性運動などの基礎知識 (徒手筋力テスト、歩容評価、単純・複合運動、関節拘縮) 担当:竹村 雅裕</p> <p>第 5 回運動処方と強化 筋の柔軟性の維持と筋力の強化について (段階的トレーニング、腰割運動) 担当:白木 仁</p> <p>第 6 回運動処方と強化 股関節・骨盤を中心に講義する (スクワット運動) 担当:白木 仁</p> <p>第 7 回運動実践 実際の運動現場における日々のコンディション、評価について言及する (筋のコンディショニング) 担当:福田 崇</p> <p>第 8 回運動実践 実際の運動現場における日々のコンディション、評価について言及する (関節のコンディショニング) 担当:福田 崇</p> <p>第 9 回身体特性の評価 身体特性の評価方法について講義する (メディカルチェック、アライメント) 担当:鎌田 浩史</p> <p>第 10 回身体特性の評価 身体特性と傷害についても言及する (関節弛緩性、関節可動域・不安定性) 担当:鎌田 浩史</p> |
| 履修条件 | 特になし |
| 成績評価方法 | レポートによる 評価基準(A+, A, B, C 又は D) |
| 学修時間の割り当て及び授業外における学修方法 | 授業外における学修(予習・復習等)については、適宜担当教員より指示 |

| | |
|-----------------------------------|---|
| 教材・参考文献・配付資料等 | テキスト アスレチックトレーナーのためのスポーツ医学 南光堂 参考図書 プライマリケアー スポーツ医学 理論と実践 西村書店 |
| オフィスアワー等 (連絡先含む) | 東京キャンパス 専攻事務室:電話 03-3942-6365(開始時間等のお問い合わせはこちらへ) |
| その他 (受講生にのぞむことや受講上の注意点等) | 積極的な受講態度を望みます。 |
| 他の授業科目との関連 | |
| ティーチングフェロー (TF)・ティーチングアシスタント (TA) | 無 |
| キーワード | 骨, 筋, 関節, 運動, トレーニング, コンディショニング |

| | |
|------------------------|---|
| 授業科目名 | 健康増進基礎論特講 |
| 科目番号 | 0ATS612 |
| 単位数 | 1.0 単位 |
| 標準履修年次 | 1・2 年次 |
| 時間割 | 春 C 金 7,8 |
| 担当教員 | 大森 肇, 足立 和隆, 前田 清司, 國部 雅大, 松井 崇 |
| 授業概要 | 健康増進の基礎的な知識、理解力、研究能力を高めるためにヒトの心身の形態、機能の自然科学的な知識、研究成果を学ぶ。心身の健康を維持・増進するためには運動、休養、栄養などの知識、研究が必要である。本授業では運動が心身に与える影響を運動解剖学的、スポーツ生理学、生化学、筋生理学、心理学の観点からそれぞれの専門家が概説し健康増進の科学的理解と研究に資することを目的とする。 |
| 備考 | 01EK622 と同一。 |
| 授業形態 | 講義 |
| 学位プログラム・コンピテンスとの関係 | 知の活用力、マネジメント能力、国際性、専門知識 |
| 授業の到達目標 (学修成果) | 健康増進の基礎的な知識, 理解力, 研究能力を高めるためにヒトの心身の形態, 機能の自然科学的な知識, 研究成果を学ぶ |
| 授業計画 | <p>第 1 回運動と代謝 (急性運動に伴う応答、慢性運動による適応) 担当:大森 肇</p> <p>第 2 回代謝疾患に対する運動療法 (肥満、高脂血症、糖尿病) 担当:大森 肇</p> <p>第 3 回運動と知覚 (知覚と運動の相互作用、視覚心理) 担当:國部 雅大</p> <p>第 4 回運動と脳機能 (運動と脳、脳の可塑性、注意、認知機能) 担当:國部 雅大</p> <p>第 5 回持久性能力と脳 (長時間運動、グリコーゲン、中枢疲労) 担当:松井 崇</p> <p>第 6 回認知機能と運動 (適度な運動、軽運動、海馬、前頭前野) 担当:松井 崇</p> <p>第 7 回運動と血管 (動脈硬化度、有酸素性運動、筋力トレーニング) 担当:前田 清司</p> <p>第 8 回生活習慣と血管 (動脈硬化度、食事、運動、遺伝) 担当:前田 清司</p> <p>第 9 回運動器 (骨格系、筋系、神経系) の基礎 (運動の起こるしくみ、骨の役割、筋収縮、運動神経) 担当:足立 和隆</p> <p>第 10 回ヒトの特性 (進化、成長、加齢) (ヒトの進化、直立二足歩行、省エネ生物) 担当:足立 和隆</p> |
| 履修条件 | 特になし |
| 成績評価方法 | レポートにより評価する 評価基準 (A+, A, B, C 又は D) |
| 学修時間の割り当て及び授業外における学修方法 | 授業外における学修 (予習・復習等) については、適宜担当教員より指示 |

| | |
|-----------------------------------|---|
| 教材・参考文献・配付資料等 | テキスト 特に指定しない 参考図書 随時紹介する |
| オフィスアワー等 (連絡先含む) | つくばキャンパス A302 電話 029-853-2676(大森) 東京キャンパス 専攻事務室:電話 03-3942-6365(開始時間等のお問い合わせはこちらへ) |
| その他 (受講生にのぞむことや受講上の注意点等) | 積極的な受講態度を望みます。 |
| 他の授業科目との関連 | |
| ティーチングフェロー (TF)・ティーチングアシスタント (TA) | 無 |
| キーワード | |

| | |
|--------------------|---|
| 授業科目名 | 健康社会論 |
| 科目番号 | 0ATS613 |
| 単位数 | 1.0 単位 |
| 標準履修年次 | 1・2 年次 |
| 時間割 | 春 C 集中 |
| 担当教員 | 武田 文, 門間 貴史 |
| 授業概要 | 地域・職域における健康問題とその心理社会的要因および保健政策・保健サービス事業について学び、健康問題解決への社会的アプローチを理解する乳幼児期～高齢期までの各ライフステージにおける健康問題を、家庭・地域・職場など生活領域別にとりあげ、各問題と社会環境要因との関わりを論じる。そして問題解決に必要な社会的支援策のあり方について、公衆衛生の観点から解説する。 |
| 備考 | 集中講義 9:30～ 01EK623 と同一。 7/4,7/11 |
| 授業形態 | 講義 |
| 学位プログラム・コンピテンスとの関係 | 知の活用力、マネジメント能力、国際性、専門知識 |
| 授業の到達目標 (学修成果) | 地域・職域における健康問題とその心理社会的要因および保健政策・保健サービス事業について学び、健康問題解決への社会的アプローチを理解する |
| 授業計画 | 第 1 回健康に関わる概念と理論 (1) (健康, 予防, ICF, 医学モデル, 社会モデル) 担当:武田 文 第 2 回健康に関わる概念と理論 (2) (疾病生成論, 健康生成論, ヘルスプロモーション) 担当:武田 文 第 3 回健康課題の現状 (1) (少子高齢社会, 疾病構造と死亡構造) 担当:門間 貴史 第 4 回健康課題の現状 (2) (健康寿命, 生活習慣, 精神健康) 担当:門間 貴史 第 5 回保健医療政策 (健康日本 21, 一次予防, 特定健診) 担当:門間 貴史 第 6 回地域保健 (1) (老人保健サービス, 介護保険サービス) 担当:門間 貴史 第 7 回地域保健 (2) (中高齢者の健康づくり, 身体活動と健康) 担当:門間 貴史 第 8 回地域保健 (3) (健やか親子 21, 育児支援, 母子保健事業) 担当:武田 文 第 9 回産業保健 (1) (労働安全法, 労働安全衛生法, 健康職場モデル) 担当:武田 文 第 10 回産業保健 (2) (働き方と健康, ストレスとメンタルヘルス対策) 担当:武田 文 |
| 履修条件 | 特になし |
| 成績評価方法 | 課題レポートによる 評価基準 (A+, A, B, C 又は D) |

| | |
|---------------------------------|--|
| 学修時間の割り当て及び授業外における学修方法 | 授業外における学修(予習・復習等)については、適宜担当教員より指示 |
| 教材・参考文献・配付資料等 | テキスト 新・生き方としての健康科学. 山崎喜比古監修、朝倉隆司編、有信堂高文社、2017 参考図書 授業中に適宜資料を配布する。 |
| オフィスアワー等(連絡先含む) | 月曜日 11:30~12:00 つくばキャンパス D509 電話 029-853-3996(武田) Email:takeda.fumi.fe@u.tsukuba.ac.jp 東京キャンパス 専攻事務室:電話 03-3942-6365(開始時間等のお問い合わせはこちらへ) |
| その他(受講生にのぞむことや受講上の注意点等) | 積極的な受講態度を望みます。 |
| 他の授業科目との関連 | |
| ティーチングフェロー(TF)・ティーチングアシスタント(TA) | 無 |
| キーワード | 健康, ヘルスプロモーション, 保健政策 |

| | |
|------------------------|---|
| 授業科目名 | 健康支援の理論と実践 |
| 科目番号 | 0ATS614 |
| 単位数 | 1.0 単位 |
| 標準履修年次 | 1・2 年次 |
| 時間割 | 春 B 金 7,8 |
| 担当教員 | 大森 肇, 坂入 洋右, 木塚 朝博, 麻見 直美, 大藏 倫博 |
| 授業概要 | 国民の健康の保持・増進に向けた理論と実際現場での具体的な支援のあり方について学習する。集団や個人を対象として、各種の疾患や健康段階、ライフステージにおける課題解決に向けたさまざまな健康支援方法の理論と実践について概説するとともに、その具体的事例について講義する。 |
| 備考 | 01EK624 と同一。 |
| 授業形態 | 講義 |
| 学位プログラム・コンピテンスとの関係 | 知の活用力、マネジメント能力、国際性、専門知識 |
| 授業の到達目標 (学修成果) | 国民の健康の保持・増進に向けた理論と実際現場での具体的な支援のあり方について学習する。 |
| 授業計画 | <p>第 1 回言語発達に及ぼす模倣運動の影響 (言語発達 模倣運動 ブローカ野) 担当:大森 肇</p> <p>第 2 回心を育て頭を活かす上手な身体の使い方 (環境 抗ストレス 加齢 認知機能) 担当:大森 肇</p> <p>第 3 回身心のセルフコントロール法の理論と実際 (自律訓練法、呼吸法、気分の自己調整) 担当:坂入 洋右</p> <p>第 4 回カウンセリングの理論と実際 (健康心理学、心理療法、力動・認知行動) 担当:坂入 洋右</p> <p>第 5 回幼少年期における体育活動と運動遊び (滞育症候群、小児肥満、ヨンマ、意欲) 担当:木塚 朝博</p> <p>第 6 回発育発達期におけるパフォーマンスの測定評価 (デュアルタスク、リテラシー、コンピテンシー) 担当:木塚 朝博</p> <p>第 7 回各ライフステージに於ける食生活サポートの実際 (骨を Key Word として)1 担当:麻見 直美</p> <p>第 8 回各ライフステージに於ける食生活サポートの実際 (骨を Key Word として)2 担当:麻見 直美</p> <p>第 9 回肥満・メタボリックシンドローム予防の理論と実践 (内臓脂肪、減量、運動実践、食事改善) 担当:大藏 倫博</p> <p>第 10 回高齢者における介護予防の理論と実践 (生活機能、転倒予防、認知症予防) 担当:大藏 倫博</p> |
| 履修条件 | 特になし |
| 成績評価方法 | レポートによる 評価基準 (A+, A, B, C 又は D) |
| 学修時間の割り当て及び授業外における学修方法 | 授業外における学修 (予習・復習等) については、適宜担当教員より指示 |

| | |
|-----------------------------------|--|
| 教材・参考文献・配付資料等 | <p>テキスト 特に指定しない</p> <p>参考図書 中高年者の疾病予防・改善のための運動プログラム 田中・牧田 ナップ 2010 中高年者の元気長寿のための運動プログラム 田中ほか ナップ 2010 健康づくりのための体力測定評価法 田中ほか 金芳堂 2007</p> |
| オフィスアワー等 (連絡先含む) | <p>つくばキャンパス A302 電話 029-853-2676(大森) 東京キャンパス 専攻事務室:電話 03-3942-6365(開始時間等のお問い合わせはこちらへ)</p> |
| その他 (受講生にのぞむことや受講上の注意点等) | <p>積極的な受講態度を望みます。</p> |
| 他の授業科目との関連 | |
| ティーチングフェロー (TF)・ティーチングアシスタント (TA) | <p>無</p> |
| キーワード | |

| | |
|--------------------|--|
| 授業科目名 | ヒューマン・ケア科学概論 |
| 科目番号 | 0ATS615 |
| 単位数 | 1.0 単位 |
| 標準履修年次 | 1・2 年次 |
| 時間割 | 秋 B 金 7,8 |
| 担当教員 | 近藤 正英, 柳 久子, 森田 展彰, 水野 智美, 伊藤 智子 |
| 授業概要 | 人を支援する課題に向けて、高齢者ケアリング学・社会精神保健学・生活支援学・保健医療政策学・福祉医療学など専門性の高い領域が連携し学問的な融合を目指すヒューマン・ケア科学の幅広い視座から、特にヘルスプロモーションに注目し医学・福祉学・保健学・看護学の理論と実践を学習する。実学としてのヒューマン・ケア科学について、その理論とアプローチの効果を概説する。また、子どもから高齢者の健康生活上の問題や虐待、生活リズムの変調、うつや自殺に関連する事項をとりあげ、人々の心身の安寧を脅かす現象を概説する。さらに障害福祉について諸外国の現状を比較すると共に、保健医療政策への応用としての経済学や今日的な課題についての生命倫理を講義する。 |
| 備考 | 01EK625 と同一。 |
| 授業形態 | 講義 |
| 学位プログラム・コンピテンスとの関係 | 知の活用力、マネジメント能力、国際性、専門知識 |
| 授業の到達目標 (学修成果) | 人を支援する課題に向けて、生活支援学・福祉医療学・社会精神保健学・ヘルスサービスリサーチ・保健医療政策学など専門性の高い領域が連携し学問的な融合を目指すヒューマン・ケア科学の幅広い視座から、特にヘルスプロモーションに注目し医学・看護学・保健学・福祉学の理論と実践を学習する。 |
| 授業計画 | 第 1 回ヒューマン・ケア科学概論オリエンテーション、ヒューマン・ケア経済学 (経済学、医療、政策) 担当:近藤 正英 第 2 回 # 担当:近藤 正英 第 3 回保健・医療・福祉分野における生命倫理 (出生前診断、遺伝子検査ビジネス、リビングウィル、臓器移植) 担当:柳 久子 第 4 回 # 担当:柳 久子 第 5 回子ども虐待・DV への介入と援助 (子ども、虐待、DV、介入、ケア) 担当:森田 展彰 第 6 回 # 担当:森田 展彰 第 7 回高齢者ケアとヘルスサービスリサーチ (高齢者介護、介護者支援、介護保険、二次データ分析) 担当:伊藤 智子 第 8 回 # 担当:伊藤 智子 第 9 回バリアフリーと QOL の向上、各国の障害福祉の実情 (バリアフリー、障害のある者、QOL、障害福祉) 担当:水野 智美 第 10 回 # 担当:水野 智美 |
| 履修条件 | 特になし |
| 成績評価方法 | 1. 授業参加の積極性を評価する, 2. レポートの成績を評価する (授業参加 20%、レポート 80%) |

| | |
|-----------------------------------|--|
| | 評価基準 (A+, A, B, C 又は D) |
| 学修時間の割り当て及び授業外における学修方法 | 授業外における学修 (予習・復習等) については、適宜担当教員より指示 |
| 教材・参考文献・配付資料等 | テキスト 特に定めない 参考図書 ヒューマン・ケア科学への招待、他、授業の進度に応じて紹介する |
| オフィスアワー等 (連絡先含む) | 随時 電子メール等で事前に連絡 つくばキャンパス 総合研究棟 D710 (近藤) 電話 029-853-5904 メール mkondo@md.tsukuba.ac.jp 近藤 正英 mkondo at md.tsukuba.ac.jp http://www.hcs.tsukuba.ac.jp/09_hoken.html#4 東京キャンパス 専攻事務室:電話 03-3942-6365(開始時間等のお問い合わせはこちらへ) |
| その他 (受講生にのぞむことや受講上の注意点等) | 積極的な受講態度を望みます。 |
| 他の授業科目との関連 | |
| ティーチングフェロー (TF)・ティーチングアシスタント (TA) | 無 |
| キーワード | 経済学, 医療, 政策, 出生前診断, 遺伝子検査ビジネス, リヴィングウィル, 臓器移植, 子ども, 虐待, DV, 介入, ケア, 高齢者介護, 介護者支援, 介護保険, 二次データ分析, バリアフリー, 障害のある者, QOL, 障害福祉 |

| | |
|------------------------|--|
| 授業科目名 | スポーツ健康統計学特講 |
| 科目番号 | 0ATS616 |
| 単位数 | 1.0 単位 |
| 標準履修年次 | 1・2 年次 |
| 時間割 | 夏季休業中 集中 |
| 担当教員 | 大藏 倫博 |
| 授業概要 | ヒストグラム、正規分布、平均値、標準偏差、相関分析について理解することを目標とする。統計学の初心者の理解を促進するために、ヒストグラム、正規分布、平均値、標準偏差、相関分析などスポーツ健康統計学の基礎について、演習・実習形式の授業を取り入れつつ具体的に学ぶ。 |
| 備考 | 集中講義 10:00~ 01EK607 と同一。 8/8,9/5 |
| 授業形態 | 講義 |
| 学位プログラム・コンピテンスとの関係 | 知の活用力、マネジメント能力、国際性、専門知識 |
| 授業の到達目標 (学修成果) | ヒストグラム、正規分布、平均値、標準偏差、期待値、相関分析、データ収集の方法について理解する |
| 授業計画 | 第 1 回ヒストグラム 第 2 回正規分布 第 3 回平均値と標準偏差 第 4 回期待値 第 5 回前半のまとめ 第 6 回相関分析の概要 第 7 回相関分析のためのデータ収集 第 8 回相関分析のための散布図の作成 第 9 回相関係数の算出方法 第 10 回相関分析のまとめ |
| 履修条件 | 特になし |
| 成績評価方法 | 演習課題の成績によって評価する 評価基準 (A+, A, B, C 又は D) |
| 学修時間の割り当て及び授業外における学修方法 | 授業外における学修 (予習・復習等) については、適宜担当教員より指示 |
| 教材・参考文献・配付資料等 | テキスト 特に定めない 参考図書 1) 市原清志:バイオサイエンスの統計学, 南江堂 (テキスト) 2) 大澤清二:生活統計の基礎知識, 家政教育社 3) 松浦義行:体育・スポーツ科学のための統計学, 朝倉書店 4) 辻 新六他:アンケート調査の方法, 朝倉書店 5) 田中 敏他:教育・心理統計と実験計画法, 教育出版 6) 豊田秀樹他:原因をさぐる統計学, 講談社ブルーバックス 7) 出村慎一 監修、山下秋二 佐藤進 編著:健康・スポーツのための調査研究法, 杏林書院 |
| オフィスアワー等 (連絡先含む) | 月曜日の 17 時~18 時 つくばキャンパス A608 電話 029-853-2733 東京キャンパス 専攻事務室:電話 03-3942-6365(開始時間等のお問い合わせはこちらへ) |

| | |
|-----------------------------------|-------------------------------|
| その他 (受講生にのぞむことや受講上の注意点等) | 積極的な受講態度を望みます。 |
| 他の授業科目との関連 | |
| ティーチングフェロー (TF)・ティーチングアシスタント (TA) | 無 |
| キーワード | ヒストグラム, 正規分布, 平均値, 標準偏差, 相関分析 |

| | |
|------------------------|---|
| 授業科目名 | 質的研究基礎論 |
| 科目番号 | 0ATS617 |
| 単位数 | 1.0 単位 |
| 標準履修年次 | 1・2 年次 |
| 時間割 | 秋 A 集中 |
| 担当教員 | 橋爪 祐美 |
| 授業概要 | 質的研究の基本的理解として、発展の背景・経緯等を学習する。今回は質的研究の中でグラウンデッド・セオリーを取り上げ、受講者の課題等をもとにビギナーレベルのデータ収集および分析法について学習する。 |
| 備考 | 01EK631 と同一。 10/17,10/18 |
| 授業形態 | 講義 |
| 学位プログラム・コンピテンスとの関係 | 知の活用力、研究力 |
| 授業の到達目標 (学修成果) | (1) 高齢者ケアリング学の今日的課題をさまざまな観点から論じることができる。 (2) 高齢者ケアリング学に関わる研究手法を概観することができる。 (3) 質的研究法のグラウンデット・セオリー法の概要を理解できる。 (4) グラウンデット・セオリー法について、ビギナーレベルでインタビューを理解し、試行できる。 (5) グラウンデット・セオリー法について、ビギナーレベルのデータ分析を手掛けることができる。 (6) 分析結果について発表し、フィードバックを得ることが出来る。 |
| 授業計画 | 第 1 日 1) 質的研究について概説 2) グループワーク:学生間でできるインタビューの計画 (テーマ、対象検討、質問応答) 第 2 日 1) インタビュー計画発表、担教員よりフィードバック 2) グループに分かれてインタビュー、逐語録作成、分析 3) 2) の発表と担当教員からのフィードバック |
| 履修条件 | 特になし |
| 成績評価方法 | 1 評価方法:授業中に提示するプロジェクト (レポート) の講義時間終了時間内の提出。 インタビューとデータ分析結果のプレゼンテーションとディスカッションの内容。 2 レポート提出 40%、プレゼンテーション 30%、ディスカッションの内容 30% 3 評価基準 (A+, A, B, C 又は D)。 |
| 学修時間の割り当て及び授業外における学修方法 | 授業外における学修 (予習・復習等) については、適宜担当教員より指示 |
| 教材・参考文献・配付資料等 | 1. パーンズ・グローブ, Burns, N. & Grove, S K.,「看護研究入門」エルゼビア・ジャパン (2007),The practice of Nursing Research. Saunders. 5th edition. 2004 2. 南裕子監訳、操華子・森岡崇・志自岐康子・竹崎久美子訳,「質的研究の基礎」医学書院 (1999) 3. Strauss, S. & Corbin, J.,Basics of Qualitative Research: Grounded Theory Procedures and Techniques. Sage Publications. 1999 4. 橋爪祐美 Yumi Hashizume, 高齢者ケアリング学研究会誌 Vol.2, No.1, 2011:初心者のための質的研究ナビゲーション (連載)Journal of Gerontological Nursing and Caring Research Vol.2, No.1, 2011~ |
| オフィスアワー等 (連絡先含む) | 筑波キャンパス 総合研究棟 D420、水曜日、14:00-16:00 随時 (それ以外の日時を希望する場合は、前もって e-mail で連絡のこと) 橋爪祐美 hashizume.yumi.gu@u.tsukuba.ac.jp 東京キャンパス連絡先 |

| | |
|-----------------------------------|----------------|
| その他 (受講生にのぞむことや受講上の注意点等) | 積極的な受講態度を望みます。 |
| 他の授業科目との関連 | |
| ティーチングフェロー (TF)・ティーチングアシスタント (TA) | 無 |
| キーワード | |